3-990-975-**04**(1)

# プロフェッショナル ディスクレコーダー

## 取扱説明書

**お買い上げいただきありがとうございます。**

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

PDW-70MD

# 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

6～8ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

## 定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

## 故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

## 万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したときは

↓

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

### 警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**⚠警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

**⚠注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

**注意を促す記号**

火災

感電

注意

**行為を禁止する記号**

禁止

分解禁止

**行為を指示する記号**

アース線を接続せよ

指示

# 目次



## 第 1 章　概要



## 第 2 章　準備



## 第 3 章　記録・再生

## 第 4 章　シーンセレクション



## 第 5 章　ファイル操作

## 第 6 章　メニュー



## 付録

## ⚠警告

下記の注意を守らないと、
**火災**や**感電**により**死亡**や**大けが**に
つながることがあります。

## ⚠注意

下記の注意を守らないと、
**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を
与えることがあります。

禁止

### 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 設置時に、製品と壁やラック、棚などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

禁止

### 油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。
取扱説明書に記されている仕様条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。

指示

### 電源コードのプラグおよびコネクターは突き当たるまで差し込む

真っ直ぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

指示

### 指定の電源コードを使用する

指定以外の電源コードを使用すると、火災や感電の原因となります。
他の電源コードを使用する場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

禁止

### 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 壁から 10cm 以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物 ( じゅうたんや布団など ) の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

禁止

### 不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。
本機を縦置きするときは、付属のスタンドを使用してください。付属のスタンドを使用しないと、本機が倒れてけがをすることがあります。

禁止

### 製品の上に乗らない、重い物を載せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

### 運搬するときは、取っ手を持つ

取っ手以外のところを持って運ぶと、製品が落下してけがの原因となることがあります

### 安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。
次の方法でアースを接続してください。

- 電源コンセントが３極の場合
  指定の電源コードを使用することで安全アースが接続されます。
- 電源コンセントが２極の場合
  別売りの３極→２極変換プラグを使用し、変換プラグから出ている緑色のアース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。

安全アースを取り付けることができない場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

### コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは、足に引っかけると本機の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。十分注意して接続・配置してください。

### ファンが止まったままの状態で使用しない

ファンモーターが故障すると、火災の原因となることがあります。
交換は、本機を購入された販売店にご依頼ください。

### 分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。
内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

### 内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

## その他の安全上のご注意

### 重要

機器の名称と電気定格は、底面に表示されています。

### 警告

イヤホンやヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

### 注意

- 日本国内で使用する電源コードセットは、電気用品安全法で定める基準を満足した承認品が要求されます。ソニー推奨の電源コードセットをご使用ください。
- 電源を完全に切り離す場合には、後面の POWER スイッチをお切りください。

### 別売りの 3 極 →2 極変換プラグを使うときのご注意

アースの接続は、必ず電源プラグを電源コンセントへ接続する前に行ってください。
アースの接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

### 設置上のご注意

- 設置時には、通気やサービス性を考慮して設置スペースを確保してください。
  - ファンの排気部や通気孔（側面）をふさがない。
  - 通気のために、セット周辺に空間をあける。
  - 作業エリアを確保するため、セット後方は、10cm 以上の空間をあける。
- 机上などの平面に設置する場合は、左側面および右側面は 5cm 以上の空間をそれぞれ確保してください。
- 機器を水滴のかかる場所に置かないでください。また水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。

### レーザー機器についての注意

ここに規定した以外の手順による制御および調整は、危険なレーザー放射の被爆をもたらします。

### レーザー特性

| | |
|---|---|
| 波長 | ：403 ～ 410nm |
| 発振形態 | ：連続 |
| レーザー出力 | ：65mW（max. of pulse peak）、<br>35mW（max. of CW） |

## 電池についての安全上のご注意

電池の使いかたを誤ると、液漏れ・発熱・破裂・発火・誤飲による大けがや失明の原因となるので、次のことを必ず守ってください。
ここでは、本機で使用可能な（コイン型）リチウム電池についての注意事項を記載しています。

### ⚠警告

- 乳幼児の手の届かないところに置く。
- 電池は充電しない。
- 火の中に入れたり、加熱・分解・改造をしない。
- 電池の（＋）と（－）を正しく入れる。
- 電池の液が目に入ったときは、失明の原因となるので、こすらずにすぐに水道水などのきれいな水で充分に洗った後、医師の治療を受ける。
- 電池の液をなめた場合には、すぐにうがいをして医師に相談する。
- ショートの原因となるので、金属製のネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しない。
- 電池に液漏れや異臭があるときは、すぐに火気から遠ざける。
- 電池に直接はんだ付けをしない。
- 電池を保管する場合および廃棄する場合は、テープなどで端子（金属部分）を絶縁する。
- 皮膚に障害を起こすおそれがあるので、テープなどで貼り付けない。

### ⚠注意

- 電池を落下させたり、強い衝撃を与えたり、変形させたりしない。
- 直射日光の強いところや炎天下の車内などの高温・多湿の場所で使用、放置、保管しない。
- 電池を水で濡らさない。
- ショートさせないように機器に取り付ける。

# 概要 第1章

## 特長

PDW-70MDは、プロフェッショナルディスク[1]を採用した、HD対応のプロフェッショナルディスクレコーダーです。
ノンリニア編集システムと組み合わせて使用するときは、FAM[2]機能により、i.LINK接続したコンピューターとファイル化したデータの授受が可能で、コンピューターの外部ドライブのような感覚で操作することができます。標準装備のHDSDI入出力端子を介して、HDSDIインターフェースを装備した従来のノンリニア編集機器、モニター、ビデオ機器などと接続できます。また、カラー液晶ディスプレイを搭載しているため、別途モニターを用意しなくても映像の確認やメニュー操作が可能です。

1) プロフェッショナルディスクはソニー株式会社の商標です。
2) file access mode：ファイルアクセスモード

### 本機の特長

本機の主な特長は以下のとおりです。

#### MPEG HD[1]コーデックの採用

**高画質・高音質記録再生**

MPEG HDコーデックは、ビデオ圧縮方式としてMPEG-2 MP@HLに準拠し、多くの放送局で実際に使用されている1080i (有効走査線数1,080本インターレース) でのHD4:2:0デジタルコンポーネントファイル記録を可能にしています。また、音声は、16ビット、48kHzの非圧縮でのPCM記録方式により、広いダイナミックレンジ、高S/Nなど高音質を実現しています。

1) MPEG HDはソニー株式会社の商標です。

**用途に応じて選択可能なビデオビットレート / オーディオチャンネル**

ビデオビットレートとして、35Mbps（HQ：高画質モード）、25Mbps（SP：標準モード）、18Mbps（LP：長時間モード）の3つのモードを用意しています。用途に応じて適切なモードを選択することができます。オーディオは、2チャンネルモードまたは4チャンネルモードを選択できます。さらに、オーディオチャンネルモードが同じであれば、1枚のディスクの中に異なるビデオビットレートのファイルを混在させることができます。

#### 充実の記録・再生機能

**マルチフレーム周波数対応**

1080/59.94i（60Iと表示）、50i （50Iと表示）、29.97PsF（30Pと表示）、25PsFの4種類のフレーム周波数で記録・再生が可能です。

**HDダウンコンバート機能**

本機はダウンコンバート機能を搭載しています。HDディスク再生時でも、SDにダウンコンバートすることによりSDSDI、コンポジット、i.LINK（DV）出力が可能です。この機能により、マスター作成時はHD環境で撮影 / 記録を行い、編集や送出時にはSD環境でノンリニア編集機やモニターを使用することができます。

**DVCAMアップコンバート機能**

本機は、アップコンバート機能を搭載し、DVCAMディスク再生時もHDにアップコンバートしてHDSDI信号を出力することができます。

**プロキシAVデータ記録**

プロキシAVデータはMPEG-4を用いた低解像度データです（映像1.5Mbps、音声各チャンネル64kbps）。本機では、MPEG HDでの高解像度データを記録するときに、低解像度のプロキシAVデータを同時に自動生成して記録します。プロキシAVデータはデータサイズが小さいため、コンピューターやネットワークに高速で転送することが可能で、記録に必要なストレージ容量を著しく圧縮できます。この特性を生かし、ノートコンピューターによる編集[1]や、安

価で小規模なサーバーでのコンテンツ管理など、多様なアプリケーションを容易に実現できます。

1) 付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を利用して簡単な EDL（編集リスト）を作成することが可能。



### 多彩なインターフェースに対応

以下のインターフェースに対応しています。

**HDSDI：**HD デジタルビデオおよびエンベデッドオーディオ信号（4 チャンネル）の入出力が可能です。

**SDSDI：**SD コンポーネントデジタルビデオおよびエンベデッドオーディオ信号（4 チャンネル）の出力が可能です。

**AES/EBU：**AES/EBU シリアルデジタルオーディオ信号（4 チャンネル）の入出力が可能です。

**i.LINK(AV/C)：**DV フォーマットのデジタルビデオおよびオーディオ信号（4 チャンネル）を出力できます。

**アナログビデオ：**HD アナログコンポーネント（RGB または YPbPr）、および SD コンポジット信号の出力が可能です。

**アナログオーディオ：**入力 2 チャンネル、出力 2 チャンネル（1/2 または 3/4）を装備しています。

## ディスクの特性を生かした便利な再生 / 検索機能

### サムネイルサーチ

記録開始、停止のたびに 1 つのクリップが独立したファイルとして生成されます。生成されたクリップの先頭フレームを各クリップのサムネイルとして使用します。
カラー液晶表示部または外部モニターに、サムネイルの一覧を瞬時に表示することができ、サムネイルから希望のクリップを頭出しすることができます。

### エッセンスマークサーチ

動画記録中または記録終了後、任意のシーンにエッセンスマークを記録することができます。カラー液晶表示部または外部モニターに、エッセンスマークの記録されたフレームを一覧表示することができます。エッセンスマークは、記録終了後に付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を使って追加することもできます。

### エクスパンド機能

サムネイル一覧表示で選択したクリップを時間で 12 分割し、分割されたそれぞれの先頭フレームをさらにサムネイルとして一覧表示することができます。この機能によりクリップ内の探したいシーンをすばやく検索できます。最大 3 回まで（1728 分割）のフレーム画の一覧表示が可能です。

### シーンセレクション

ディスク内の必要なクリップを選択してクリップリストを作成し、任意の順序で再生することができます。一枚のディスクには最大 99 個までのクリップリストを保存することができます。

## IT フレンドリー機能

### コンピューターからのファイルアクセス（file access mode）

ビデオとオーディオのクリップデータは、それぞれファイル化してディスクに記録されます。ファイル化されたデータは、FAM 機能を使って読み出し / 書き込みすることができます。プロフェッショナルディスクに記録された映像、音声およびメタデータ [1] のファイルは、ファイルリストに一覧表示することができます。また、FAM 機能を使って、ファイルを高速転送したり、コンピューターの画面上にクリップのサムネイルを表示することもできます。

1) XDCAM では、ビデオ・オーディオデータとともに、撮影日時や編集者の情報、記録方式、素材へのメモなどのさまざまな関連情報も記録しておくことができます。これらのデータは、以下のように応用できます。
- 付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を利用して、ディスクやタイトル、コメントなどのテキストデータを付加することができます。
- ビデオ制作の各工程（編集やアーカイブ）において、映像や音声データの必要なシーンをメタデータで検索することにより、作業効率の向上を実現します。

## その他の特長

### ジョグ / シャトルダイヤルによる高速サーチ

従来の VTR と同様に、ジョグ / シャトルダイヤルを使用したクリップ内の特定のシーンを検索することができます。ジョグ / バリアブルモードでは －1 倍速から＋2 倍速でのフィールド単位のコマ送りサーチが可能です。シャトルモードでは最大 ± 20 倍速の高速サーチが可能です。

### 多彩なリモートコントロールが可能

- 赤外線シンプルリモートコマンダー（付属）
- RS-232C 9 ピンリモートコントロール
- RS-422A 9 ピンリモートコントロール
- ミニジャック 4 極リモートコントロール

### カラー液晶ディスプレイ

16:9 の 3.5 インチ型カラー液晶ディスプレイを搭載し、ディスクの記録内容やメニュー設定を表示することができます。

## オプションボード PDBK-101/102/103/104 の特長

以下のオプションボードを装着することにより、機能やインターフェースを拡張することができます。

**ご注意**

- オプションボードの取り付けはお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
- 最大 2 つのオプションボードを装着できますが、その組み合せには制限があります。
- オプションスロット 1：PDBK-101
- オプションスロット 2：PDBK-102 、PDBK-103、PDBK-104 のいずれか 1 枚

### ネットワークボード（ギガビットイーサネット）PDBK-101

本機に装着することにより、ギガビットイーサネット端子が追加され、ディスク内のファイルをネットワーク経由で転送したり、外部機器から MXF（Material eXchange Format）形式の互換ファイルをディスクに記録することができます。
また、FTP コマンドを使って、外部から本機をコントロールすることができます。

### MPEG-TS INPUT/OUTPUT（入 / 出力）ボード PDBK-102

本機に装着することにより、標準装備されている i.LINK 端子の機能を拡張し、HDV [1]1080i [2] フォーマット互換の TS [3] 信号入出力インターフェースとして使用できるようにします。
ディスクに記録された HD ファイルを、HDV1080i フォーマット互換の TS 信号に変換して HDV 機器や HDV 対応編集機に転送したり、HDV 機器や HDV 対応編集機からの TS 信号を MPEG HD 互換ファイルに変換して本機で記録することができます。

1) HDV および HDV はソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。
2) HDV1080i：DV テープを用いた HD 記録フォーマット『HDV1080i 規格』に準拠した HD 機器。有効ラインが 1080 本。
3) TS：MPEG-2 トランスポートストリーム。MPEG ビデオ、MPEG オーディオ、制御情報などが含まれる。HDV 機器の標準インターフェース。

### アナログ HD 入力ボード PDBK-103

本機に装着することにより、アナログ HD コンポーネント入力端子が追加され、アナログ HD コンポーネント入力信号（RGB または YPbPr、Sync）をディスクに記録することができます。

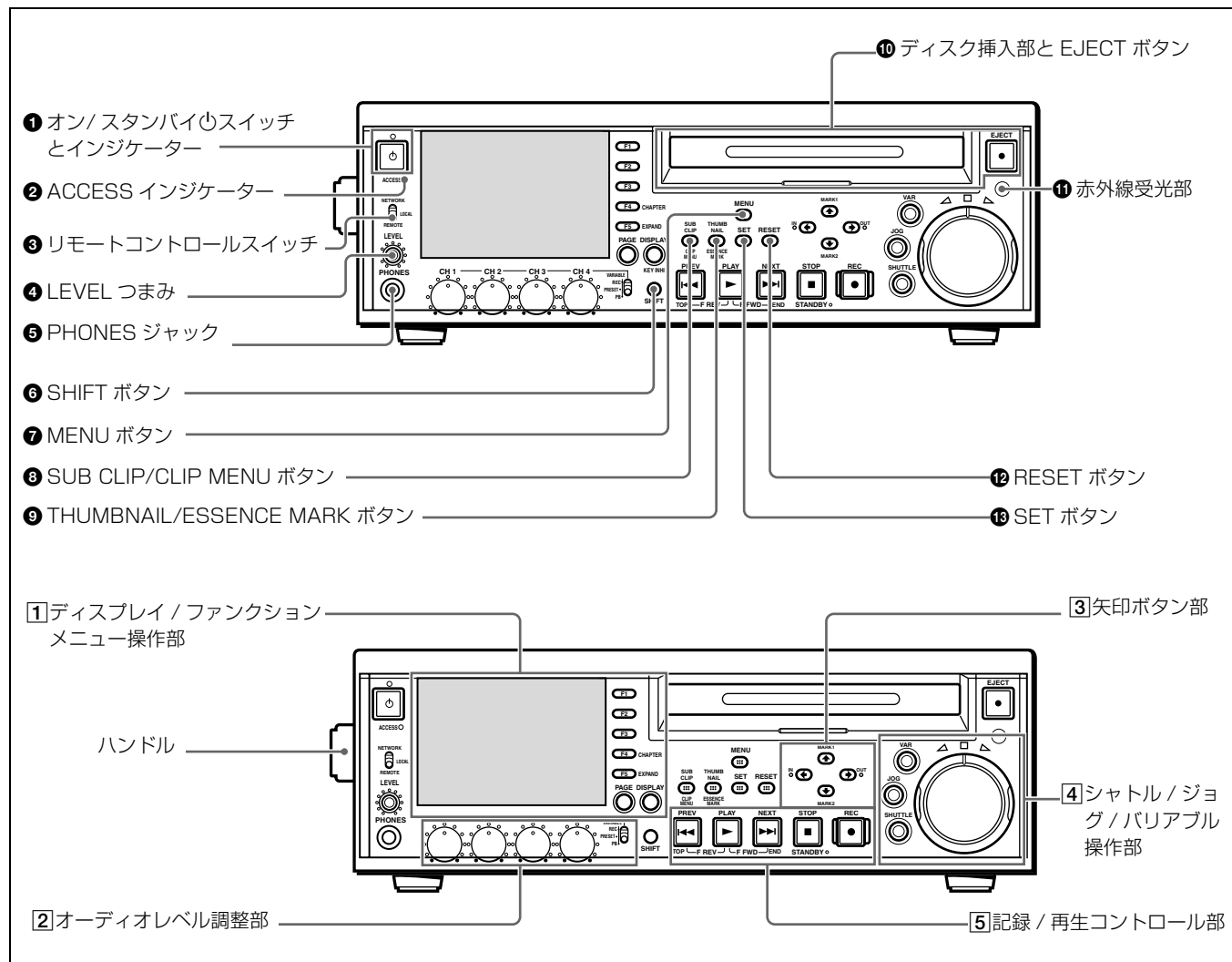
### SD 入力アップコンバーターボード PDBK-104

本機に装着することにより、SD 入力端子が追加され、入力された SD 信号（SDSDI またはコンポジット）を HD 信号にアップコンバートしてディスクに記録することができます。

**ご注意**

TBC（タイムベースコレクター）を搭載していない VTR の出力など、ノンスタンダードのコンポジット信号は記録することができません。

# 各部の名称と働き

## 前面パネル

**❶ オン / スタンバイ ⏻ スイッチとインジケーター**

後面の POWER スイッチ （20 ページ）が「I」（オン）側に設定されているとき、本機の可動状態（インジケーターが緑色で点灯）とスタンバイ状態（インジケーターがオレンジ色で点灯）を切り換えます。

インジケーターがオレンジ色で点灯中にスイッチを押すと、インジケーターが緑色で点滅し、本機が可動状態になると緑色点灯に変わります。

インジケーターが緑色で点灯中にスイッチを押すと、インジケーターが点滅し、本機がスタンバイ状態になるとオレンジ色点灯に変わります。

本機の使用時は、通常後面パネルの POWER スイッチを「I」側に設定しておき、このスイッチで本機の可動状態とスタンバイ状態を切り換えます。

**❷ ACCESS（アクセス）インジケーター**

ディスクにアクセスしているときや FAM または FTP 接続してファイルを開いているとき、青色に点灯します。点灯時にオン / スタンバイスイッチを押すと、本機はディスクへのアクセスが終了した後にスタンバイ状態へ移行します。

**ご注意**

ACCESS インジケーター点灯中に後面の POWER スイッチを切ったり、電源コードを抜いたりしないでください。
ディスク内のデータが破壊される恐れがあります。

### ❸ リモートコントロールスイッチ

設定位置に応じて、以下の操作を可能にします。

**NETWORK：**ネットワークへのアクセスを可能にします。外部ネットワーク機器にアクセスしているときは、本機での操作は無効です。

**LOCAL：**本機での操作を可能にします。

**REMOTE：**後面の外部機器接続端子に接続した機器や別売りのリモートコントロールパネルと本機との間のリモートコントロールを可能にします。
いずれの外部機器接続端子を使用してリモートコントロールするかは、セットアップメニューの INTERFACE SELECT >REMOTE I/F で設定します（72 ページ参照）。

### ❹ LEVEL（音量調整）つまみ

PHONES ジャックから出力される音量を調整します。後面の AUDIO MONITOR 端子から出力される音量も同時に調整されます。

### ❺ PHONES（ヘッドホン）ジャック（ステレオ標準ジャック）

ステレオヘッドホンを接続し、記録、再生、編集中の音声をモニターできます。モニターするチャンネルは、ファンクションメニュー P1 ページの MONI CH と MONI SEL で設定します（67 ページ参照）。

### ❻ SHIFT（シフト）ボタン

2 つの機能を持っているボタンと併用して、そのボタンの機能を切り換えます。
単独時のボタン名は白で、SHIFT ボタンと併用したときのボタン名は黄色で表示されています。

### ❼ MENU（メニュー）ボタン

システムメニューの操作に使用します。押すと、ディスプレイにメニューが表示されます。また、本機に接続したモニターにも同じ情報がスーパーインポーズにより表示されます。
再度押すとメニューが消えます。

◆ システムメニューについて詳しくは、第 6 章「メニュー」をご覧ください。

### ❽ SUB CLIP（サブクリップ）/CLIP MENU（クリップメニュー）ボタン

単独では SUB CLIP ボタン、SHIFT ボタンを併用すると CLIP MENU ボタンとして機能します。

**SUB CLIP ボタン：**クリップリストに従って再生を行いたいときに、押して点灯させます。クリップリスト選択画面が表示されます。記録された順にクリップの再生を行いたいときは、再度押して消灯させます。クリップリスト選択画面が消えます。

**ご注意**

クリップリストが登録されていないときは、このボタンを押しても点灯しません。操作は無効です。

**CLIP MENU ボタン：**クリップリストの読み出し / 保存 / 削除を行いたいときに、押して点灯させます。クリップリストメニュー画面が表示されます。再度押して消灯させるとクリップリストメニュー画面が消えます。

◆ クリップリストについて詳しくは、第 4 章「シーンセレクション」をご覧ください。

### ❾ THUMBNAIL（サムネイル）/ESSENCE MARK（エッセンスマーク）ボタン

単独では THUMBNAIL ボタン、SHIFT ボタンを併用すると ESSENCE MARK ボタンとして機能します。

**THUMBNAIL ボタン：**サムネイルを指定して目的のフレームを検索（37 ページ参照）したいときや、クリップリストを作成したいときに押して点灯させます。
ディスプレイにサムネイル選択画面が表示されます。
再度押してボタンを消灯させるとサムネイル選択画面が消えます。

**ESSENCE MARK ボタン：**エッセンスマークを指定して目的のフレームを検索（39 ページ参照）したいときに押して点灯させます。エッセンスマーク選択リストが表示されます。再度押してボタンを消灯させるとエッセンスマーク選択リストが消えます。

### ❿ ディスク挿入部と EJECT（ディスク排出）ボタン

ディスク挿入部にディスクを入れます。インジケーターがオレンジ色で点滅し、ディスクのロードが完了すると青色に点灯します。
ディスクを取り出すときは、EJECT ボタンを押します。インジケーターが青色で点滅し、ディスクのイジェクトが完了すると消灯します。

### ⓫ 赤外線受光部

付属の赤外線リモートコマンダーからの信号を受信します。

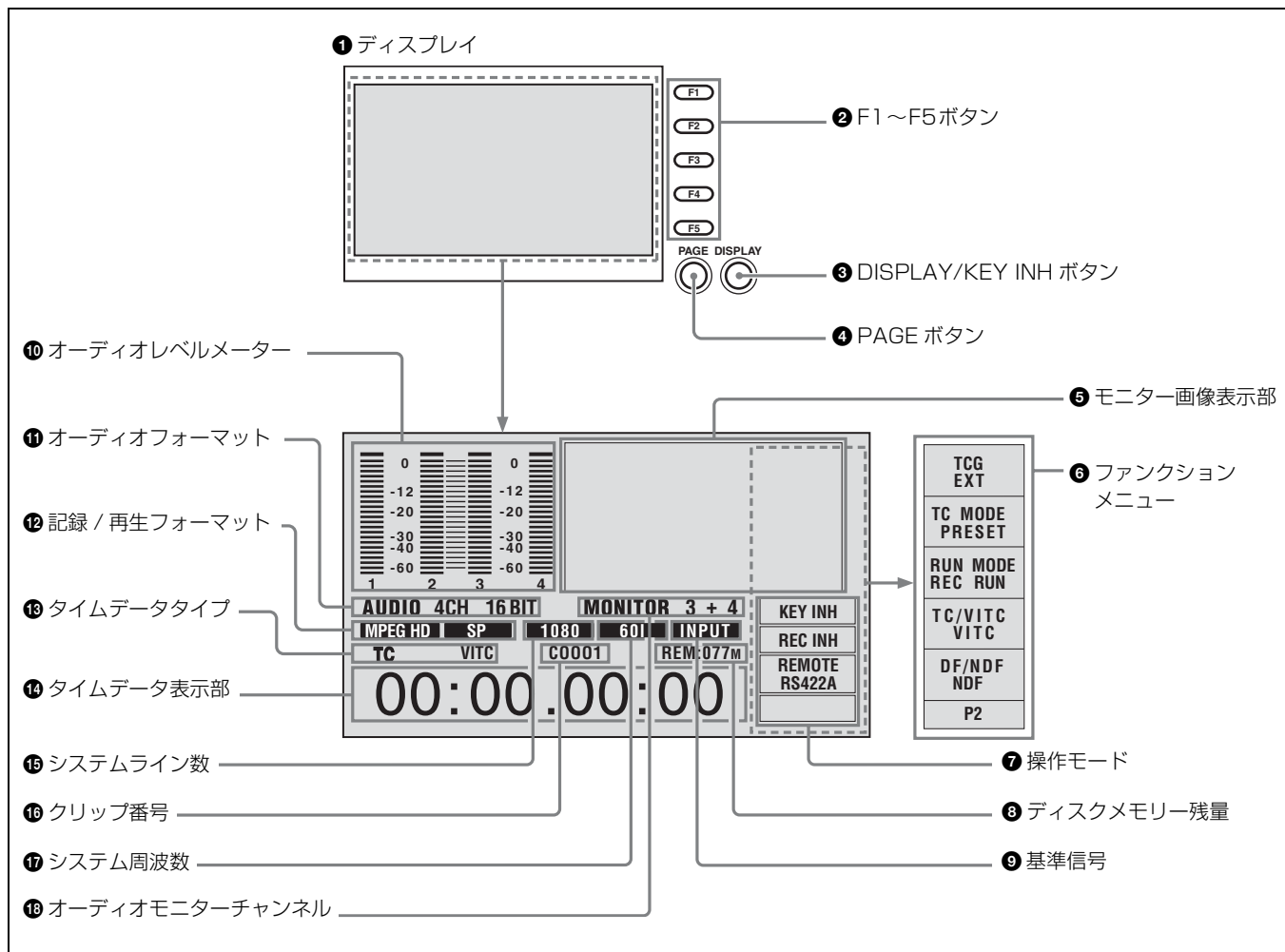
### ⓬ RESET（リセット）ボタン

カウンターをリセットしたいときや、メニューやシーンセレクション（サムネイルサーチ）などの設定時に、設定を取り消したり、操作を中止するために使用します。

**⓭ SET（セット）ボタン**
メニューやシーンセレクション（サムネイルサーチ）などの設定時に、設定した内容を確定したり、操作を実行するために使用します。

◆ シーンセレクションについて詳しくは、第4章をご覧ください。



## 1 ディスプレイ / ファンクションメニュー操作部

**❶ ディスプレイ**
通常、オーディオレベルメーター、タイムコード、モニター画像、現在の設定状態を表示します。また、メニューやシーンセレクション（サムネイルサーチ）の設定画面も表示されます。

**❷ F1 ～ F5（ファンクション 1 ～ファンクション 5 ）ボタン**
ファンクションメニュー（66 ページ参照）が表示された状態で押すと、押すたびにボタンの位置にある項目の設定内容が切り換わります。
SUB CLIP ボタンと THUMBNAIL ボタンが点灯しているときは、F4 ボタンは CHAPTER ボタン、F5 ボタンは EXPAND ボタンとして機能します。

**❸ DISPLAY（ディスプレイ）/KEY INH（キー操作禁止）ボタン**
単独では DISPLAY ボタン、SHIFT ボタンを併用すると KEY INH ボタンとして機能します。
**DISPLAY ボタン：**押すたびに、モニター画像の表示サイズを切り換えます。
**KEY INH ボタン：**押すたびに、キー操作禁止モードをオン / オフします。

**❹ PAGE（ページ）ボタン**
ファンクションメニューが表示されていないときに押すと、ファンクションメニューが表示されます。（前回ファンクションメニューを消したときに表示していたページが表示されます。）ファンクションメニューが表示されてから押すと、ファンクションメニューのページ（HOME、P1、P2）を切り換えます。

❺ **モニター画像表示部**
モニター画像とシステムメニューが表示されます。
DISPLAYボタンを押して表示サイズを3段階に切り換えることができます。最大時にはディスプレイと同じ大きさになります。

**ご注意**

メニューを表示するときやスーパーインポーズされた情報を見たいときは最大サイズにしてください。

❻ **ファンクションメニュー**
PAGEボタンを押して表示し、ページ（HOME、P1、P2）を切り換えます。各ページに、F1〜F5ボタンに対応する5つの設定項目があります。変更したい項目の位置にあるF1〜F5ボタンを押して設定内容を変更します。

◆ 詳しくは、第6章の「ファンクションメニュー」（66ページ）をご覧ください。

❼ **操作モード**
現在有効になっているモードを表示します。
**KEY INH （キー操作禁止）：**KEY INHボタンをオンにしている。
**REC INH（記録禁止）：**ファンクションメニューP1ページのREC INHを「ON」に設定しているか（67ページ参照）、ディスクを記録禁止に設定している。

**ご注意**

ディスクの記録済み部分の設定と本機の設定（オーディオ記録チャンネル数、システム周波数）が不一致の場合も記録禁止になります。

**REMOTE/インターフェース名（リモートモード）：**リモートコントロールスイッチを「REMOTE」に設定している（インターフェース名はセットアップメニューのINTERFACE SELECT >REMOTE I/Fの設定に対応（72ページ参照））。

❽ **ディスク記録残量**
ディスクの記録残量を表示します。

❾ **基準信号**
本機が同期している基準信号の種類が表示されます。
表示がない場合は本機内部の基準信号に同期しています。
**INPUT：**ビデオ入力
**HD REF：**HDフォーマットの基準信号
**SD REF：**SDフォーマットの基準信号

❿ **オーディオレベルメーター**
チャンネル1〜4のオーディオ記録レベル（記録時）またはオーディオ再生レベル（再生時）を表示します。オーディオレベルが0dBを越えると最上部の赤色インジケーターが点灯します。

⓫ **オーディオフォーマット**
再生中は、ディスクの記録チャンネル数と量子化ビット数を表示します。記録中は、ファンクションメニューHOMEページのA1 INPUT〜A4 INPUTで選択（66ページ参照）した入力信号のフォーマットを表示します。E-E[1]画表示中は、セットアップメニューのAUDIO CONTROL >REC MODEの設定（71ページ参照）に応じて、2CH/16BIT（2チャンネル/16ビット）または4CH/16BIT（4チャンネル/16ビット）を表示します。DVCAMフォーマット使用時は、常に4CH/16BITになります。

1) E-E：Electric to Electricの略。入力した画像・音声信号を電気回路のみを通して出力するモード。

⓬ **記録/再生フォーマット**
次のように表示されます。
**再生中：**挿入されているディスクの記録フォーマット
**記録中/E-E画表示中/FAM接続時：**

| 信号フォーマット | 圧縮方式（ビデオビットレート）a) |
|---|---|
| MPEG HD | HQ |
| | SP |
| | LP |
| DVCAM | – |

a) セットアップメニューのOPERATIONAL FUNCTION >REC FORMATで選択（69ページ参照）

⓭ **タイムデータタイプ**
タイムデータ表示部に表示しているタイムデータのタイプを表示します。タイムデータのタイプはファンクションメニューP1ページのCNTR SELで設定します（67ページ参照）。
**COUNTER：**記録/再生の経過時間
**TC/VITC：**タイムコード
**UB/VIUB：**ユーザービット
TCまたはUBを選択しているときに、ファンクションメニューP2ページのTC/VITCで「VITC」を選択（68ページ参照）すると、VITCのインジケーターが表示され、TCがVITCに、UBがVIUBに変わります。

⓮ **タイムデータ表示部**
通常は、ファンクションメニューP1ページのCNTR SELで選択（67ページ参照）したタイムデータを表示します。エラー時やモードの切り換え時にはメッセージが表示されます。

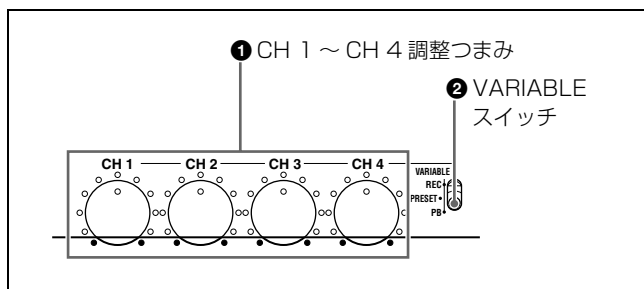
⓯ **システムライン数**
記録/再生/FAM接続時の信号フォーマットに応じて表示が変わります（1080、525または625）。

### ⑯ クリップ番号
モニター中のクリップの番号を表示します。

### ⑰ システム周波数
本機で現在使用しているシステム周波数が表示されます（60I、50I、30P、25P）（23 ページ参照）。

### ⑱ オーディオモニターチャンネル
ファンクションメニュー P1 ページの MONI CH と MONI SEL で設定した（67 ページ参照）オーディオモニターチャンネルを表示します。
チャンネル 1、2 をモニターする場合（MONI CH を「CH 1/2」に設定する）、MONI SEL の設定に応じて次のように表示が変わります。

| MONI SEL の設定 | 表示 |
|---|---|
| MONO L（モノラル L） | 1　1 |
| MONO R（モノラル R） | 2　2 |
| STEREO（ステレオ） | 1 / 2 |
| MIX（ミックス） | 1 + 2 |

## 2 オーディオレベル調整部

### ❶ CH 1 ～ CH 4（オーディオレベル）調整つまみ
VARIABLE スイッチの設定に応じて、CH1 ～ CH4 の入力オーディオレベルまたは再生オーディオレベルを調整します。

### ❷ VARIABLE（オーディオレベル調整切り換え）スイッチ
CH 1 ～ CH 4 調整つまみにより、入力オーディオと再生オーディオのいずれのレベルを調整するかを選択します。

**REC**：入力オーディオレベルを調整します。再生オーディオレベルはプリセット値に固定されます。

**PRESET**：いずれのオーディオレベルもプリセット値に固定されます。

**PB**：再生オーディオレベルを調整します。入力オーディオレベルはプリセット値に固定されます。

## 3 矢印ボタン部

4 個の矢印ボタンは、MARK1（マーク 1）ボタン、MARK2 （マーク 2）ボタン、IN（IN 点設定）ボタン、OUT（OUT 点設定）ボタンとしても使用できます。ボタンごとの対応は以下のとおりです。

**⬆ ボタン**：MARK1 ボタン
**⬇ ボタン**：MARK2 ボタン
**⬅ ボタン**：IN ボタン
**➡ ボタン**：OUT ボタン

これらのボタンで、メニュー設定操作、サムネイルの選択、エッセンスマークの設定、IN/OUT 点の設定 / 削除を行うことができます。

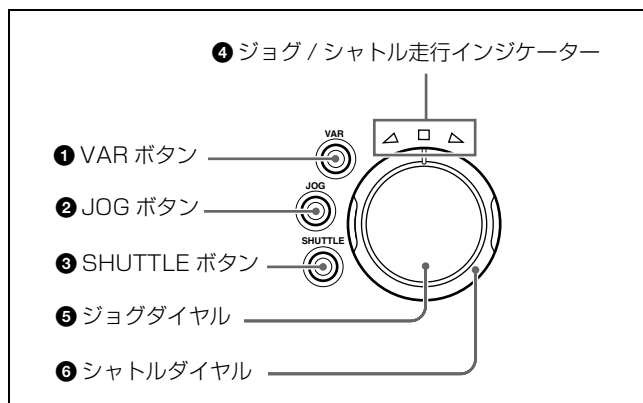
### ❶ ⬅/IN ボタンと ➡/OUT ボタン
セットアップメニュー / ディスクメニューを表示しているときは、メニューの項目選択に使用します。THUMBNAIL ボタン点灯時は、サムネイル選択に使用します。⬅/IN ボタンまたは ➡/OUT ボタンを押したまま SET ボタンを押すと、IN 点または OUT 点が設定されます。⬅/IN ボタンまたは ➡/OUT ボタンを押したまま RESET ボタンを押すと、IN 点または OUT 点の設定が解除されます。

### ❷ ⬆/MARK1 ボタンと ⬇/MARK2 ボタン
セットアップメニュー / ディスクメニューを表示しているときは、メニューの設定変更に使用します。THUMBNAIL ボタン点灯時は、サムネイル選択に使用します。記録 / 再生中に、⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押したまま SET ボタンを押すと、エッセンスマークとしてショットマーク 1 またはショットマーク 2 が記録されます。

◆ エッセンスマークを消去したり、変更するには、付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を使用します。

### ❸ IN （IN 点設定）インジケーターと OUT （OUT 点設定）インジケーター
**IN インジケーター**：IN 点が設定されると点灯します。
登録されている OUT 点より後方に IN 点を設定しようとすると点滅します。

**OUT インジケーター**：OUT 点が設定されると点灯します。
登録されている IN 点より前方に OUT 点を設定しようとすると点滅します。

## 4 シャトル / ジョグ / バリアブル操作部

**❶ VAR（バリアブル）ボタン**
シャトルダイヤルを使用してバリアブルモードの再生を行いたいとき、押して点灯させます。

**❷ JOG（ジョグ）ボタン**
ジョグダイヤルを使用してジョグモードの再生を行いたいとき、押して点灯させます。

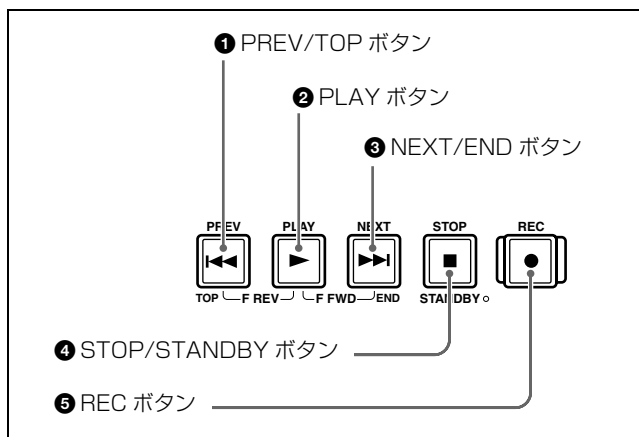
**❸ SHUTTLE（シャトル）ボタン**
シャトルダイヤルを使用してシャトルモードの再生を行いたいとき、押して点灯させます。

**❹ ジョグ / シャトル走行インジケーター**
ジョグモード、シャトルモードまたはバリアブルモードでの再生方向を示します。
**◀（緑）：**逆方向再生中に点灯
**▶（緑）：**順方向再生中に点灯
**■（オレンジ）：**静止画表示中に点灯

**❺ ジョグダイヤル**
ジョグモードの再生を行うとき回します。右に回すと順方向再生、左に回すと逆方向再生を行います。ジョグモードでは、ジョグダイヤルの回転速度に応じて ± 1 倍速の範囲内で再生を行うことができます。クリックする位置はありません。

**❻ シャトルダイヤル**
シャトルモードまたはバリアブルモードの再生を行うとき回します。右に回すと順方向再生、左に回すと逆方向再生を行います。
- シャトルモードでは、シャトルダイヤルの回転角度に応じて ± 20 倍速（MPEG HD/DVCAM 使用時）の範囲内で再生を行うことができます。
- バリアブルモードでは、シャトルダイヤルの回転角度に応じて − 1 〜 + 2 倍速の範囲内で再生速度を細かく調整することができます。

シャトルダイヤルはセンター位置でクリックします。この位置では静止画再生を行います。

## 5 記録 / 再生コントロール部

**❶ PREV（プリビアス）/TOP（トップ）ボタン**
単独では PREV ボタン、SHIFT ボタンを併用すると TOP ボタンとして機能します。
**PREV ボタン：**押して点灯させると、現在のクリップの先頭フレームにジャンプします。現在のクリップの先頭フレームを表示しているときに押すと、1 つ前のクリップの先頭フレームにジャンプします。
**TOP ボタン：**先頭クリップの先頭フレームにジャンプします。
PLAY ボタンを押したまま PREV ボタンを押すと、逆方向高速サーチが行われます。

**❷ PLAY（再生）ボタン**
再生を開始したいとき、押して点灯させます。再生を停止するときは STOP ボタンを押します。
このボタンを押したまま NEXT ボタンまたは PREV ボタンを押すと、順方向または逆方向の高速サーチが行われます。

**❸ NEXT（ネクスト）/END（エンド）ボタン**
単独では NEXT ボタン、SHIFT ボタンを併用すると END ボタンとして機能します。
**NEXT ボタン：**押して点灯させると、次のクリップの先頭フレームにジャンプします。
**END ボタン：**最終クリップの最終フレームにジャンプします。
PLAY ボタンを押したまま NEXT ボタンを押すと、順方向高速サーチが行われます。

**❹ STOP（停止）/STANDBY（スタンバイ）ボタン**
単独では STOP ボタン、SHIFT ボタンを併用すると STANDBY ボタンとして機能します。
**STOP ボタン：**記録・再生などを停止させたいとき、押して点灯させます。停止位置のフレームが表示されます。
**STANDBY ボタン：**本機をスタンバイオフモードにします（STOP ボタン点灯、STANDBY インジケーター消

灯)。再度押すと、元の状態に戻ります（STOP ボタン点灯、STANDBY インジケーター点灯)。

◆ 本機には、ディスク停止モードで一定の時間が経過すると自動的にスタンバイオフモードに移ります。

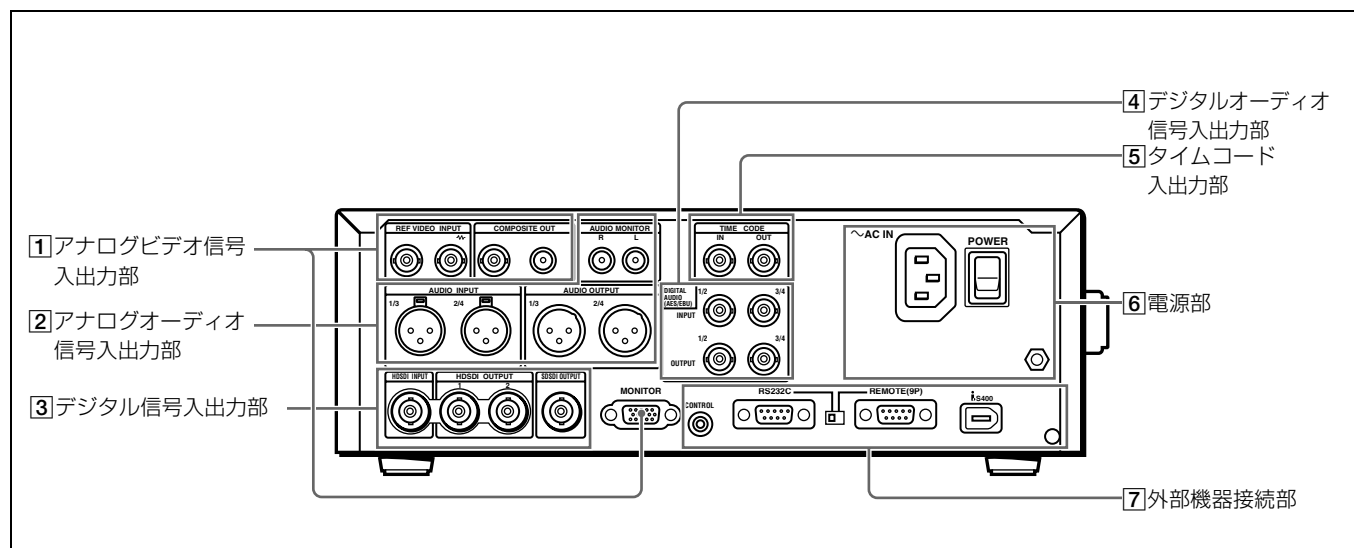
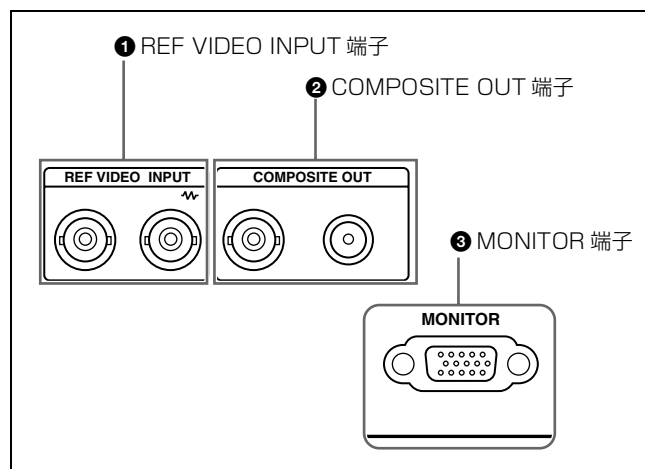
❺ REC（記録）ボタン
記録を開始したいとき、このボタンを押したまま PLAY ボタンを押します。記録はディスクの未記録部分に行われます。
記録を停止するときは、STOP ボタンを押します。記録した部分のクリップが作成されます。



# 後面パネル

**ご注意**

工場出荷時は、後面パネルの端子の一部に端子カバーが取り付けられています。ここでは、それらをすべて取り外した状態で各端子の説明をしています。

◆ 詳しくは、「端子カバーを取り外す」（24 ページ）をご覧ください。

## 1 アナログビデオ信号入出力部

### ❶ REF VIDEO INPUT（基準ビデオ信号入力）端子 (BNC 型 )

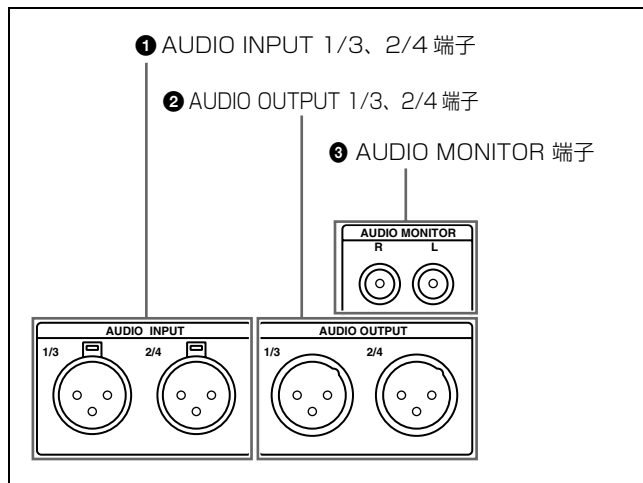
2 個の端子はループスルーになっており、左側に基準ビデオ信号を入力すると、右側の端子 ( ) に接続された機器にも同じ信号が入力されます。右側の端子に何も接続されていない場合は、自動的に 75Ω で終端されます。

### ❷ COMPOSITE OUT（コンポジット出力）端子 ( ピンジャック、BNC 型 )

コンポジットビデオ信号出力端子です。
ファンクションメニュー P1 ページの CHAR SEL が「ON」に設定（67 ページ参照）されているときは、タイムコード、メニュー設定、エラーメッセージなどの文字情報がスーパーインポーズされて出力されます。

### ❸ MONITOR（モニター）端子（D-sub 15 ピン）

HD アナログビデオ信号を出力します。出力信号は、セットアップメニューの INTERFACE SELECT >D-SUB OUTPUT（71 ページ参照）で切り換え可能です。

## 2 アナログオーディオ信号入出力部

**❶ AUDIO INPUT（アナログオーディオ信号入力）1/3、2/4 端子（XLR 3 ピン、凹）**

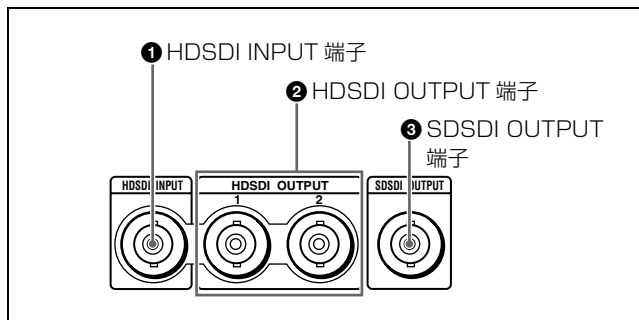
アナログオーディオ信号を入力します。
ファンクションメニューHOME ページの A1 INPUT ～ A4 INPUT で（66 ページ参照）、1/3 端子への入力信号（ANALOG1）と 2/4 端子への入力信号（ANALOG2）をオーディオチャンネル 1 ～ 4 に割り当てることができます。
基準入力レベルは、セットアップメニューの AUDIO CONTROL >LEVEL SELECT で設定（71 ページ参照）することができます（工場出荷時設定は INPUT: ＋ 4dB、REF LEVEL: － 20dB）。

**❷ AUDIO OUTPUT（アナログオーディオ信号出力）1/3、2/4 端子（XLR 3 ピン、凸）**

アナログオーディオ信号を出力します。
4 チャンネルオーディオを出力する場合は、セットアップメニューの INTERFACE SELECT >AUDIO OUTPUT で（71 ページ参照）、チャンネル 1、2 を出力するか、チャンネル 3、4 を出力するかを選択できます（工場出荷時設定：チャンネル 1、2）。出力レベルは、セットアップメニューの AUDIO CONTROL >LEVEL SELECT で設定（71 ページ参照）することができます。（工場出荷時設定：＋ 4dB）

**❸ AUDIO MONITOR（オーディオモニター）端子（ピンジャック）**

モニター用のオーディオ信号を出力します。
モニターするチャンネルは、ファンクションメニュー P1 ページの MONI CH と MONI SEL で設定します（67 ページ参照）。

## 3 デジタル信号入出力部

**❶ HDSDI INPUT（HD シリアルデジタルインターフェース入力）端子 (BNC 型 )**

HD フォーマットのビデオ / オーディオ信号を入力します。

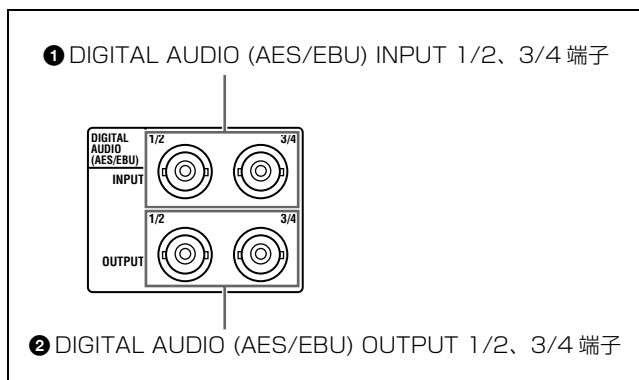
**❷ HDSDI OUTPUT（HD シリアルデジタルインターフェース出力）端子 (BNC 型 )**

HD フォーマットのビデオ / オーディオ信号を出力します。
ファンクションメニュー P1 ページの CHAR SEL が「ON」に設定（67 ページ参照）されているときは、タイムコード、メニュー設定、エラーメッセージなどの文字情報がスーパーインポーズされて出力されます。

**❸ SDSDI OUTPUT（SDSDI 信号出力）端子（BNC 型）**

HD ビデオ入力信号をダウンコンバートした SDSDI 信号または記録 / 再生中の SDSDI 信号を出力します。
ファンクションメニュー P1 ページの CHAR SEL が「ON」に設定（67 ページ参照）されているときは、タイムコード、メニュー設定、エラーメッセージなどの文字情報がスーパーインポーズされて出力されます。

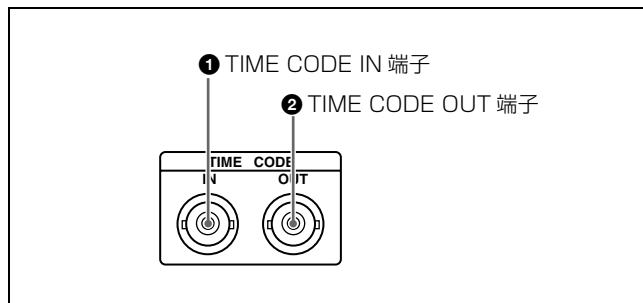
## 4 デジタルオーディオ信号入出力部

❶ DIGITAL AUDIO (AES/EBU) INPUT 1/2、3/4 端子
DIGITAL AUDIO (AES/EBU)
INPUT
OUTPUT
1/2
3/4
❷ DIGITAL AUDIO (AES/EBU) OUTPUT 1/2、3/4 端子

**❶ DIGITAL AUDIO (AES/EBU) INPUT（デジタルオーディオ信号入力）1/2、3/4 端子（BNC 型）**

AES/EBU フォーマットのデジタルオーディオ信号を入力します。1/2 端子がオーディオチャンネル 1/2 に、3/4 端子がオーディオチャンネル 3/4 に対応しています。

❷ DIGITAL AUDIO (AES/EBU) OUTPUT(デジタルオーディオ信号出力) 1/2、3/4 端子 (BNC 型)

AES/EBU フォーマットのデジタルオーディオ信号を出力します。1/2 端子がオーディオチャンネル 1/2 に、3/4 端子がオーディオチャンネル 3/4 に対応しています。

## 5 タイムコード入出力部

**❶ TIME CODE IN（タイムコード入力）端子**

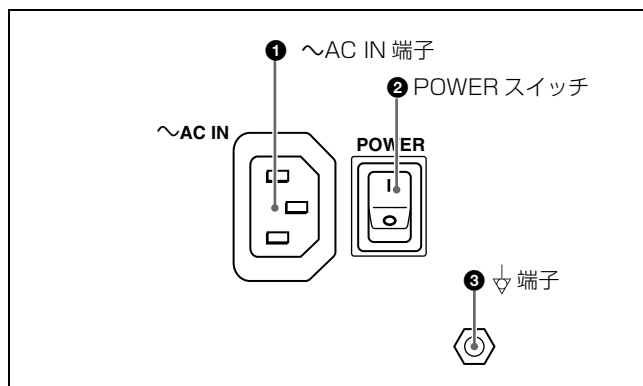
外部機器で発生させた SMPTE タイムコードを入力します。

**❷ TIME CODE OUT（タイムコード出力）端子**

本機の動作状態に応じて次のタイムコードを出力します。

**再生時：**再生タイムコード

**記録時：**内蔵のタイムコードジェネレーターで発生するタイムコードまたは TIME CODE IN 端子に入力されたタイムコード

## 6 電源部

**❶ ～AC IN（AC 電源入力）端子**

別売りの電源コードを使って AC 電源に接続します。

**❷ POWER（主電源）スイッチ**

「I」側を押すと電源が入ります。「O」側を押すと電源が切れます。

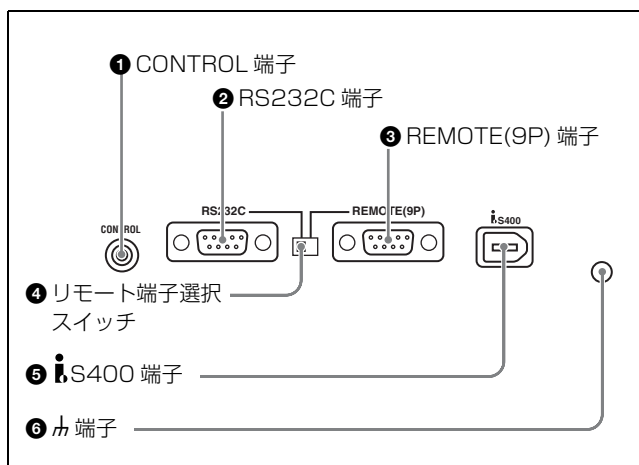
本機の使用時は、通常この POWER スイッチを「I」側に設定しておき、前面のオン / スタンバイスイッチで本機の可動状態とスタンバイ状態を切り換えます。

**ご注意**

本機が可動状態のときに前面パネルのオン / スタンバイスイッチを押すと、データの保存が行われてから本機はスタンバイ状態（インジケーターがオレンジの状態）になります。主電源を切るときは、必ず本機がスタンバイ状態になっていることを確認してから、POWER スイッチの「O」側を押してください。

**❸ ⏚（等電位アース）端子**

等電位接地接続に使用します。

## 7 外部機器接続部

**❶ CONTROL（コントロール）端子（ミニジャック 4 極）**

別売りのリモートコントロールユニット RM-LG2 を接続します。

**❷ RS232C（シリアルインターフェース）端子（D-sub 9 ピン、凸）**

コンピューターなどシリアルインターフェースを持つ機器から本機を操作するときに、それらの機器を接続する端子です。

この端子を使用するときは、リモート端子選択スイッチを RS232C 側に設定し、セットアップメニューの INTERFACE SELECT >REMOTE I/F を「9PIN/RS-232C」に設定します（72 ページ参照）。

**❸ REMOTE(9P)（リモートコントロール 9 ピン）端子（D-sub 9 ピン、凹、RS-422A 準拠）**

RS-422A SONY9 ピン VTR プロトコル対応のコントローラーまたは VTR から本機を操作するときに、それらの機器を接続します。この端子を使用するときは、リモート端子選択スイッチを REMOTE(9P) 側に設定し、セットアップメニューの INTERFACE SELECT >REMOTE I/F を「9PIN/RS232C」に設定します（72 ページ参照）。

❹ リモート端子選択スイッチ
使用する端子側に押して、RS232C 端子と REMOTE(9P) 端子のどちらを使用するか選択します。

❺ i.S400 端子（6 ピン、IEEE1394 準拠）
DV 機器やコンピューターを、i.LINK ケーブルを使って接続します。
セットアップメニューの INTERFACE SELECT >i.LINK MODE の設定に応じて（72 ページ参照）、次の 2 通りの使いかたがあります。

**AV/C（Audio/Video Control）接続：** DVCAM フォーマットのデジタルビデオ / オーディオ信号を出力します（i.LINK MODE を「AV/C」に設定）。
オーディオ出力信号は、セットアップメニューの AUDIO CONTROL DV OUT MODE の設定（71 ページ参照）により 2 チャンネルまたは 4 チャンネルを選択できます。

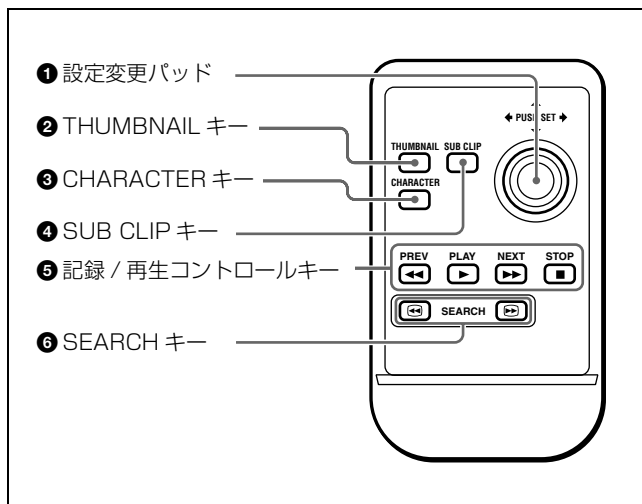
**FAM（file access mode）接続：** コンピューターとの間で、ファイルを入出力します（i.LINK MODE を「FAM (PC REMOTE)」に設定）。

**ご注意**

- i.S400端子を使って接続した外部機器の映像/音声信号が出力されないときは、i.LINK ケーブルを外して、もう一度まっすぐに接続し直してください。
- 6ピン型のi.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINKケーブルで接続する場合、i.LINK ケーブルを抜き差しするときは、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。機器の電源プラグを差したまま i.LINK ケーブルを抜き差しすると、機器の i.LINK 端子から出力している高電圧 (8 ～ 40V) による電流が本機に流れ込み、本機の故障の原因となる恐れがあります。
- 6 ピン型の i.LINK 端子を持つ機器と本機を接続する場合は、相手側機器の 6 ピン型の i.LINK 端子から先に接続してください。
- 再生モード以外のとき（ジョグ / シャトルモードなど）は、この端子から出力されるオーディオ信号を他の機器でモニターすると、本機で再生したオーディオ信号と異なる音声になることがあります。

❻ ⏚（信号用アース）端子
システムの接地線に接続します。

## 赤外線リモートコマンダー

リモートコマンダーを、本体の赤外線受光部に向けてキーやパッドを押すと、対応する操作が実行されます。

❶ 設定変更パッド
本体の機能と次のように対応しています。
**上端を押す：** ⬆/MARK1 ボタン
**下端を押す：** ⬇/MARK2 ボタン
**左端を押す：** ⬅/IN ボタン
**右端を押す：** ➡/OUT ボタン
**中央を押す：** SET ボタン

❷ THUMBNAIL（サムネイル）キー
本体の THUMNAIL ボタンと同じ働きです。

❸ CHARACTER（キャラクター）キー
押すたびに、モニター画面にスーパーインポーズされる文字情報をオン / オフしたり、LCD に切り換えます。

❹ SUB CLIP（サブクリップ）キー
本体の SUB CLIP ボタンと同じ働きです。

**ご注意**

クリップリストが登録されていないときは、このキーを押しても操作は無効です。

❺ 記録 / 再生コントロールキー

**PREV （プリビアス）キー：** 押すと、現在のクリップの先頭フレームにジャンプします。現在のクリップの先頭フレームを表示しているときに押すと、1 つ前のクリップの先頭フレームにジャンプします。

**PLAY（再生）キー：** 再生を開始したいとき押します。再生を停止するときは STOP キーを押します。

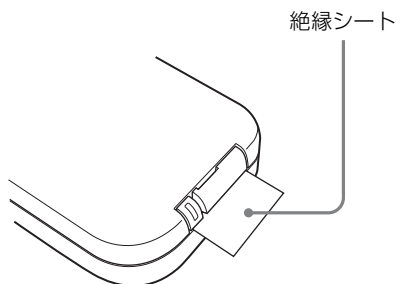
**NEXT（ネクスト）キー：** 押すと、次のクリップの先頭フレームにジャンプします。

**STOP（停止）キー：** 記録・再生などを停止させたいときに押します。

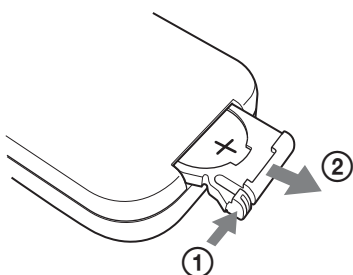
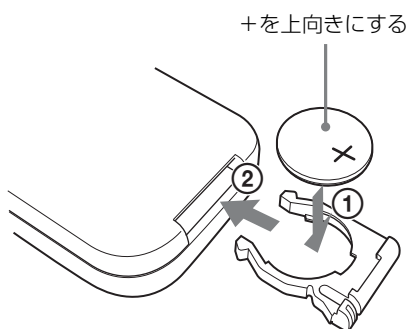
❻ SEARCH（サーチ）キー
◀◀ を押すと、－5倍速で逆方向にシャトル再生します。
▶▶ を押すと、＋5倍速で順方向にシャトル再生します。



## リモートコマンダーをご使用になる前に

絶縁シートを引き抜いてください。

### リモートコマンダーのリチウム電池を交換するには

リモートコマンダーには市販のリチウム電池 CR2025 を使用します。CR2025 以外の電池は使用しないでください。

**1** ロックレバーを押したまま ①、電池ホルダーを引き出す ②。

**2** ＋を上向きにして新しい電池を入れ ①、カチッと音がするまで電池ホルダーを押し込む ②。

**ご注意**

指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。
使用済みの電池は、説明書に従って処理してください。

### 電池の交換時期

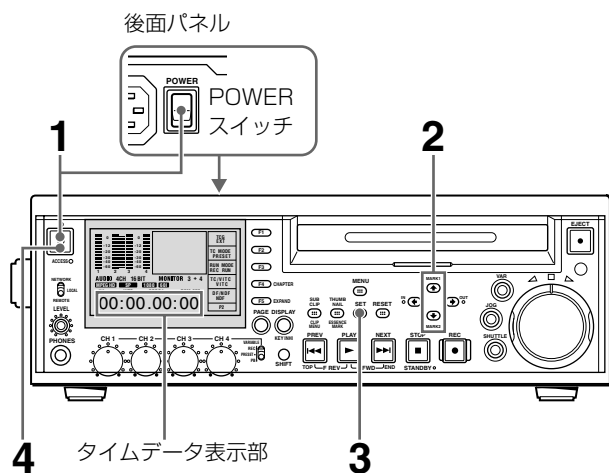
リチウム電池の能力が低下すると、ボタンを押しても操作できないことがあります。リチウム電池の寿命は通常約1年ですが、使用頻度によって変わります。
リモコンのボタンを押しても本機がまったく動作しない場合は、電池を交換し、動作を確認してください。

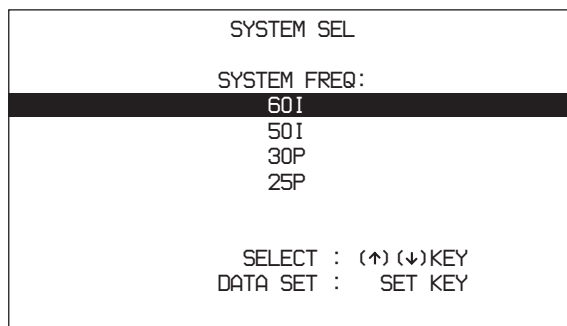
# 準備

## 日本向けに設定する（システム周波数の設定）

本機はシステム周波数が未設定の状態で出荷されています。したがって、本機をご使用になるには、初めにシステム周波数を設定する必要があります。（システム周波数を設定しないと、本機を使用することはできません。）
いったん設定すれば、電源を切っても保持されます。

### システム周波数を設定するには

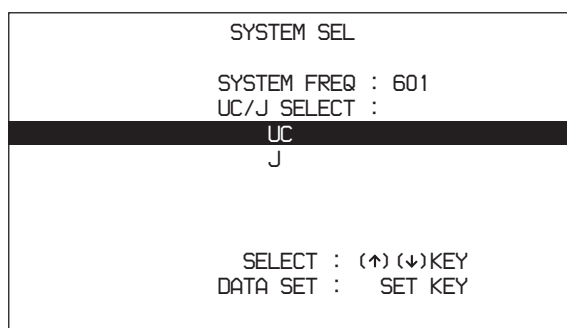
次のように操作します。

**1** 本機の電源を入れる。

ディスプレイに SYSTEM SEL 画面が表示されます。

**2** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して、使用するシステム周波数を選択する。

**3** SET ボタンを押す。

ディスプレイに「NOW SAVING...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。
保存が終了すると、「COMPLETE !!」が表示されます。

#### 60I または 30P を選択したときは

手順 **2** で 60I または 30P を選択すると、SET ボタンを押したとき次の画面が表示されます。

⬆/MARK1ボタンまたは⬇/MARK2ボタンを押してUC（日本以外の地域用）または J（日本国内用）を選択し、SET ボタンを押します。

**ご注意**

手順 **3** を実行する前に電源を切らないでください。電源を切ると、システム周波数の設定が保存されません。

**4** オン/スタンバイスイッチを押して本機をスタンバイ状態にし、再度スイッチを押して可動状態にする。

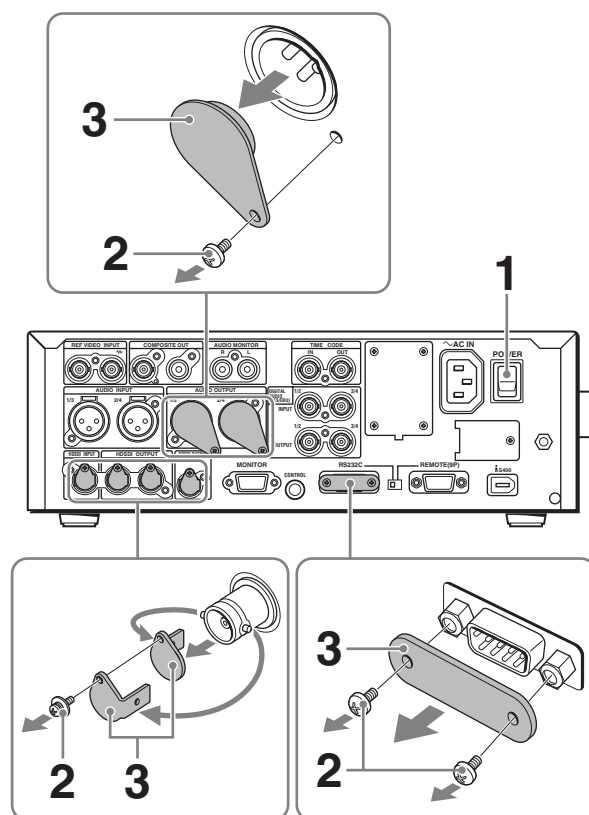
選択したシステム周波数で使用できるようになります。

◆ 本操作で設定した内容は、セットアップメニューのOPERATIONAL FUNCTION >SYSTEM SEL >SYSTEM FREQ で変更することができます。セットアップメニューについては、第5章の「システムメニュー」（68ページ）をご覧ください。

# 端子カバーを取り外す

工場出荷時は、以下の端子に端子カバーが取り付けられています。

- AUDIO OUTPUT 1/3、2/4 端子
- HDSDI INPUT 端子
- HDSDI OUTPUT 端子
- SDSDI OUTPUT 端子
- RS232C 端子

これらの端子を使うときは、以下のように端子カバーを取り外してから、本機を使用してください。

**1** POWER（主電源）スイッチを押して、本機の電源をオフにする。

**2** ネジの形状に合ったプラスドライバーを使って、端子カバーのネジを外す。

**3** 端子カバーを取り外す。

外したネジと端子カバーは、なくさないように保管してください。

# 接続と設定

**ご注意**

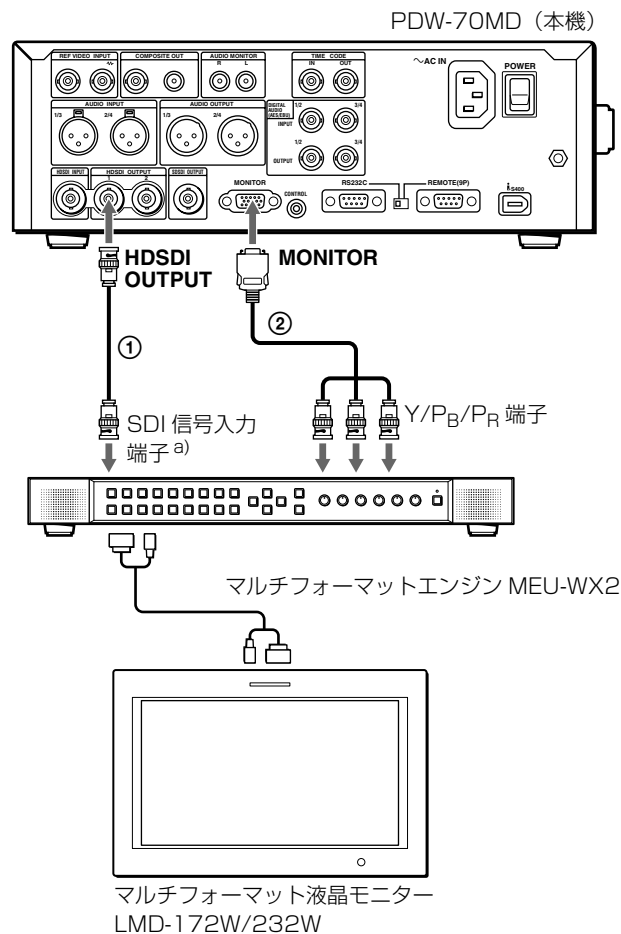
本章で記載されている周辺機器や関連機器は、すでに「生産完了」となっている場合があります。
機器の選定にあたっては、ソニーの営業担当者またはお買い上げ店にお問い合わせください。

## 外部モニターと接続する

本機の映像出力端子や MONITIR 端子にソニー製マルチフォーマット液晶モニターを接続する場合の例を示します。

◆ 出力映像にタイムコードや本機の動作状態などの文字情報をスーパーインポーズ（付加）することができます。詳しくは、「文字情報をスーパーインポーズする」（30 ページ）をご覧ください。

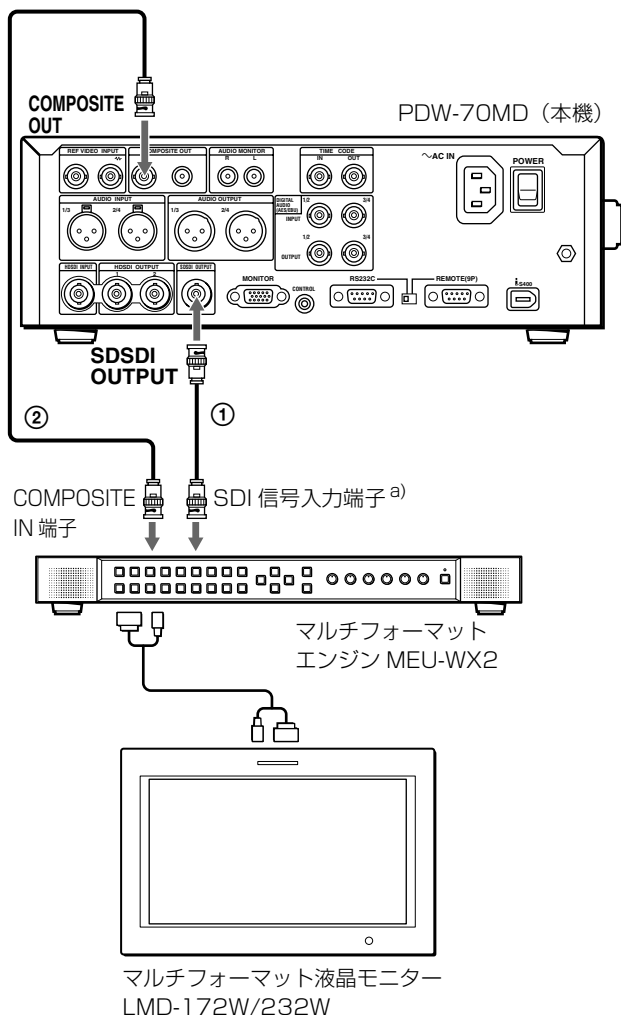
### HD の映像を見るには

次図の ① または ② の方法で接続します。
② の方法で接続するときは、セットアップメニューの INTERFACE SELECT >D-SUB OUTPUT を「YPbPr」に設定します（71 ページ参照）。

a) HDSDI 信号を入力するには、BKM-243HS（別売り）が必要。

**接続方法と接続ケーブル**

| | 接続方法 | 接続ケーブル（別売り） |
|---|---|---|
| ① | HDSDI | 75Ω 同軸ケーブル |
| ② | コンポーネント ($Y/P_B/P_R$) | D-Sub 15 ピン－アナログコンポーネントケーブル、ピンプラグ－ステレオミニプラグケーブル |

### SD の映像を見るには

次図の ① または ② の方法で接続します。

a) SDSDI 信号を入力するには、BKM-220D（別売り）が必要。

### 接続方法と接続ケーブル

| | 接続方法 | 接続ケーブル（別売り） |
|---|---|---|
| ① | SDSDI | 75Ω 同軸ケーブル |
| ② | コンポジット | 75Ω 同軸ケーブル、ピンプラグ－ステレオミニプラグケーブル |

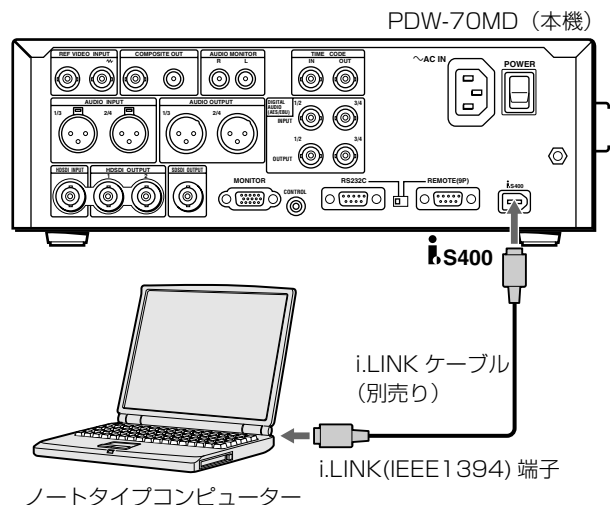
## i.LINK を利用して PDZ-1 を使用する（FAM 接続）

付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を使用して、プロキシ AV データの簡易編集を行うことができます。ここでは、PDZ-1 をインストールしたコンピューターと本機を、i.LINK 端子を介して FAM（file access mode）接続する場合の例を示します。

**ご注意**

- コンピューターに PDZ-1 をインストールすると、FAM 接続に必要な FAM ドライバーもインストールされます。
- 本機の S400 端子は 6 ピンです。ノートタイプコンピューターの i.LINK 端子のピン数をご確認の上、適切な i.LINK ケーブルを使用してください。

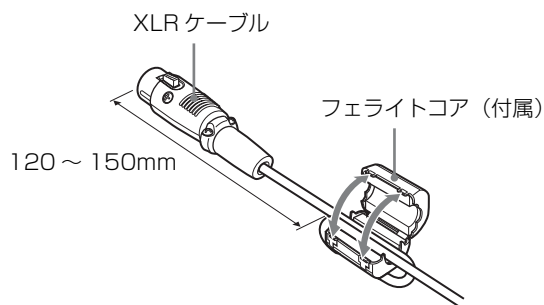
◆ PDZ-1 の概要とインストールの方法については、第 4 章の「Proxy Browsing Software PDZ-1 を使う」（62 ページ）をご覧ください。また、PDZ-1 の使いかたについては、PDZ-1 のヘルプをご覧ください。

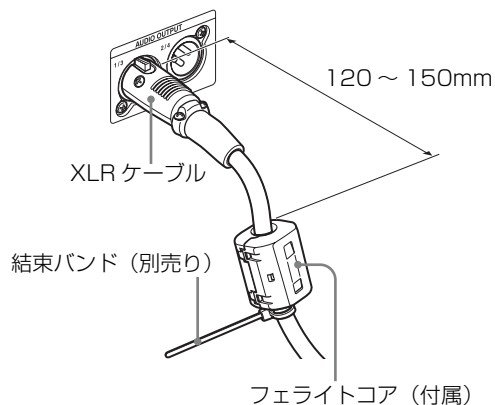
◆ FAM 接続には制限事項があります。

| コンピューターの設定 | 本機の設定 |
|---|---|
| PDZ-1 をインストール | セットアップメニューの INTERFACE SELECT >i.LINK MODE を「FAM(PC REMOTE)」に設定（72 ページ参照） |

## XLR ケーブル（オーディオケーブル）を使う

本機のアナログ信号入出力端子に XLR ケーブルを接続するときは、必ず付属のフェライトコアを XLR ケーブルに取り付けてお使いください。取り付けかたは以下のとおりです。

### フェライトコアを取り付けるには

本機に接続するコネクター側で、XLR ケーブルをフェライトコアに 1 回巻き付け、指定の位置に固定します。

### XLR ケーブルの径が大きいときは

XLR ケーブルの径が大きく、フェライトコアに巻き付けることが難しい場合は、そのままケーブルをフェライトコアにはさんでください。この場合、次図に示すように結束バンド（別売り）などを使って、フェライトコアを指定の位置に固定してください。

**ご注意**

本機は、XLR ケーブルにフェライトコアを取り付けないと、CISPR 11 Class B および CISPR 22 Class B の EMI 規格を満たしませんのでご注意ください。

# 外部同期

HDSDI INPUT 端子への信号入力（HDSDI 入力）の有無、REF VIDEO INPUT 端子への信号入力（REF VIDEO 入力）の有無、ファンクションメニュー HOME ページの V INPUT の設定（66 ページ参照）に応じて、本機は次表のように外部同期します。

| HDSDI INPUT 端子 | REF VIDEO INPUT 端子 | V INPUT の設定 | 外部同期 |
|---|---|---|---|
| 入力あり | 入力あり | HDSDI | REF VIDEO 入力に同期 |
| | | SG | REF VIDEO 入力に同期 |
| 入力あり | 入力なし | HDSDI | HDSDI 入力に同期 |
| | | SG | 外部同期しない |
| 入力なし | 入力あり | HDSDI | REF VIDEO 入力に同期 |
| | | SG | |
| 入力なし | 入力なし | HDSDI | 外部同期しない |
| | | SG | |

**ご注意**

FAM 接続によるファイル操作時は外部同期しません。

# 初期設定

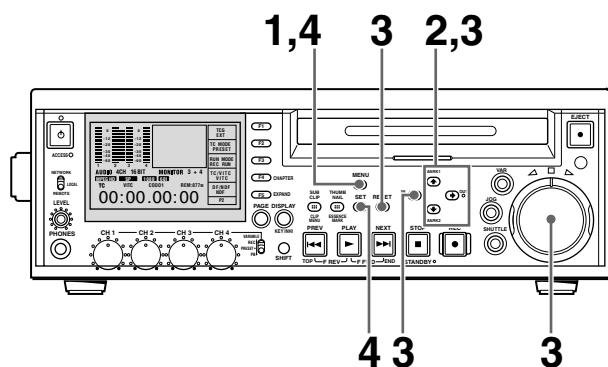
本機では、操作前の主要なセットアップをメニュー操作で行えます。
ここでは日付 / 時刻の設定とディスプレイ画面の明るさ調整について説明します。

◆ メニューの操作方法および各メニュー項目について詳しくは、第6章「メニュー」をご覧ください。

## 日付と時刻を設定する

本機を初めて使用するときは、次の操作により日付と時刻を設定します。

**ご注意**

操作の前に、DISPLAY ボタンを押してモニター画像表示部を最大サイズにしてください。または、本機に外部モニターを接続して、モニター画面にメニューがスーパーインポーズされるようにしてください（30 ページ参照）。

**1** MENU ボタンを押す。

システムメニューが表示されます（68 ページ参照）。

**2** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して DATE/TIME PRESET を選択し、➡/OUT ボタンを押す。

DATE/TIME PRESET 画面が表示されます。

```
DATE/TIME PRESET

      YEAR   2006
     MONTH   04
       DAY   08
      TIME  10:09:17
 TIME ZONE  UTC_00:00

              INC/DEC : JOG DIAL
              SHIFT   : (←)(→)KEY
            DATE SAVE : SET KEY
              TO MENU : MENU KEY
```

DATE/TIME PRESET 画面では、次の項目を設定します。

**YEAR：**西暦年
**MONTH：**月
**DAY：**日
**TIME：**時間
**TIME ZONE：**タイムゾーン（協定世界時に対する時差）

**3** 年月日、時刻、タイムゾーンを設定する。

設定画面で点滅している桁の値を変更することができます。

**点滅桁を移動するには**

⬅/IN ボタンまたは ➡/OUT ボタンを押します。

**点滅桁の値を変更するには**

⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押すか、ジョグダイヤルを回します。

**値を初期値に戻すには**

RESET ボタンを押します。

**4** 必要な項目の設定が終わったら、SET ボタンを押す。

「NOW SAVING...」のメッセージが表示され、設定が保存されてメニューが消えます。

**設定を保存しないでメニューを消すときは**

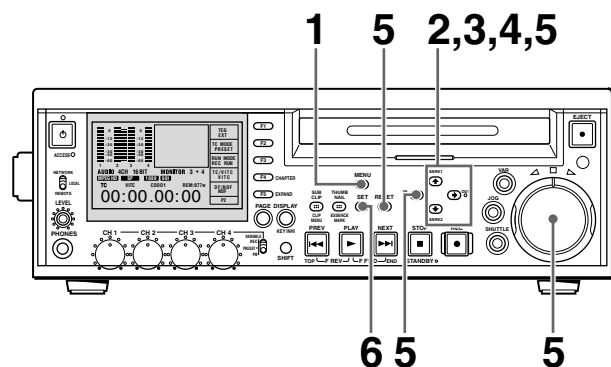
MENU ボタンを 2 回押します。

## ディスプレイ画面の明るさを調整する

次の操作により、ディスプレイ画面の明るさを調整することができます。

**ご注意**

操作の前に、DISPLAY ボタンを押してモニター画像表示部を最大サイズにしてください。または、本機に外部モニターを接続して、モニター画面にメニューがスーパーイン

ポーズされるようにしてください（30 ページ参照）ページ参照)。

**1** MENU ボタンを押す。

システムメニューが表示されます（68 ページ参照)。

**2** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して SETUP MENU を選択し、➡/OUT ボタンを押す。

セットアップメニューが表示されます（69 ページ参照)。

**3** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して DISPLAY CONTROL を選択し、➡/OUT ボタンを押す。

◆ DISPLAY CONTROL メニューが表示されます（70 ページ参照)。

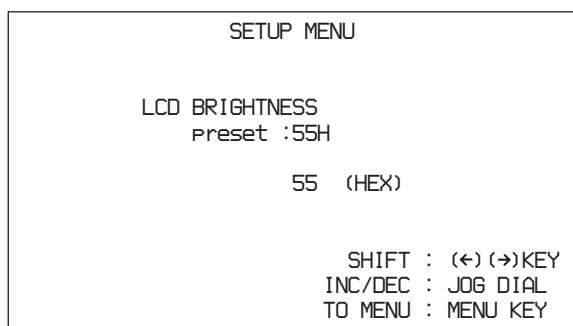
**4** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して BRIGHTNESS を選択し、➡/OUT ボタンを押す。

LCD BRIGHTNESS 画面が表示されます。

```
              SETUP MENU


     LCD BRIGHTNESS
        Preset :55H

              55  (HEX)


                 SHIFT : (←)(→)KEY
               INC/DEC : JOG DIAL
               TO MENU : MENU KEY
```

**5** 画面の状態を見ながら明るさを調整する。

設定画面で点滅している桁の値を変更することができます。16 進数（00 ～ 7F（HEX)）で行います。

**点滅桁を移動するには**

⬅/IN ボタンまたは ➡/OUT ボタンを押します。

**点滅桁の値を変更するには**

⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押すかジョグダイヤルを回します。

**値を工場出荷時の設定に戻すには**

RESET ボタンを押します。

**6** 調整が終わったら、SET ボタンを押す。

「NOW SAVING...」のメッセージが表示され、設定が保存されてメニューが消えます。

**設定を保存しないでメニューを消すときは**

MENU ボタンを 2 回押します。

# 文字情報をスーパーインポーズする

本機の HDSDI OUTPUT 1、2 端子および MONITOR 端子から出力される HDSDI 信号と、SDSDI OUTPUT 端子から出力される SDSDI 信号、COMPOSITE OUT 端子から出力されるコンポジットビデオ信号に、タイムコード、メニュー設定、アラームメッセージなどの文字情報をスーパーインポーズ ( 重ねて表示 ) することができます。



## 文字情報の表示をオン / オフするには

ファンクションメニュー P1 ページの CHAR SEL で設定します。(67 ページ参照)

**ON：**文字情報を表示する。

**OFF：**文字情報を表示しない。

**LCD：**本機のディスプレイには文字情報を表示し、本機に接続した外部モニターには文字情報を表示しない。

**ご注意**

ON を選択した場合、SETUP MENU >DISPLAY CONTROL >HD CHARA の設定により、HD 出力へのスーパーインポーズにすることもできます。

## 表示内容

a) システム周波数 60I/30P の場合のみ

### ❶ タイムデータの種類

| 表示 | 意味 |
|---|---|
| CNT | カウンターのデータ |
| TCR | TC リーダーのタイムコード |
| UBR | TC リーダーのユーザービット |
| TCR. | VITC リーダーのタイムコード |
| UBR. | VITC リーダーのユーザービット |
| TCG | タイムコードジェネレーターのタイムコード |
| UBG | タイムコードジェネレーターのユーザービット |
| IN | IN 点 |
| OUT | OUT 点 |
| DUR | IN 点から OUT までのデュレーション |

**ご注意**

タイムデータやユーザービットを正しく読みとれなかったときは、“T*R”、“U*R”、“T*R.”、“U*R.” のように、このブロックに “*” マークが表示されます。

### ❷ タイムコードリーダーのドロップフレームマーク ( システム周波数 60I/30P の場合のみ )

**“.”：**ドロップフレームモードのとき

**“：”：**ノンドロップフレームモードのとき

### ❸ タイムコードジェネレーターのドロップフレームマーク ( システム周波数 60I/30P の場合のみ)

**“.”：**ドロップフレームモード ( 工場出荷時の設定 ) のとき

**“：”：**ノンドロップフレームモードのとき

### ❹ VITC データのフィールドマーク

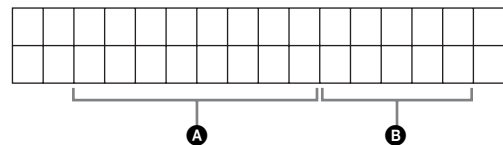
**“　”：ブランク ( 空白 )：**フィールド 1、3（システム周波数 60I/30P）またはフィールド 1、3、5、7（システム周波数 50I/25P）を表示するとき

**“*”：**フィールド 2、4（システム周波数 60I/30P）またはフィールド 2、4、6、8（システム周波数 50I/25P）を表示するとき

### ❺ 本機の動作モード

表示内容は、下図のように 2 ブロックに分かれています。

**A ブロック：**動作モード

**B ブロック：**サーボロック状態または再生速度

| 表示 | | 動作モード |
|---|---|---|
| A ブロック | B ブロック | |
| DISC OUT | | ディスクが挿入されていない |
| LOADING | | ディスク挿入中 |
| UNLOADING | | ディスク排出中 |
| STANDBY OFF | | スタンバイオフモード |

| 表示 | | 動作モード |
|---|---|---|
| A ブロック | B ブロック | |
| STOP | | ストップモード |
| NEXT | | 次のクリップの先頭フレームにキューアップ中 |
| PREV | | 現在のクリップの先頭フレームにキューアップ中 |
| F.FWD | | 順方向高速サーチ |
| F.REV | | 逆方向高速サーチ |
| PLAY | | 再生モード ( サーボアンロック ) |
| PLAY | LOCK | 再生モード ( サーボロック ) |
| REC | | 記録モード ( サーボアンロック ) |
| REC | LOCK | 記録モード ( サーボロック ) |
| JOG | STILL | ジョグモードの静止画 |
| JOG | FWD | 正方向のジョグ |
| JOG | REV | 逆方向のジョグ |
| SHUTTLE | STILL | シャトルモードの静止画 |
| SHUTTLE | ( 速度 ) | シャトルモード |
| VAR | ( 速度 ) | バリアブルモード |
| TOP 0001/xxxx | | 先頭クリップの先頭フレームにキューアップ中 |
| END xxxx/xxxx | | 最終クリップの最終フレームにキューアップ中 |
| PREROLL | | プリロール動作でのキューアップ中 |

## サブ情報を表示する

セットアップメニューの DISPLAY CONTROL >SUB STATUS を「OFF」以外に設定すると（70 ページ参照）、動作モード表示の下にサブ情報が表示されます。

```
TCR 00:04.47.07
   PLAY    LOCK
 INS V A1234 TC
```

サブ情報

SUB STATUS の設定と表示されるサブ情報の内容は次のとおりです。

| SUB STATUS の設定 | サブ情報の内容 |
|---|---|
| TC MODE | 内蔵タイムコードジェネレーターの動作状態 |
| REMAIN | ディスクの空き容量（分単位） |
| CLIP NO | クリップ番号 |

次表に、実際にモニター画面に出るサブ情報の表示とその意味を示します。

### SUB STATUS を「TC MODE」に設定したとき

| 画面上の表示 | 意味 |
|---|---|
| INT PRST FREE | 内蔵タイムコードジェネレーターが FREE RUN モードで歩進している。 |
| INT PRST REC | 内蔵タイムコードジェネレーターが REC RUN モードで歩進している。 |
| INT REGEN-T&U | 内蔵のタイムコードジェネレーターが読み取ったタイムコード（LTC）に同期している。 |
| EXT LTC-T&U | 内蔵タイムコードジェネレーターが、外部から入力されるタイムコード（LTC）に同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生 ( リジェネレート ) している。 |
| EXT VITC-T&U | 内蔵タイムコードジェネレーターが、外部入力ビデオ信号に挿入されている VITC に同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生 ( リジェネレート ) している。 |
| EXT DVIN-T&U | 内蔵タイムコードジェネレーターが、S400 端子を介して入力される外部タイムコードに同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生 ( リジェネレート ) している。 |
| EXT DVIN.V-T&U | 内蔵タイムコードジェネレーターが、S400 端子を介して入力される外部 VITC に同期して、それと同じ値のタイムコードおよびユーザービットデータを発生 ( リジェネレート ) している。 |

### SUB STATUS を「REMAIN」に設定したとき

| 画面上の表示 | 意味 |
|---|---|
| REMAIN 120 min | ディスクの記録残量を分単位で表示する。残量が未検出のとき、表示は“REMAIN --- min”になる。 |

# 記録・再生　第3章

## ディスクの取り扱い

### 記録・再生が可能なディスク

本機では、以下のディスクの記録・再生が可能です。

Professional Disc [1]（プロフェッショナルディスク）
PFD23（容量 23.3GB）

1)Professional Disc はソニー株式会社の商標です。

**ご注意**

以下のディスクを使って記録・再生することはできません。

- Blu-ray Disc
- Professional Disc for Data

### 取り扱い上の注意

#### 取り扱いかた

プロフェッショナルディスクはカートリッジに収納されているため、ほこりや指紋を気にせずに手軽に取り扱えるように設計されています。ただし、落下などにより強い衝撃をカートリッジに与えると、破損、ディスクへの傷の原因となることもあります。傷などが付くと、録画できなくなったり、録画した内容を再生できなくなることがありますので、取り扱いには充分注意し、大切に保管してください。

- カートリッジ内のディスクには直接触れないでください。
- 故意にシャッターを開けると破損の原因になります。
- カートリッジを分解しないでください。
- インデックスシールは付属のシールを推奨します。正しい位置に貼ってください。

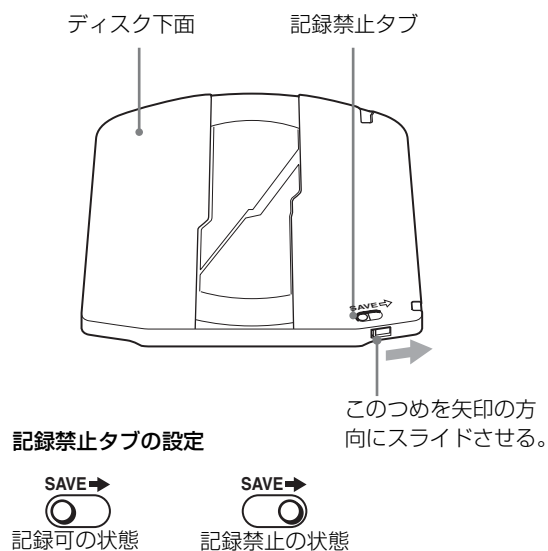
#### 保管のしかた

- 直接日光が当たるところなど、温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。
- カートリッジにほこりなどが入る可能性のあるところには放置しないでください。
- カートリッジはケースに入れて保管してください。

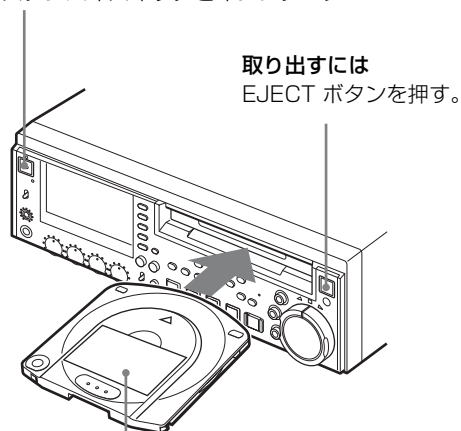
#### お手入れのしかた

- カートリッジ表面についたほこりやゴミは、乾いた布で軽くふき取ってください。
- 結露した場合は、十分乾いてからご使用ください。

### 誤消去を防止する

ディスクの記録内容を誤って消してしまうのを防ぐには、次図のようにディスク下面（ラベル面の裏側）にある記録禁止タブを矢印の方向に設定しておきます。

◆ クリップごとに削除を禁止することもできます。詳しくは、「クリップをロック（保護）する」（41 ページ）をご覧ください。

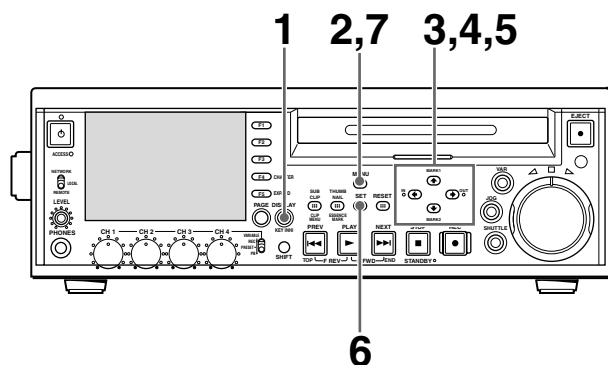
### ディスクを出し入れする

ディスクの出し入れは、オン / スタンバイスイッチのインジケーターが緑色に点灯した状態で、次図に示すように行ってください。

ディスクを挿入すると、ディスク挿入部のインジケーターがオレンジ色で点滅し、挿入が完了すると青色に点灯します。ディスクをイジェクトすると、ディスク挿入部のインジケーターが青色で点滅し、イジェクトが完了すると消灯します。

## ディスクをフォーマットする

本機に未使用のディスクを挿入すると、自動的にフォーマットされます。
記録済ディスクをフォーマットする場合は、フォーマットするディスクを挿入して、次のように操作します。

**ご注意**

記録済みディスクをフォーマットすると、ディスクに記録されていたデータは消去されます。（ロックされているクリップ（41 ページ参照）も消去されます。）

**1** DISPLAY ボタンを押してモニター画像表示部のサイズを最大にする。

**2** MENU ボタンを押す。

ディスプレイにシステムメニューが表示されます。

**3** ↑/MARK1 ボタンまたは ↓/MARK2 ボタンを押して DISC MENU を選択し、➡/OUT ボタンを押す。

**4** ↓/MARK2 ボタンを押して FORMAT を選択し、➡/OUT ボタンを押す。

メニュー項目 QUICK FORMAT が選択されます。

**5** ➡/OUT ボタンを押す。

「QUICK FORMAT OK?」のメッセージが表示されます。

**ディスクフォーマットを中止するときは**
RESET ボタンを押して手順 **3** の状態に戻ります。メニューを消すときは手順 **7** を実行します。

**6** SET ボタンを押す。

フォーマットが始まります。
ディスクのフォーマットが終了すると、「FORMAT COMPLETED.」のメッセージが表示されます。

**引き続き別のディスクをフォーマットするときは**
「FORMAT COMPLETED.」のメッセージが表示されたら、EJECT ボタンを押してディスクを取り出します。フォーマットしたいディスクを挿入し、「QUICK FORMAT OK?」のメッセージが表示されたら SET ボタンを押します。

**7** MENU ボタンを押して、メニューを消す。

## 記録を正常に終了できなかった場合のディスクの取り扱い（サルベージ機能）

記録中に後面パネルの POWER スイッチをオフにしたり電源コードを抜くと、記録が正常に終了しません。その結果、ファイルシステムが更新されず、リアルタイムに記録されていたビデオ / オーディオデータがファイルとして認識されないため、そのときまでに記録したクリップの内容が失われます。
本機はこのようなディスクを最小限の損失で復元する機能を備えており、これをサルベージ機能といいます。サルベージ機能には、自動的に実行されるクイックサルベージと必要に応じて実行できるフルサルベージがあります。

**クイックサルベージ：**不揮発性メモリーのバックアップデータとディスクに記録されているマーカーを元にしてクリップを復元します。処理時間は約 5 秒です。

電源オフにより記録が中断した後、ディスクが入ったまま電源を再投入すると、自動的にクイックサルベージが行われます。

**フルサルベージ：**ディスクに記録されているマーカーだけを元にしてクリップを復元します。このためクイックサルベージより処理に時間がかかります。（ディスクの状態によって変わりますが、30 秒程度です。）
電源オフにより記録が中断した機器から、電源オフのまま手動で取り出されたディスクを本機に挿入すると、フルサルベージの実行が促されます。

なお、記録中に前面パネルのオン / スタンバイスイッチをスタンバイに切り換えた場合は、記録後のデータ処理を完了してからスタンバイ状態になるため、そのときまでに記録したクリップの内容は失われません。

**ご注意**

- 記録が終了しても、ACCESS インジケーターが消灯するまでは後面パネルの POWER スイッチをオフにしないでください。
- 本機能は、不慮の事故が発生した場合に、記録した素材をできるだけ救済するために搭載されていますが、復元を 100% 保証するものではありません。
- 本機能を実行しても、記録中断直前のデータは復元できません。データの消失量は次のとおりです。
  **クイックサルベージ：**記録中断直前の 2 ～ 4 秒間のデータ
  **フルサルベージ：**記録中断直前の 4 ～ 6 秒間のデータ
- クリップを復元していないディスクを挿入したり、挿入した状態で電源を入れると、毎回フルサルベージの実行を促されます。
- クリップを復元していないディスクでは、正常に記録できた部分を再生することはできますが、新たに記録することはできません。クイックフォーマットを行うと使用できるようになりますが、元の記録内容がすべて失われます。

## フルサルベージによりクリップを復元するには

**1** 記録が正常に終了していないディスクを挿入する。

ディスプレイに「Salvage ?」のメッセージが表示されます。

**クリップの復元を中止するときは**
RESET ボタンを押します。

**ご注意**

- REC INH が表示されているときは、「EJECT?」のメッセージが表示されます。ディスクが記録禁止状態になっている場合は、取り出して記録禁止状態を解除してから入れ直してください。ファンクションメニュー P1 ページで REC INH が「ON」になっている場合は「OFF」にしてください。
- いったん復元処理が始まると、中断することはできません。

**2** SET ボタンを押す。

復元処理が始まり、「Executing.」のメッセージが表示されます。
処理が終了すると結果が表示されます。
「Incomplete!」と表示された場合、正常終了しなかったクリップは失われます。

# 記録

ここでは、本機で映像と音声を記録する方法を説明します。

◆ ファンクションメニューの操作について詳しくは、第5章の「ファンクションメニュー」をご覧ください。

◆ セットアップメニューの操作について詳しくは、第5章の「セットアップメニュー」をご覧ください。

**ご注意**

1枚のディスクにシステム周波数や音声記録フォーマットの異なる記録を混在させることはできません（ただしビットレートの混在は可）。記録済み部分とシステム周波数や音声記録フォーマットを変えて記録しようとすると、記録禁止となり、ディスプレイに REC INH が表示されます。

記録を始める前に、次の設定と調整を行います。

**記録フォーマットの設定：**次項「記録フォーマットを設定するには」参照。

**映像入力信号の選択：**ファンクションメニュー HOME ページの V INPUT で選択。

**音声入力信号の選択：**ファンクションメニュー HOME ページの A1 INPUT ～ A4 INPUT で選択。

**リモート / ローカル設定：**リモートコントロールスイッチで設定。リモートの場合は、セットアップメニューの INTERFACE SELECT >REMOTE I/F も設定（ディスプレイに REMOTE のインジケーターと使用する端子名が表示される）。

## 記録フォーマットを設定するには

### 映像記録フォーマットを設定するには

圧縮方式（ビデオビットレート）を、セットアップメニューの OPERATIONAL FUNCTION >REC FORMAT で、次のいずれかに設定します。

| メニュー設定 / ディスプレイの表示 | ビデオビットレート |
|---|---|
| HQ | VBR 35Mbps |
| SP | CBR 25Mbps |
| LP | VBR 18Mbps |

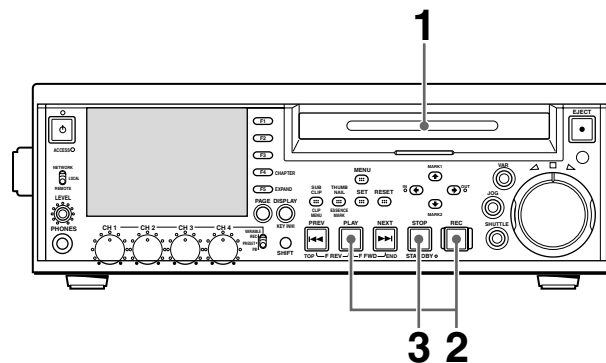
### 音声記録フォーマットを設定するには

セットアップメニューの AUDIO CONTROL >REC MODE で、次のいずれかに設定します。

| メニュー設定 | ディスプレイの表示 | 音声記録フォーマット |
|---|---|---|
| 2ch × 16bit | 2CH 16BIT | 2チャンネル /16 ビット |
| 4ch × 16bit | 4CH 16BIT | 4チャンネル /16 ビット |

## 記録する

1回の記録部分（記録開始から記録停止まで）を「クリップ」と呼びます。

◆ クリップについて詳しくは、第4章「シーンセレクション」をご覧ください。

**1** ディスクを挿入する。

**2** REC ボタンを押したまま PLAY ボタンを押す。

記録が始まります。

**3** 記録を止めるときは、STOP ボタンを押す。

### ディスクの記録容量を使い切ると

記録が停止し、ディスプレイに「ALARM DISC END.」のメッセージが表示されます。

**ご注意**

- 記録できるクリップの最短時間は2秒です。記録と停止の操作を2秒以内で行った場合も2秒間記録します。
- 記録できるクリップの最大数は 300 個です。クリップが 300 個記録されたディスクを入れて REC ボタンを押しても記録できません。（タイムデータ表示部に「Disc Full!」と表示されます。）
- 記録中に後面パネルの POWER スイッチをオフにしたり、電源コードを抜いたりしないでください。記録中に電源が切れると、そのときに記録していたクリップの内容は保証されません。詳しくは、「記録を正常に終了できなかった場合のディスクの取り扱い（サルベージ機能）」（33 ページ）をご覧ください。

# 再生

ここでは、本機で映像と音声を再生する方法を説明します。

再生を始める前に、次の設定を行います。

**リモート / ローカル設定：** リモートコントロールスイッチで設定。リモートの場合は、セットアップメニューのINTERFACE SELECT >REMOTE I/F も設定（ディスプレイに REMOTE のインジケーターと使用する端子名が表示される）。



## ディスクの再生開始位置について

本機は光ディスクを使用しますが、VTR で使用するテープと同様な使い勝手が考慮されています。

### 停止後

STOP ボタンを押した位置で停止します。
PLAY ボタンを押すと、停止した位置から再生を開始します。

### 記録後

記録を終了した位置で停止します。
再生するには、PREV ボタンを押して任意のクリップの先頭フレームに移動するか、または PLAY ボタンを押したまま PREV ボタンを押して任意の位置に移動してください。

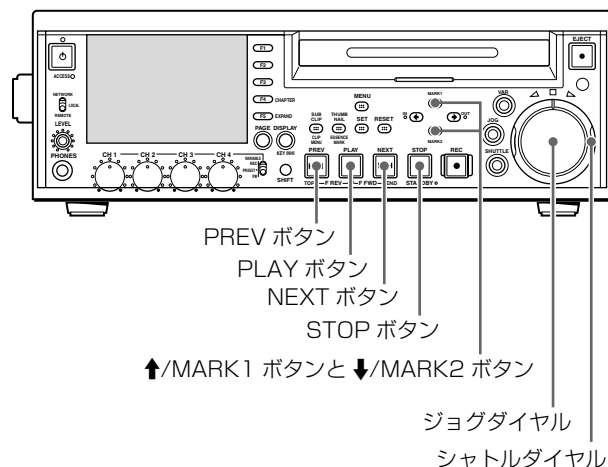
### ディスク挿入後

前回ディスクを取り出したときの位置で停止します。
PLAY ボタンを押すと、前回ディスクを取り出したときの位置から再生を開始します。
再生位置はディスク取り出し時にディスクに保存されるため、他の XDCAM 機器に挿入しても再生位置を再現することができます。

**ご注意**

記録禁止タブが記録禁止の状態に設定されているディスクを挿入していたり、ファンクションメニュー P1 ページでREC INH が「ON」になっている場合、この機能は働きません。

## 再生する

あらかじめディスクを挿入してください。

### 再生を始めるには

PLAY ボタンを押します。
再生が始まります。
ディスクに複数のクリップが記録されている場合は、それらのクリップが連続して再生されます。

### 前後のクリップに移動して再生を行うには

PREV ボタン、NEXT ボタン、ジョグダイヤル、シャトルダイヤルなどを使用します。

### 再生を止めるには

STOP ボタンを押します。
最後のクリップまで再生されると再生が停止します。
この状態で再度 PLAY ボタンを押すと、ディスプレイに「ALARM DISC END.」のメッセージが表示されます。
再び再生を行うには、PREV ボタン、ジョグダイヤル、シャトルダイヤルなどを使用して希望のクリップに移動します。

### ショットマークを設定するには

ディスク再生中に、任意のフレームにエッセンスマークとしてショットマーク 1 またはショットマーク 2 を設定することができます。
ショットマーク 1 またはショットマーク 2 を設定するには、⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押したまま SET ボタンを押します。

**ご注意**

エッセンスマークを消去したり、変更したりするには、付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を使用します。

# サムネイル画を使って検索する（サムネイルサーチ）

ディスクに記録されたすべてのクリップのサムネイル画（代表画）を表示して、希望のクリップを頭出しすることができます。

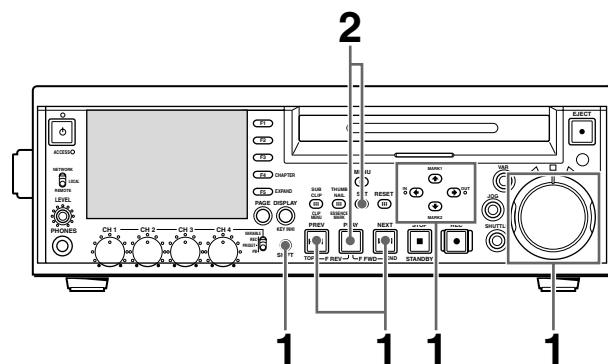
## サムネイル画を一覧表示するには

SUB CLIP ボタンが消灯している状態で、THUMBNAIL ボタンを押して点灯させます。
ディスクに記録されたクリップのうち、現在再生しているクリップを含む 12 個のクリップのサムネイル画が一覧表示されます。( 以降の操作説明では、これを「サムネイル画面」と呼びます。)

a) クリップにタイトルを付けた場合（48 ページ参照）は、タイトルが "TITLE00001" のようにダブルクォーテーションマーク（"）で囲まれて表示される。
b) 代表画が先頭フレーム以外のフレームの場合は、そのことを示すマークが表示されます（「サムネイル画（代表画）を変更するには」の手順 **7**（38 ページ）参照)。

### 元の画面に戻るには

THUMBNAIL ボタンを押して消灯させます。
これ以降の任意の画面において、THUMBNAIL ボタンを押すと元の画面に戻ることができます。

## サムネイル画を選択して再生を開始するには

**1** 次のいずれかの方法で、頭出ししたいクリップのサムネイル画を選択する。

- 矢印ボタンを押す。
- ジョグ / シャトルダイヤルを回す。
- PREV/NEXT ボタンを押す:1 つ前または次のサムネイル画に移動する。
- TOP ボタン（SHIFT ＋ PREV）または END ボタン（SHIFT ＋ NEXT）を押す：先頭または末尾のサムネイル画に移動する。
- SHIFT ボタンを押したまま ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押す : 1 つ前または次のページに切り換える。

**2** SET ボタンまたは PLAY ボタンを押す。

SET ボタンを押すと、選択したクリップの先頭フレームが静止画として表示されます。
PLAY ボタンを押すと、選択したクリップの先頭フレームから再生が始まります。

**ご注意**

サムネイル画は工場出荷時にはクリップの先頭フレームに設定されていますが、クリップ内の任意のフレームに変更することができます（「サムネイル画（代表画）を変更するには」（38 ページ）参照)。ただしサムネイル画を変更した場合でも、常にクリップの先頭が頭出しされます。

## サムネイル画に表示するクリップ情報を変更するには

サムネイル画を一覧表示した状態で、次のように操作します。

**1** CLIP MENU ボタン（SHIFT+SUB CLIP）または MENU ボタンを押してクリップメニューを表示する。

**2** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して、CLIP INFORMATION を選択する。

**3** SET ボタンを押す。

CLIP INFORMATION の選択項目が表示されます。
**DATE：**記録日時
**TIME CODE：**先頭タイムコード
**DURATION：**記録時間
**SEQUENCE NUMBER：**サムネイルの連番

◆ サムネイルの連番については、「サムネイルに連番を振る」(44 ページ) をご覧ください。

工場出荷時には「TIME CODE」が選択されています。

**4** ⬆/MARK1 または ⬇/MARK2 ボタンを押して、クリップ情報として表示したい項目を選択し、SET ボタンを押す。

選択した項目がクリップ情報としてサムネイル画の下に表示されます。

### サムネイル画（代表画）を変更するには

サムネイル画を一覧表示した状態で、次のように操作します。

**1** CLIP MENU ボタン（SHIFT+SUB CLIP）または MENU ボタンを押してクリップメニューを表示する。

**2** ⬆/MARK1 ボタン、⬇/MARK2 ボタン ⬅/IN ボタン、➡/OUT ボタンのいずれかを押して、SET INDEX PICTURE を選択する。

**3** SET ボタンを押す。

画面の左上部に「SET INDEX」と表示されます。

**4** サムネイル画を変更したいクリップを選択する（「サムネイル画を選択して再生を開始するには」の手順 **1**（37 ページ参照）と同様の操作が可能）。

**5** SET ボタンを押す。

現在のサムネイル画が拡大表示されます。

**6** PLAY ボタンを押すかジョグ/シャトルダイヤルを使用してクリップを再生し、サムネイル画に指定したい映像を表示する。

**サムネイル画の変更を中止するには**
RESET ボタンを押します。

**7** SET ボタンを押す。

サムネイル画の一覧表示に戻り、指定したサムネイル画が表示されます。
サムネイル画が先頭フレーム以外のフレームの場合は、そのことを示すマークが表示されます。

サムネイル画が先頭フレームではないことを示すマーク

**ご注意**

マークが表示されているサムネイル画を選択して、SET ボタンまたは PLAY ボタンを押しても、サムネイル画の位置は頭出しされません。必ず、クリップの先頭フレームが頭出しされます。

## エクスパンド機能を使って検索する

エクスパンド機能を使うと、サムネイル画を一覧表示した状態で選択したクリップを時間で 12 分割し、各ブロックの先頭フレームをさらにサムネイル画として一覧表示することができます。この機能により、クリップの内容をすばやく把握して、目的のシーンを効率よく検索できます。最大 3 回まで（12 分割、144 分割、1728 分割）エクスパンドを実行できます

**ご注意**

記録時間が短いクリップをエクスパンドすると、最大分割数が 1728 以上に設定される場合があります。この場合には、エクスパンドされたサムネイルのフレーム間隔が 1 フレームに固定で表示されるため、等しい時間間隔でのエクスパンド表示を見ることができます。

### エクスパンドを実行するには

**1** サムネイルを一覧表示した状態で、目的のシーンが含まれているクリップのサムネイル画を選択する。

**2** EXPAND ボタン（F5 ボタン）を押す。

選択したクリップが 12 分割され、各ブロックの先頭フレームがサムネイル画として一覧表示されます。

**3** 必要なら、あと 2 回まで手順 **2** を繰り返す。

**ご注意**

分割されたサムネイルのデュレーションが 1 フレームになると、それ以上分割することはできません。

#### 1 段階前の画面に戻すには

SHIFT ボタンを押したまま EXPAND ボタンを押します。

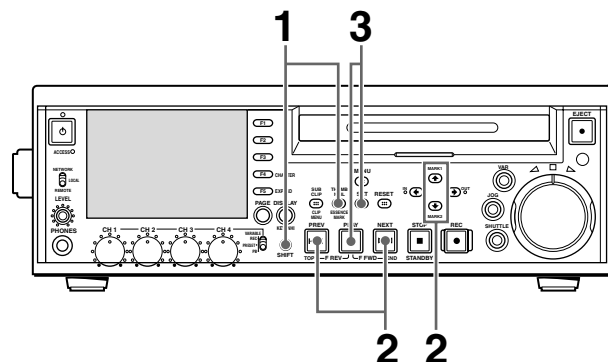
#### サムネイル一覧表示の画面に戻すには

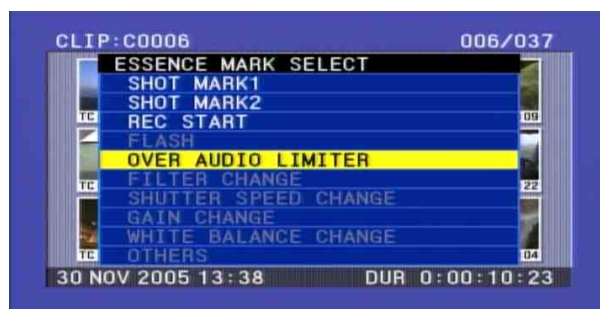
RESET ボタンを押します。

**4** 目的のシーンのサムネイル画が見つかったら、SET ボタンまたは PLAY ボタンを押す。

SET ボタンを押すと、選択したフレームが静止画として表示されます。
PLAY ボタンを押すと、選択したフレームから再生が始まります。

## エッセンスマークを使って検索する

以下のように操作します。

**1** SUB CLIP ボタンが消灯している状態で、ESSENCE MARK ボタン（SHIFT ＋ THUMBNAIL）を押して点灯させる。

エッセンスマーク選択画面が表示されます。

ディスクに記録されていないエッセンスマーク名は灰色で表示されます。

#### サムネイル一覧表示画面に戻るには

RESET ボタンを押します。

**2** PREV ボタンまたは NEXT ボタンを押すか、⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して、希望のエッセンスマークを選択する。

**3** SET ボタンを押す。

選択したエッセンスマークが設定されているフレームが一覧表示されます。

エッセンスマーク (SHOT MARK1) が設定されたフレームのサムネイル画であることを示す。

計 36 の SHOT MARK1 フレーム中 6 番目が選択されている。

フレームの情報（記録日時、タイムコード、記録時間）

現在選択されている SHOT MARK1 フレーム

選択されているフレームが含まれているクリップの記録日時

選択されている SHOT MARK から次の SHOT MARK までの時間

**4** 頭出ししたいフレームのサムネイル画を選択する（「サムネイル画を選択して再生を開始するには」の手順 **1**（37 ページ）と同様の操作が可能）。

**5** SET ボタンまたは PLAY ボタンを押す。

SET ボタンを押すと、選択したエッセンスマークが設定されているフレームが静止画として表示されます。PLAY ボタンを押すと、選択したエッセンスマークが設定されているフレームから再生が始まります。

## チャプター機能を使って検索する

クリップ内に設定されたショットマーク位置をチャプターとしてサムネイル表示することができます。

◆ ショットマークの設定方法については、「ショットマークを設定するには」（36 ページ）をご覧ください。

**1** サムネイルを一覧表示した状態で、目的のシーンが含まれているクリップのサムネイル画を選択する。

ショットマークが設定されたクリップのサムネイルの右上部には、「S」マークが表示されます。

S マーク

**2** CHAPTER ボタン（F4 ボタン）を押す。

CHAPTER 画面が表示され、ショットマークが設定されている位置のフレームがサムネイル表示されます。サムネイル画上に表示される「S1」、「S2」はそれぞれ SHOT MARK1、SHOT MARK2 が設定されたフレームであることを示します。
表示のないサムネイル画は、REC START（レックスタート）が設定されたフレームです。

**3** 頭出ししたいフレームのサムネイル画を選択する（「サムネイル画を選択して再生を開始するには」の手順 **1**（37 ページ）参照）と同様の操作が可能）。

**4** SET ボタンまたは PLAY ボタンを押す。

SET ボタンを押すと、選択したショットマークが設定されているフレームが静止画として表示されます。PLAY ボタンを押すと、選択したショットマークが設定されているフレームから再生が始まります。

### チャプター位置のショットマークを削除するには

CHAPTER 画面でチャプター位置のショットマーク（SHOT MARK1 と SHOT MARK2）を削除することができます。（REC START は削除できません。）

**1** CHAPTER 画面を表示して、CLIP MENU（SHIFT + SUB CLIP）ボタンまたは MENU ボタンを押してクリップメニューを表示する。

**2** DELETE SHOT MARK を選択する。

画面の左上部に「DELETE SHOT MARK」と表示されます。

**3** 削除したいショットマーク位置のサムネイル画を選択する。

**4** SET ボタンを押す。

削除を実行するかどうか確認するメッセージが表示されます。

**5** 削除を実行する場合は「OK」を、削除を中止するときは「CANCEL」を選択して SET ボタンを押す。

## クリップリストを使って再生する

シーンセレクションによって作成したクリップリストに従って再生を行います。

◆ シーンセレクションについて詳しくは、第 4 章をご覧ください。

### クリップリストの順に再生するには

次のように操作します。

**1** 再生したいクリップリストがディスク上にある場合は、これをカレントクリップリストに読み込む。

**2** SUB CLIP ボタンを押して点灯させる。

**3** PLAY ボタンを押す。

カレントクリップリストの先頭から、サブクリップの順に再生されます。

**ご注意**

- SUB CLIP ボタンの操作は、本機が停止した状態で行います。「STOP にしてから実行して下さい」のメッセージが表示されたら、STOP ボタンを押してください。
- クリップリストに含まれるサブクリップの長さや、それらのディスク上の配置条件によっては、サブクリップの境界で再生が瞬間的にフリーズすることがあります。

### サブクリップのサムネイル画を使って頭出しするには

目的のクリップリストがカレントクリップリストに読み込まれている状態で、次のように操作します。

**1** SUB CLIP ボタンおよび THUMBNAIL ボタンを押して、それぞれ点灯させる。

サブクリップの先頭フレームがサムネイル表示されます。

カレントクリップリストの名前 a)
計 34 のサブクリップの中の 6 番目が選択されている。
サブクリップの情報（作成日時、先頭タイムコード、再生時間）
現在選択されているサブクリップ
クリップリストの記録日時
クリップリスト内のサブクリップの合計再生時間

a) クリップリストにタイトルを付けた場合は、タイトルが "TITLE00001" のようにダブルクォーテーションマーク（"）で囲まれて表示される。

**元の画面に戻るには**

THUMBNAIL ボタンを押して消灯させます。

**2** 頭出ししたいクリップのサムネイル画を選択する（「サムネイル画を選択して再生を開始するには」の手順 **1**（37 ページ）と同様の操作が可能）。

**3** SET ボタンまたは PLAY ボタンを押す。

SET ボタンを押すと、選択したクリップの先頭フレームが静止画として表示されます。
PLAY ボタンを押すと、選択したクリップの先頭フレームから再生が始まります。

**ご注意**

クリップリストでは、常にサブクリップの先頭フレーム（IN 点フレーム）がサムネイル表示されます。

## クリップをロック（保護）する

サムネイル画面では、選択したクリップが削除、変更されないようにロックすることができます。
以下の操作からクリップを保護します。

- 削除
- FAM/FTP 経由での名前の変更
- サムネイル画（代表画）の設定
- ショットマークの追加・削除

**ご注意**

- ディスクをフォーマットすると、ロックしたクリップも削除されます。
- ディスクの記録禁止タブが記録禁止の状態に設定されているか、またはファンクションメニュー P1 ページの「REC INH」が「ON」に設定されている場合は、クリップをロック / アンロック（ロックを解除）することはできません。

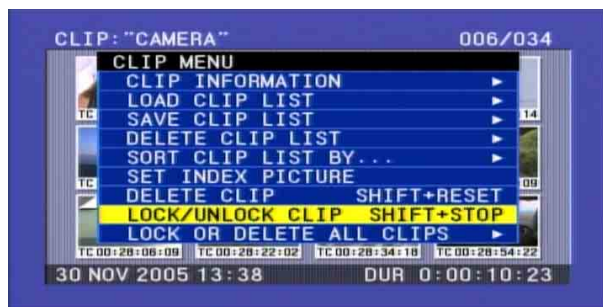
**1** SUB CLIP ボタンが消灯している状態で、THUMBNAIL ボタンを押して点灯させる。

ディスク内のクリップのサムネイルが表示されます。

**2** ロックしたいクリップを選択する。（「サムネイル画を選択して再生を開始するには」の手順 **1**（37 ページ参照）と同様の操作が可能）

ロックの対象になるクリップ

**3** MENU ボタンを押す。

CLIP メニューが表示されます。

**4** ♦/MARK1 または ♦/MARK2 ボタンを使用して「LOCK/UNLOCK CLIP」を選択し、SET ボタンを押す。

ロック確認画面が表示されます。この画面では、クリップ名およびクリップのタイトルが表示されます。

**ロックを行わずにサムネイル画面に戻るには**

「CANCEL」を選択してから SET ボタンを押します。または RESET ボタンか MENU ボタンを押します。

**5** 「OK」が選択された状態で SET ボタンを押す。

サムネイル画面に戻り、選択したクリップのサムネイルにはロックされたことを示す錠前アイコンが表示されます。

錠前のアイコン

ロックされたクリップに対して、削除および代表画の設定などはできません。これらの操作を行うには、クリップをアンロック（ロックを解除）してください。

**簡単な操作でクリップをロックするには**

手順 **2** を実行した後に、SHIFT ボタンを押したまま STOP ボタンを押します（ショートカット操作）。
クリップメニューを表示させないでクリップをロックできます。

**クリップのロックを解除するには**

「クリップをロックする」の手順 **2** で、ロックされているクリップ（錠前アイコンが表示されているサムネイル）を選択し、以下のいずれかを実行します。

- 「クリップをロックする」の手順 **3**、**4** を実行する。
- SHIFT ボタンを押したまま STOP ボタンを押す（ショートカット操作）。

**すべてのクリップをロックするには**

**1** 「クリップをロックする」の手順 **1** と **3** を実行して、CLIP メニューを表示させる。

**2** ♦/MARK1 または ♦/MARK2 ボタンを使用して「LOCK OR DELETE ALL CLIPS」を選択し、➡/OUT ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

**3** 「LOCK ALL CLIPS」を選択し、SET ボタンを押す。

ロック確認画面が表示されます。

**4** 「OK」が選択された状態で SET ボタンを押す。

すべてのクリップがロックされます。

**すべてのクリップのロックを解除するには**

「すべてのクリップをロックするには」の手順 **2** で「UNLOCK ALL CLIPS」を選択する以外は、同様に操作します。

## クリップを削除する

内容を確認しながら任意のクリップを削除することができます。

**ご注意**

- ディスクの記録禁止タブが記録禁止の状態に設定されているか、またはファンクションメニュー P1 ページの「REC INH」が「ON」に設定されている場合は、クリップを削除することはできません。
- ロックされているクリップは削除されません。
- 削除対象のクリップがクリップリストから参照されているときは、そのクリップリストも削除されます。
- 削除対象クリップがカレントクリップリストから参照されている場合には、参照しているサブクリップのみが同時に削除されます。

**1** SUB CLIP ボタンが消灯している状態で、THUMBNAIL ボタンを押して点灯させる。

ディスク内のクリップのサムネイルが表示されます。

**2** 削除したいクリップを選択する（「サムネイル画を選択して再生を開始するには」の手順 **1**（37 ページ参照）と同様の操作が可能）。

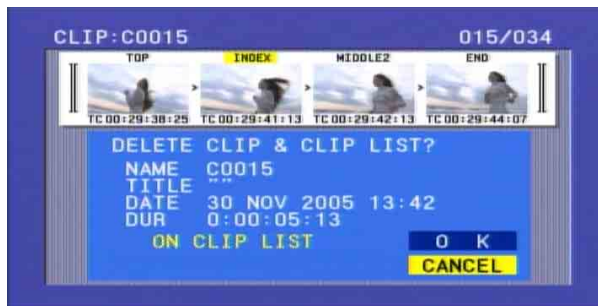
削除の対象になるクリップ

**3** MENU ボタンを押す。

CLIP メニューが表示されます。

**4** ⬆/MARK1 または ⬇/MARK2 ボタンを使用して［DELETE CLIP］を選択し、SET ボタンを押す。

削除確認画面が表示され、削除対象となるクリップ内の 4 枚のフレーム（先頭フレーム、中間フレーム 1、中間フレーム 2、最終フレーム）がサムネイル表示されます。同時に、クリップ名、タイトル、作成日時、デュレーションが表示されます。
また、クリップがクリップリストから参照されているかどうかによって、次のメッセージが表示されます。

- クリップリストから参照されていないとき：「DELETE CLIP?」
- クリップリストから参照されているとき：「DELETE CLIP & CLIP LIST?」（削除対象のクリップを参照しているすべてのクリップリストも同時に削除されます。）

**削除を行わずにサムネイル画面に戻るには**

「CANCEL] を選択してから SET ボタンを押します。
または RESET ボタンか MENU ボタンを押します。

**5** ⬆/MARK1 ボタンを使用して「OK」を選択してから、SET ボタンを押す。

選択したクリップが削除され、サムネイル画面に戻ります。

### 簡単な操作でクリップを削除するには

手順 **2** を実行した後に、SHIFT ボタンを押したまま RESET ボタンを押します（ショートカット操作）。
CLIP メニューが表示されずに、直接、削除確認画面が表示されます。

### すべてのクリップを削除するには

**1** 「クリップをロックする」の手順 **1** と **3** を実行して、CLIP メニューを表示させる。

**2** ⬆/MARK1 または⬇/MARK2 ボタンを使用して「LOCK OR DELETE ALL CLIPS」を選択し、➡/OUT ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

**3** 「DELETE ALL CLIPS」を選択し、SET ボタンを押す。

削除確認画面が表示されます。

**4** 削除を実行するには、⬆/MARK1 ボタンを使用して「OK」を選択してから、SET ボタンを押す。

すべてのクリップが削除されます。ただし、ロックされたクリップは削除されません。
すべてのクリップが削除された場合は、サムネイル表示画面を抜けて元の画面に戻ります。

## サムネイルに連番を振る

表示されているサムネイルに連番を振ることができます。

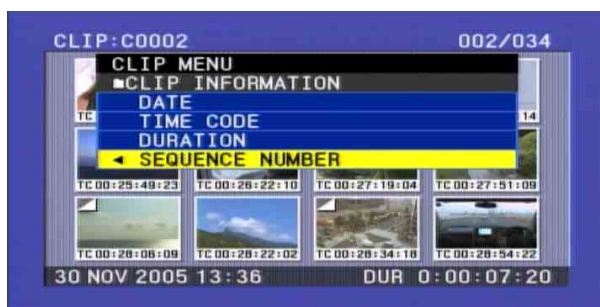
**1** SUB CLIP ボタンが消灯している状態で、THUMBNAIL ボタンを押して点灯させる。

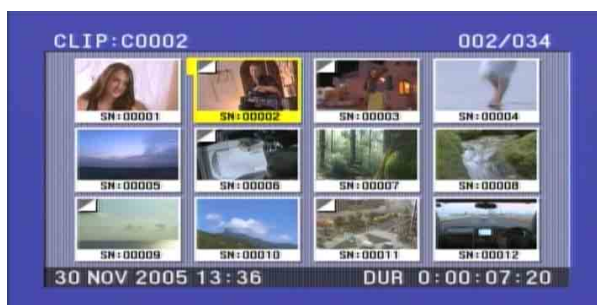
ディスク内のクリップのサムネイルが表示されます。

**2** MENU ボタンを押す。

CLIP メニューが表示されます。

**3** ↑/MARK1 ボタンを使用して「CLIP INFORMATION」を選択し、SET ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

**4** ↓/MARK2 ボタンを使用して「SEQUENCE NUMBER」を選択し、SET ボタンを押す。

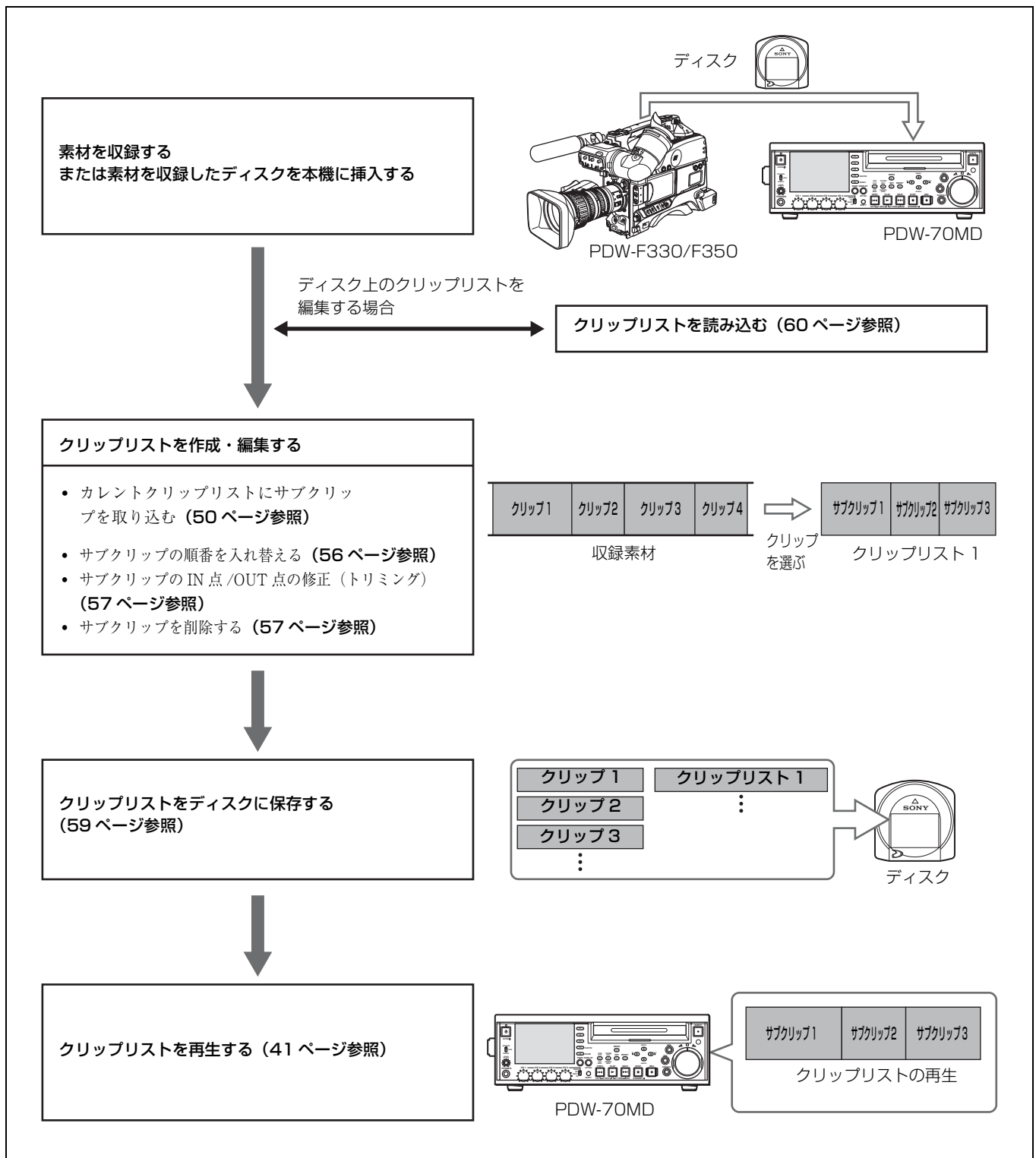
次図のようにサムネイルにシーケンス番号が振られて表示されます。

# シーンセレクション　第4章

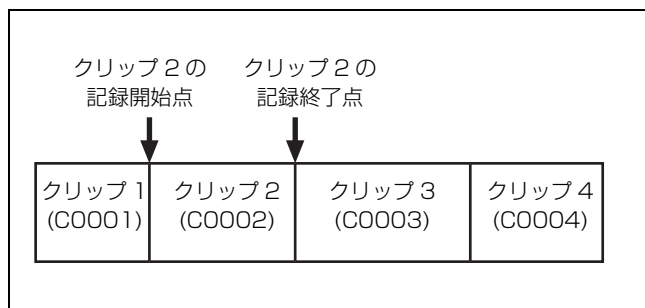
## 概要

### シーンセレクションとは

シーンセレクションとは、ディスクに記録されている素材（クリップ）から必要な素材を選び、カット編集する機能です。本機の操作のみで行うことができます。

- シーンセレクション機能は、収録現場などのオフライン環境でカット編集を行うのに便利です。
- シーンセレクションではクリップリスト（編集データ）を作成します。素材そのものに手を加えないので、何度でもやり直しをすることができます。
- シーンセレクションで作成した編集リストは、本機で再生することができます。
- シーンセレクション機能により、クリップ単位の追加、クリップの一部の追加、チャプターを使った追加、再生順序の入れ替え、IN 点 /OUT 点の修正、削除などの操作を、本機で簡単に行うことができます。
- シーンセレクション機能を使って作成されたクリップリスト（編集データ）は、本格的なノンリニア編集システム（XPRI など）でも利用できます。

## シーンセレクションの流れ

## クリップのしくみ

本機を使ってディスクに記録された素材は、「クリップ」と呼ばれる単位で管理されます。記録開始点から記録終了点までが１つのクリップとなります。
クリップは、C0001 のようにＣで始まる番号で管理されます。

クリップ番号

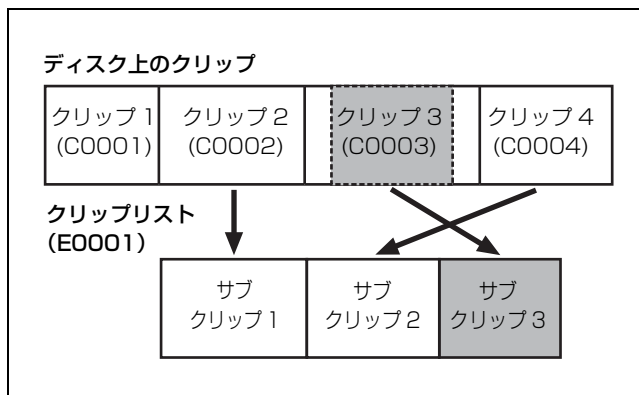
◆ クリップ番号の代わりに、クリップにタイトルを付けて管理することもできます。詳しくは、次ページの「クリップにタイトルを付ける」をご覧ください。

## クリップリストのしくみ

シーンセレクション機能を使い、ディスクに保存されたクリップから希望のクリップを選ぶと、「クリップリスト」と呼ばれるデータが作成されます。
クリップリストは E0001 のようにＥで始まる番号で管理され、ディスクに 99 個まで保存できます。

選んだクリップリストのサムネイル

## サブクリップ（クリップリストの中のクリップ）のしくみ

クリップリストで指定されたクリップ（またはクリップの一部分）は、「サブクリップ」と呼ばれます。サブクリップは、元のクリップデータを書き換えず、使用するクリップの範囲を指定した仮想の編集データです。クリップとサブクリップの関係を次図に示します。

上記の例では、サブクリップ１としてクリップ２の全体が、サブクリップ２としてクリップ４の全体が指定されています。
サブクリップ３は、クリップ３の一部分を切り出しています。したがって、クリップリスト E0001 を再生すると、クリップ２の後にクリップ４が再生され、その次にはクリップ３のグレーの部分のみが再生されます。

## クリップリストの編集のしくみ（カレントクリップリスト）

ディスク上のクリップリストを編集するには、対象のクリップリストをディスクから本機のメモリーに読み込む必要があります。
本機のメモリーに読み込まれたクリップリストは、「カレントクリップリスト」と呼ばれます。
サブクリップの追加・編集やクリップリストの再生は、常に本機のメモリー上 ( カレントクリップリスト ) で行われます。
作成･編集されたクリップリストは、ディスクに保存する必要があります。

本機のメモリー

**カレントクリップリスト**
編集（サブクリップの追加／削除、順序の入れ替えなど）が可能

→クリップリスト再生やサムネイル表示

SAVE（保存）⬇⬆　LOAD（読み込み）

ディスク 

| C0001（クリップ 1） | E0001（クリップリスト 1） |
|---|---|
| C0002（クリップ 2） | E0002（クリップリスト 2） |
| C0003（クリップ 3） | E0003（クリップリスト 3） |
| : | : |
| : | : |
| | E0099（クリップリスト 99） |

### クリップリストの再生のしくみ

クリップとクリップリストは、一緒にディスクに保存されています。
クリップは、クリップリストデータに従って再生されます。

## クリップにタイトルを付ける

セットアップメニューの OPERATIONAL FUNCTION >CLIP TITLE >AUTO TITLE を「ENABLE」(69 ページ参照）に設定すると、これ以降に記録されたクリップについては、クリップ番号の代わりにタイトルが表示されます。

クリップのタイトル

タイトルは、10 文字までのプリフィックスと 5 桁の番号で構成されます。工場出荷時のプリフィックスは TITLE、番号の初期値は 00001 です。従って、「ENABLE」に設定してから初めて作成されたクリップには、「TITLE00001」のタイトルが設定されます。その後、クリップが作成されるたびに数字が 1 つずつ繰り上がります。

◆ セットアップメニューについては、第 5 章の「システムメニュー」（68 ページ）をご覧ください。

#### クリップ番号表示に切り換えるには

CLIP TITLE >AUTO TITLE を「DISABLE」に設定します。これ以降に記録されたクリップについては、クリップ番号が表示されます。

**ご注意**

- タイトルが設定されたクリップについては、クリップタイトルがクリップ番号に代わって表示されます。
- タイトルの設定されたクリップのクリップ番号を確認する場合には、ディスクメニューの CLIP STATUS（75 ページ）をご覧ください。

### クリップに任意のタイトルを付けるには

タイトルのプリフィックスと番号の初期値は任意に設定することができます。
例えば、プリフィックスを SCENE-、初期値を 00100 に設定すると、タイトルを設定してから初めて作成されたクリップのタイトルは「SCENE-00100」となります。

**1** セットアップメニューのOPERATIONAL FUNCTION >CLIP TITLE >TITLE を選択して、➡/OUT ボタンを押す。

CLIP AUTO TITLING 画面が表示されます。

```
CLIP AUTO TITLING

PREFIX          _ TITLE
NUMERIC         _ 00001

SHIFT: (←)(↑)(↓)(→)KEY
INC/DEC: JOG DIAL
TO MENU: MENU KEY
```

**PREFIX：**プリフィックス（数字、アルファベット、記号の組み合わせで 5 文字）
**NUMERIC：**番号の初期値（00001 ～ 99999）

**2** タイトルを入力する。

**設定する項目と文字の入力位置を選択する（点滅させる）には：**矢印ボタンを押します。
**選択した位置に入力する文字を選択するには：**ジョグダイヤルを回します。
**工場出荷時のタイトルに戻すには：**RESET ボタンを押します。

**3** タイトルの入力が終了したら SET ボタンを押します。

「NOW SAVING...」のメッセージが表示され、タイトルが保存されてメニューが消えます。

#### タイトルを保存しないでメニューを消すときは

MENU ボタンを 2 回押します。

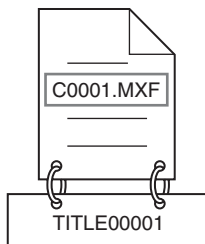
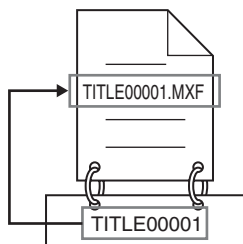
**ご注意**

クリップをいくつか作成した後で番号の初期値を変更し、記録を継続すると、同じタイトルのクリップが複数作成される場合がありますのでご注意ください。

## クリップおよびクリップリストに任意の名前を付ける

XDCAM 機器でクリップやクリップリストを記録・作成すると、自動的に次のような標準形式の名前が付けられます。
クリップ：C0001 ～ C0300
クリップリスト：E0001E01 ～ E0099E01
付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を利用して、クリップやクリップリストに、標準形式ではない任意の名前を付けることができます。クリップやクリップリストにそれらの内容がわかるような名前を付けておくと、ファイルとして管理する場合に便利です。
また、クリップについては本機の「AUTO TITLING」機能を使って任意の名前を設定することができます。

### クリップに付ける名前を本機で設定するには

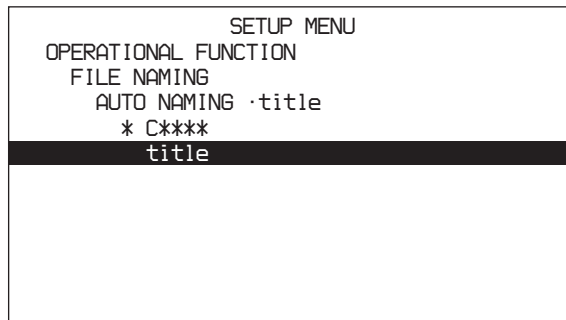
クリップに付けたタイトルがクリップの名前（ファイル名）になります。

「AUTO NAMING」を「C****」に設定したとき

「AUTO NAMING」を「title」に設定したとき

**1** セットアップメニューのOPERATIONAL FUNCTION >CLIP TITLE >AUTO TITLE を「ENABLE」(69 ページ参照）に設定する。

**2** OPERATIONAL FUNCTION >FILE NAMING >NAMING FORM を「free」に設定する。

任意形式の名前を付けたクリップやクリップリストの使用が可能になります。

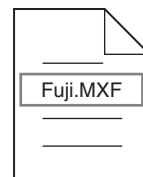
**3** OPERATIONAL FUNCTION >FILE NAMING >AUTO NAMING を「title」に設定する。

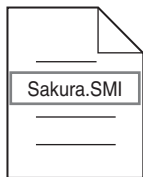
**C****：**標準形式のクリップ名が自動で割り当てられます。
**title：**クリップタイトルをクリップ名として割り当てます。

新たに記録するクリップに、タイトルと同じ名前が付けられます。

**ご注意**

CLIP TITLE メニューで設定したタイトル文字列の先頭部分がスペースまたはピリオド（.）である場合、この部分を取り除いた文字列がファイル名になります。

### FAM 経由でクリップ名やクリップリスト名の変更を可能にするには

「クリップに付ける名前を本機で設定するには」の手順 **2** を実行します。
任意の名前を付けたクリップ / クリップリストの書き込み / 転送や名前の変更が、file access mode（FAM）接続（63 ページ参照）の操作で可能になります。
クリップ名を変更するには、Clip フォルダ内の拡張子が「.MXF」のファイルに対して「名前の変更」を行います。
このとき拡張子「.MXF」は変更することができません。

FAM 経由でクリップ名の変更が可能

クリップリスト名を変更するには、Edit フォルダ内の拡張子が「.SMI」のファイルに対して「名前の変更」を行います。
このとき拡張子「.SMI」を変更することはできません。

FAM 経由でクリップリスト名の変更が可能

### クリップ名を確認するには

THUMBNAIL ボタンを押してサムネイル画面を表示し、名前を確認したいクリップを選択します。
画面の左上に、選択したクリップの名前が表示されます。ただし、クリップにタイトルが付けられている場合には、タイトルが優先して表示されます。タイトルはダブルコーテーションマーク (”) で囲まれて表示されます。

◆ サムネイル画面について詳しくは、「サムネイル画を一覧表示するには」（37 ページ）をご覧ください。

**ご注意**

サムネイル画面、CLIP メニューで表示されるクリップ名、クリップリスト名、タイトルは、以下のように変換されて表示されます。

- 16 文字以上の場合には､先頭の 9 文字と最後の 5 文字のみが表示されます。これ以外の部分は「□」に変換されます。
- 小文字のアルファベットは大文字に変換されます。
- 漢字のような多バイト文字、および一部の英記号は「□」に変換されます。このとき、連続する「□」は単一の「□」に置き換えられます。
  表示できる英記号は以下の 20 種類です。
  :　.　?　!　#　＊　／　(　)　+　−　&　@
  =　<　>　%　”　;　＿

**表示例**

JumpingDolphin_No103
↓
JUMPINGDO □ NO103

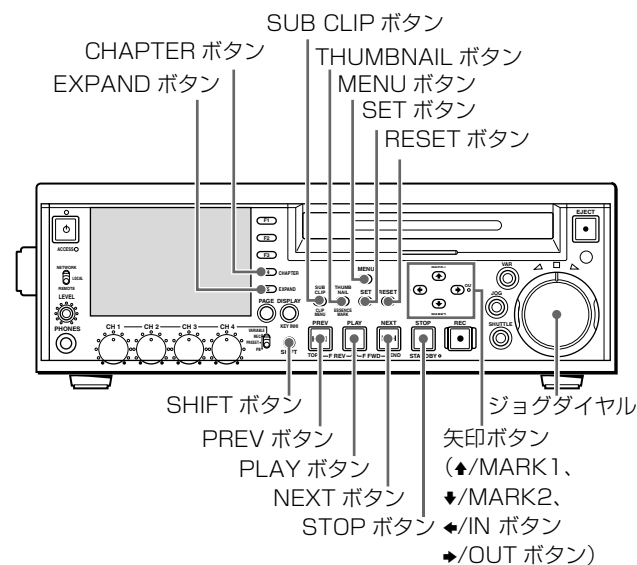
# クリップリストを作成する

希望のクリップを選択し、サブクリップとしてカレントクリップリストに取り込みます。
クリップは次の 2 通りの方法で選ぶことができます。

- サムネイル画面から選ぶ
  希望のクリップをサムネイル画面から選べます。一度に連続した複数のクリップを選ぶこともできます。
  また、エクスパンド機能を用いてクリップ内で追加したい範囲を指定したり、チャプター登録したクリップを呼び出して追加することもできます。
- 再生やサーチをしながら選ぶ
  使いたいシーンを、画像を見ながら選べます。( クイックシーンセレクション )

## 作業を始める前に

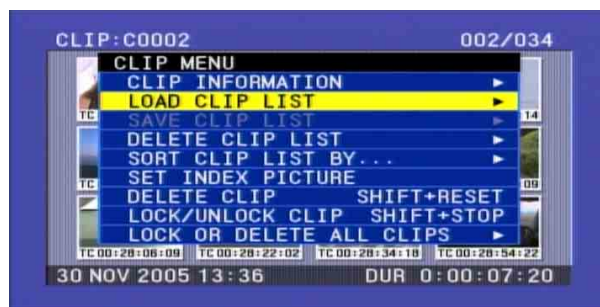
クリップが記録されたディスクを、本機に挿入してください。

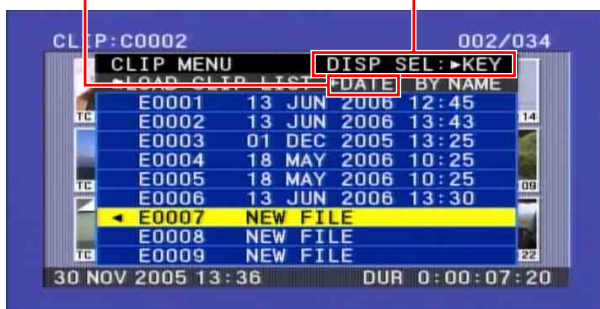
## サムネイル画面で選択したクリップをクリップリストに取り込む

次のように操作します。

**1** SUB CLIP ボタンが消灯している状態で、THUMBNAIL ボタンを押して点灯させる。

ディスク内のクリップのサムネイルが表示されます。（以降の操作説明では、これを「サムネイル画面」と呼びます。）

**2** MENU ボタンを押す。

CLIP メニュー（60 ページ）が表示されます。（クリップリストが読み込まれていない場合は、手順 **3** の画面が表示されます。）

**3** ⬆/MARK1または⬇/MARK2ボタンを使用して「LOAD CLIP LIST」を選択し、SET ボタンを押す。

クリップリスト選択画面が表示されます。
作成済みのクリップリストには作成日などが、未使用のクリップリストには「NEW FILE」が、それぞれ表示されています。

**クリップリストの表示を切り換えるには**

➡/OUT ボタンを押します。
このボタンを押すたびに、作成日時→タイトル→クリップリスト名→ ... の順に表示が切り換わります。
表示項目の種別が以下のように表示されます。

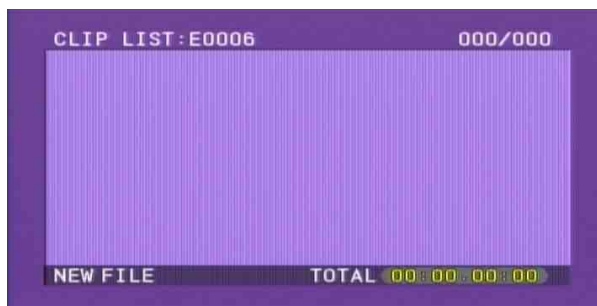
＋ DATE：クリップリストの作成日時または最終修正日時
＋ TITLE：クリップリストに設定されているタイトル
＋ NAME：クリップリストの名前、あるいは設定された任意の名前

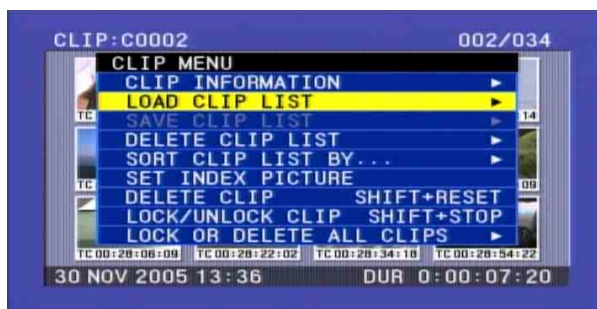
◆ クリップリストのタイトルは、付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を利用して設定することができます。

**4** ⬆/MARK1 または ⬇/MARK2 ボタンを使用して、クリップリストの番号（E001 など）を選択し、SET ボタンを押す。

サムネイル画面に戻ります。

**5** SUB CLIP ボタンを押す。

クリップリスト画面 が表示されます。
手順 **4** で「NEW FILE」を選択すると、次図のように何も取り込まれていない状態が表示されます。
クリップリストを新規作成する場合には、この「NEW FILE」を選択してください。

**6** MENU ボタンを押す。

CLIP メニューが表示されます。

**7** ⬆/MARK1 または ⬇/MARK2 ボタンを使用して「ADD」を選択し、SET ボタンを押す。

シーンセレクションウィンドウが表示されます。
(以降の説明ではこの画面全体を「シーンセレクションウィンドウ」と呼びます。)

**8** 矢印ボタンまたはジョグダイヤルを使用して、希望のクリップを選ぶ。

次の操作でも、クリップを選ぶことができます。

**PREV または NEXT ボタンを押す**：1 つ前または次のクリップに移動します。

**SHIFT ボタンを押したまま、PREV または NEXT ボタンを押す**：先頭または最後のクリップに移動します。

**SHIFT ボタンを押したまま、⬆/MARK1 または ⬇/MARK2 ボタンを押す**：1 つ前または次のページに切り換わります。ページが 1 つのときは切り換わりません。

**SHIFT ボタンを押したまま ⬅/IN ボタンまたは ➡/OUT ボタンを押す**：連続した複数のクリップを選択できます。

**選択したクリップをカレントクリップリストに加えた後の合計デュレーションを表示するには**

SHIFT ボタンを押すと、選択されているクリップの合計デュレーション、およびそれらをカレントクリップリストに追加したクリップリストの合計デュレーションが表示され、追加実行後のデュレーションをあらかじめ確認することができます。

**9** SET ボタンを押す。

シーンセレクションウィンドウの下部に、挿入位置を示す Ｉ 型カーソルが表示されます。
RESET ボタンを押すと手順 **8** の状態に戻ります。

**10** 矢印ボタンまたはジョグダイヤルを使用して、希望の挿入位置に Ｉ 型カーソルを移動する。

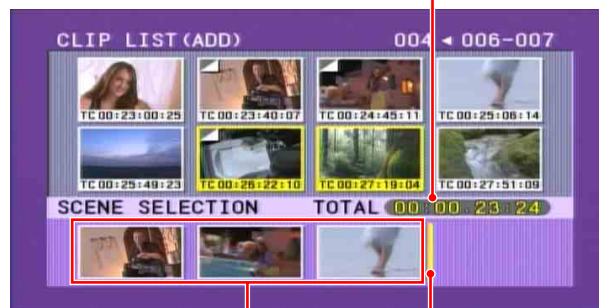
次の操作でも、Ｉ型カーソルを移動できます。

**PREV または NEXT ボタンを押す**：1 つ前または次のサブクリップに移動します。

**SHIFT ボタンを押したまま、PREV または NEXT ボタンを押す**：先頭または最後のサブクリップに移動します。

**⬆/MARK1 または ⬇/MARK2 ボタンを押す**：4 つ前または 4 つ後ろのサブクリップに移動します。

**11** SHIFT ボタンを押したまま SET ボタンを押す。

手順 **8** で選んだクリップの全体が、サブクリップとしてカレントクリップリストに追加され、登録されているサブクリップのサムネイルがシーンセレクションウィンドウに表示されます。
同時にカーソルが消えて、新しいクリップを選択できる状態になります。

**12** 希望のクリップをカレントクリップリストにすべて追加するまで、手順 **8** ～ **11** を繰り返し実行する。

同じクリップを何度でもサブクリップとして追加することができます。

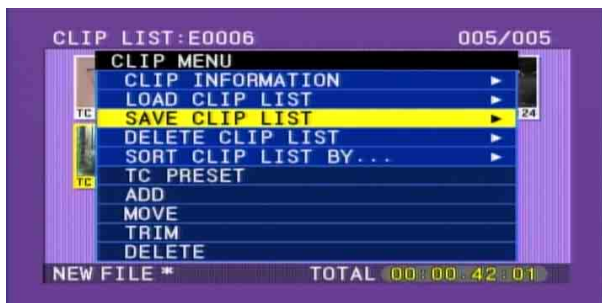
**13** 希望のクリップを選択し終わったら、SHIFT ボタンを押さずに SET ボタンのみを押す。

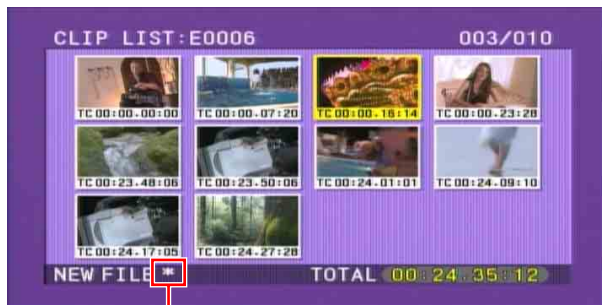
シーンセレクションウインドウが閉じて、CLIP メニュー画面に戻ります。

**CLIP メニューを消すには**

RESET ボタンを押します。

**14** カレントクリップリストの内容をディスクに保存する。

◆「カレントクリップリストをディスクに保存する」（59ページ）をご覧ください。

**ご注意**

- ディスクに保存されていないカレントクリップリストの内容は、ディスクをイジェクトしたり、電源を切ると消滅してしまいます。クリップリストを作成したら、必ずディスクに保存してください。
  ディスクに保存されていないクリップリストの作成日時の後ろには＊（アスタリスク）が表示されます。

ディスクに保存されていないクリップリストであることを示すアスタリスク

- サムネイル画（代表画）が先頭フレームでないクリップを追加した場合でも、クリップリスト内では常にクリップの先頭フレームがサムネイルとして表示されます。

## エクスパンド機能を使ってサブクリップを追加するには

サブクリップの中身を分割してサムネイル表示することにより、その一部分を取り込むことができます。

◆ エクスパンド機能については、第3章の「エクスパンド機能を使って検索する」（38ページ）をご覧ください。

以下のように操作します。

**1** 「サムネイル画面で選択したクリップをクリップリストに取り込む」（50ページ）の手順**8**を実行した後に、EXPAND（F5）ボタンを押す。

シーンセレクションウィンドウの上段に、対象のクリップが8等分されたサムネイル画面が表示されます。

### エクスパンドの倍率を変化させるには

EXPANDボタンを押すたびに、×8→×64→×512と段階的に変化します。
段階的に元に戻すには、SHIFTボタンを押したままEXPANDボタンを押します。

### エクスパンド表示を止めるには

RESETボタンを押します。
シーンセレクションウィンドウに戻ります。

**2** 「サムネイル画面で選択したクリップをクリップリストに取り込む」（50ページ）の手順**8**～**12**を実行して、クリップリストに取り込みたい部分のサムネイルを取り込む。

選択されたサムネイルから次のサムネイルまでの区間がサブクリップとして取り込まれます。

**3** カレントクリップリストの内容をディスクに保存する。

◆ 詳しくは、「カレントクリップリストをディスクに保存する」（59ページ）をご覧ください。

**ご注意**

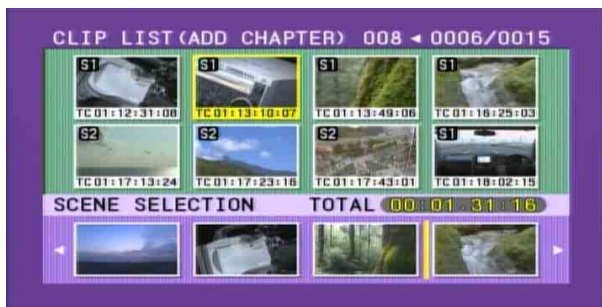
エクスパンドされたサムネイル画を複数選択しても、1つのサブクリップに連結されてからカレントクリップリストに追加されます。

## チャプター機能を使ってサブクリップを追加するには

チャプター機能とは、クリップ内に記録されたショットマークごとにサムネイルを表示する機能です。

◆ チャプター機能については、第3章の「チャプター機能を使って検索する」（40ページ）をご覧ください。

**1** 「サムネイル画面で選択したクリップをクリップリストに取り込む」（50ページ）の手順**8**を実行する。このとき、ショットーマークが設定されたサムネイルの右上部には「S」マークが表示されているので、そのようなサムネイルを選択してからCHAPTERボタンを押す。

シーンセレクション画面の上段に、指定したクリップのチャプターのサムネイル画面が表示されます。

**2** 「サムネイル画面で選択したクリップをクリップリストに取り込む」（50 ページ）の手順 **8** ～ **12** を実行して、クリップリストに取り込みたい部分のサムネイルを取り込む。

選択されたサムネイルから次のサムネイルまでの区間がサブクリップとして取り込まれます。

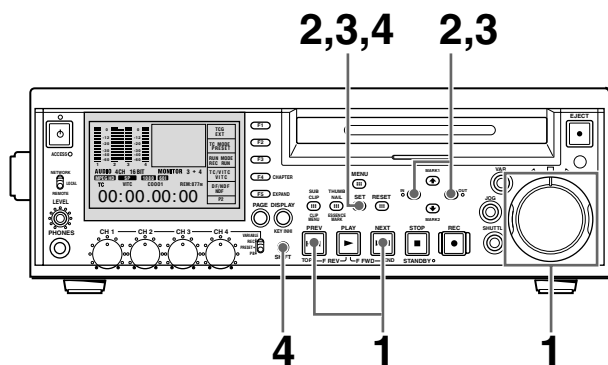
**3** カレントクリップリストの内容をディスクに保存する。

◆ 詳しくは、「カレントクリップリストをディスクに保存する」（59 ページ）をご覧ください。

チャプター表示されたサムネイルを複数選択しても、1 つのサブクリップに連結されてからカレントクリップリストに追加されます。

## クイックシーンセレクション（記録 / 再生 / サーチをしながらサブクリップを追加する）

あらかじめサブクリップを追加するクリップリストを、カレントクリップリストに読み込んでおきます（60 ページ参照）。

◆ クイックシーンセレクションにより設定した IN 点、OUT 点は、トリミング操作により変更することができます（57 ページ参照）。

**1** SUB CLIP ボタンが消灯していて、クリップが全画面表示されている状態で再生やサーチを行い、IN 点にしたい場面を探す。

#### 希望のクリップを全画面表示するには

サムネイル画面が表示されているときは、矢印ボタンまたはジョグダイヤルを使用して、全画面表示するクリップを選択し、SET ボタンを押します。

#### サーチするには

ジョグ / シャトルダイヤルを使用します。

**2** IN 点にしたい場面で、←/IN ボタンを押したまま SET ボタンを押す。

IN 点が設定され、IN インジケーターが点灯します。
ディスプレイに文字情報がスーパーインポーズされるように設定している場合は（30 ページ参照）、IN 点のタイムコードが表示されます。

**3** 同様に、OUT 点にしたい場面を探して、→/OUT ボタンを押したまま SET ボタンを押す。

OUT 点が設定され、OUT インジケーターが点灯します。
ディスプレイに文字情報がスーパーインポーズされるように設定している場合は（30 ページ参照）、OUT 点のタイムコードが表示されます。

#### IN 点 /OUT 点を確認したいときは

←/IN ボタンまたは →/OUT ボタンを押すと、設定された IN 点または OUT 点のタイムコードが表示されます。←/IN ボタンを押したまま PREV ボタンまたは NEXT ボタンを押すと、IN 点の画像が頭出しされます。→/OUT ボタンを押したまま PREV ボタンまたは NEXT ボタンを押すと、OUT 点の画像が頭出しされます。

#### デュレーションを確認したいときは

←/IN ボタンと →/OUT ボタンを一緒に押します。
押している間、画面にデュレーションが表示されます。

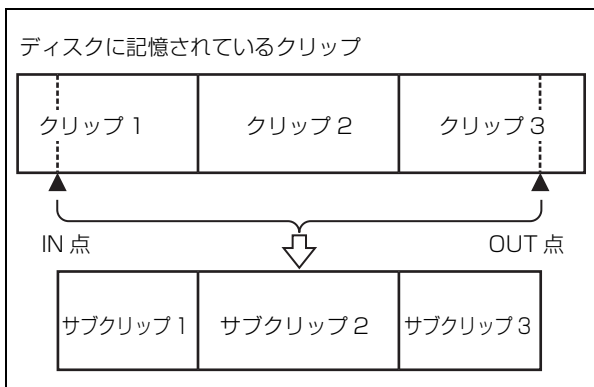
#### IN 点 /OUT 点をリセットする場合は

←/IN ボタンまたは →/OUT ボタンを押したまま、RESET ボタンを押してください。

**4** SHIFT ボタンを押したまま、SET ボタンを押す。

IN 点から OUT 点までの区間が、サブクリップとしてカレントクリップリストの最後に追加されます。

#### 複数のクリップにまたがって IN 点、OUT 点を設定した場合は

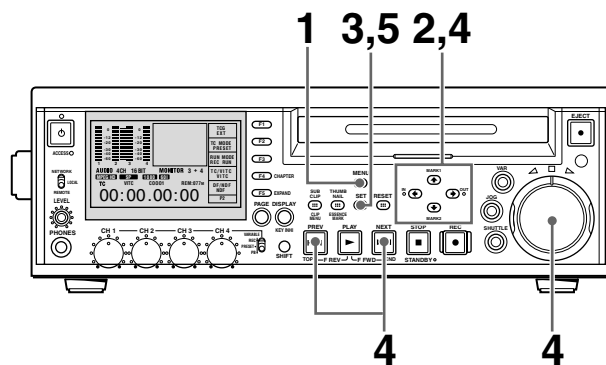
クリップの数だけサブクリップが生成されます。

**5** 希望のクリップをすべてカレントクリップリストに追加するまで、手順 **1** ～ **4** を繰り返し実行する。

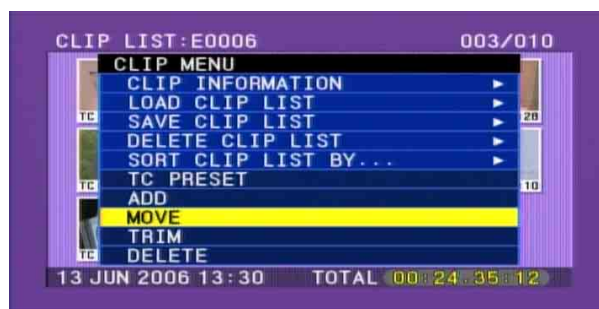
**6** カレントクリップリストの内容をディスクに保存する。

◆ 詳しくは、「カレントクリップリストをディスクに保存する」（59 ページ）をご覧ください。

# クリップリストを編集する

CLIP メニューから項目を選択して、クリップリストおよびクリップリストに登録したサブクリップに簡易的な編集が行えます。

## 基本操作

**1** クリップリスト画面で、MENU ボタンを押す。

CLIP メニューが表示されます。

**2** ↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを押して希望の編集項目を選ぶ。

次の編集操作が実行できます。

| CLIPメニュー上の項目 | 編集内容 |
|---|---|
| MOVE | サブクリップの順序の入れ替え。 |
| TRIM | サブクリップの IN 点、OUT 点の変更。 |
| DELETE | 不要なサブクリップの削除。 |
| TC PRESET | カレントクリップリストの先頭のタイムコードを任意の値に設定。 |

**3** SET ボタンを押す。

操作の対象とするサブクリップを選択する画面が表示されます。(TC PRESET を選んだ場合は、タイムコード設定画面が表示されます。)

**4** 矢印ボタンまたはジョグダイヤルを使用して、希望のサブクリップを選択する。

次の操作でも、クリップを選ぶことができます。

**PREV または NEXT ボタンを押す：**1 つ前または次のクリップに移動します。

**SHIFT ボタンを押したまま、PREV または NEXT ボタンを押す：**先頭または最後のクリップに移動します。

**SHIFT ボタンを押したまま、↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを押す：**1 つ前または次のページに切り換わります。ページが 1 つのときは切り換わりません。

**SHIFT ボタンを押したまま ←/IN ボタンまたは →/OUT ボタンを押す：**連続した複数のクリップを選択できます。

**ご注意**

「TRIM」を選択しているときは複数のサブクリップを選択できません。

**5** SET ボタンを押す。

選択したクリップに対し、CLIP メニューで選択した編集操作が可能になります。

**6** 編集操作を行う。

◆ 詳しくは以下のページをご覧ください。
順番の入れ替え：次項
サブクリップのトリミング：57 ページ
サブクリップの削除：57 ページ
タイムコードの設定：58 ページ

**7** 編集したカレントクリップリストの内容をディスクに保存する。

◆ 詳しくは、「カレントクリップリストをディスクに保存する」（59 ページ）をご覧ください。

## サブクリップの順番を入れ替える

次のように操作します。

**1** 「基本操作」（55 ページ）の手順 **1** ～ **5** を実行する（手順 **2** で「MOVE」を選択する）。

クリップリスト画面上に移動先を示す Ｉ 型カーソルが表示されます。

**2** 矢印ボタンまたはジョグダイヤルを使用して、希望の位置に Ｉ 型カーソルを移動する。

次の操作でも、カーソルを移動できます。

**PREV または NEXT ボタンを押す：**1 つ前または次のクリップに移動します。

**SHIFT ボタンを押したまま、PREV または NEXT ボタンを押す：**先頭または最後のクリップに移動します。

**SHIFT ボタンを押したまま、↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを押す：**1 つ前または次のページに切り換わります。ページが 1 つのときは切り換わりません。

２番目のサブクリップを７番目のサブクリップの位置へ移動することを示す。

選択したサブクリップの移動先を示す Ｉ 型カーソル

**サブクリップの移動を行わずにクリップリスト画面に戻るには**

RESET ボタンを押します。

**3** SET ボタンを押す。

サブクリップの順番が変わった後に、CLIP メニューが表示されます。

SET ボタンの代わりに SHIFT+SET ボタンを押すと、実行後に「基本操作」の手順 **4** の状態に戻り、移動を繰り返し行うことができます。

**4** カレントクリップリストの内容をディスクに保存する。

◆「カレントクリップリストをディスクに保存する」(59 ページ) をご覧ください。

## サブクリップの IN 点 /OUT 点を修正する (トリミング)

次のように操作します。

**1** 「基本操作」(55 ページ) の手順 **1** ～ **5** を実行する (手順 **2** で「TRIM」を選択する)。

選択したサブクリップの先頭フレーム (IN 点フレーム ) が表示されます。この状態から、ディスク全体の再生やサーチが可能になります。

#### トリミングを中止して元の画面に戻るには

⬇/MARK2 ボタンを押して「OK」を表示し (背景が黄色になります)、RESET ボタンを押します。

**2** 再生やサーチを行って、選択したサブクリップの新たな IN 点または OUT 点にしたい場面を探す。

**3** 新たな IN 点または OUT 点にしたい場面で、⬅/IN ボタン (IN 点を変更するとき) または ➡/OUT ボタン (OUT 点を変更するとき) を押したまま SET ボタンを押す。

押したボタンに応じて、IN 点または OUT 点が設定されます。

**ご注意**

IN 点よりも小さいタイムコードを OUT 点に設定すると、IN および OUT インジケータが点滅します。この場合は正しいタイムコードに修正してください。

#### IN 点と OUT 点の両方とも変更する場合は

IN 点、OUT 点それぞれに対して手順 **2** と **3** を実行します。

#### IN 点または OUT 点をリセットする場合は

⬅/IN ボタンまたは ➡/OUT ボタンを押したまま RESET ボタンを押します。IN 点または OUT 点の値は、トリム画面に入る直前の値に戻ります。

#### IN 点または OUT 点に頭出しする場合は

⬅/IN ボタンを押したまま PREV ボタン、または NEXT ボタンを押すと、IN 点が頭出しされます。
➡/OUT ボタンを押したまま REV ボタンまたは NEXT ボタンを押すと、OUT 点が頭出しされます。

**4** 新たな IN 点または OUT 点を設定し、⬇/MARK2 ボタンを押して「OK」を選択する。

OK ボタンの背景が黄色になります。

**5** SET ボタンを押す。

トリミングが実行された後に、CLIP メニューが表示されます。
SET ボタンの代わりに SHIFT+SET ボタンを押すと、実行後に「基本操作」の手順 **4** に戻り、トリミングを繰り返し行うことができます。

**6** カレントクリップリストの内容をディスクに保存する。

◆「カレントクリップリストをディスクに保存する」(59 ページ) をご覧ください。

## サブクリップを削除する

次のように操作します。

**1** 「基本操作」(55 ページ) の手順 **1** ～ **5** を実行する (手順 **2** で「DELETE」を選択する)。

#### カレントクリップリストから選択したクリップを削除した後の合計デュレーションを表示するには

SHIFT ボタンを押すと、選択されているクリップの合計デュレーション、およびそれらをカレントクリップリストから削除したクリップリストの合計デュレーションが表示され、削除実行後のデュレーションをあらかじめ確認することができます。

**2** SETボタンを押す。

削除確認画面が表示されます。

**サブクリップの削除を行わずにクリップリスト画面に戻るには**

RESETボタンを押します。

**3** ←/INボタンまたは→/OUTボタンを押して「OK」を選択し、SETボタンを押す。

削除が実行された後に、CLIPメニューが表示されます。
SETボタンの代わりにSHIFT+SETボタンを押すと、実行後に「基本操作」の手順**4**に戻り、削除を繰り返し行うことができます。

**4** カレントクリップリストの内容をディスクに保存する。

◆ 詳しくは、「カレントクリップリストをディスクに保存する」（59ページ）をご覧ください。

## カレントクリップリストの先頭タイムコードを設定する

クリップリストでは、サブクリップの元となったクリップのタイムコードに関係なく、連続したタイムコードが使用されます。したがって、クリップリストの先頭タイムコードは、クリップリストごとに設定することができます。
カレントクリップリストの先頭のタイムコード（LTC）は、初期状態では「00:00:00:00」に設定されています。
これを任意の値に設定するには、以下のように操作します。

**1** 「基本操作」（55ページ）の手順**1**～**4**を実行する（手順**2**で「TC PRESET」を選択します）。

タイムコード設定画面が表示されます。

このとき表示されるタイムコードは、カレントクリップリストで現在設定されている先頭タイムコードです。ディスク上のクリップリストを読み込んだ場合、そのクリップリストにすでにタイムコードが設定されているときは、その値が表示されます。

**2** ←/INボタンまたは→/OUTボタンを使用して、設定したい桁（HOUR、MIN、SEC、FRAMEのいずれか）を選択する。

**3** ↑/MARK1ボタンまたは↓/MARK2ボタン、またはジョグダイヤルを使用して、任意の値を表示させる。

**タイムコードの設定を中止するには**

RESETボタンを押します。

**4** すべての桁を設定したらSETボタンを押す。

カレントクリップリストの先頭のLTCが設定され、再生時にはその値からカウントされます。

**5** カレントクリップリストを保存する。

◆「カレントクリップリストをディスクに保存する」（59ページ）をご覧ください。

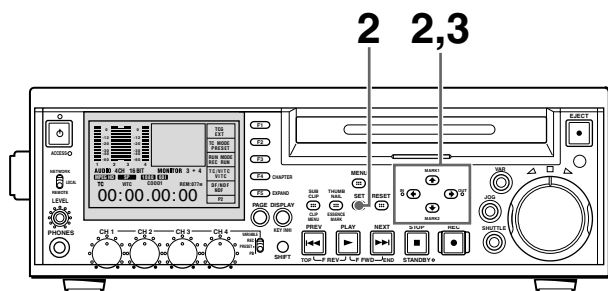
なお、カレントクリップリストのタイムコードのDF/NDF設定は、以下の操作を行った時点での機器の設定が反映されます。
- 最初のサブクリップを追加した。
- 先頭タイムコードを設定した。

## 編集結果をプレビューする

SUB CLIPボタンが点灯している状態で、PLAYボタンを押します。
サムネイル画面（THUMBNAILボタンが点灯）の場合に、選択されたサブクリップの先頭から再生が始まります。
THUMBNAILボタンが消灯しているときは、前回の再生位置から再生が始まります。
ただし、いったんSUB CLIPボタンを消灯させて再度点灯させると、再生開始位置はクリップリストの先頭にリセットされます。
SET UP >OPERATIONAL FUNCTION >REPEAT MODEをONにすると、カレントクリップリストの内容を繰り返し再生することができます。

# カレントクリップリストをディスクに保存する

**ご注意**

- この操作を行わないと編集したクリップリストのデータは保存されません。作成・編集後も使用するクリップリストのデータは、必ずディスクに保存してください。
- ディスクの記録禁止タブが記録禁止の位置に設定されていると、カレントクリップリストはディスクに保存できません。
- ディスクの残り容量が不足しているなどの理由で、記録ができない場合があります。

以下のように操作します。

**1** CLIP メニューを表示する。

◆「CLIP メニューを表示するには」（60 ページ）をご覧ください。

**2** ↑/MARK1 または↓/MARK2ボタンを使用して「SAVE CLIP LIST」にカーソルを合わせ、SET ボタンを押す。

クリップリストが一覧表示されます。クリップリストの作成日時が表示されます。
データが保存されていないクリップリストには、「NEW FILE」と表示されます。

**クリップリストのタイトルと作成日時の表示を切り換えるには**

→/OUT ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「**クリップリストの表示を切り換えるには**」（51 ページ）をご覧ください。

**3** ↑/MARK1 または↓/MARK2 ボタンまたはジョグダイヤルを使用して希望のクリップリストを選択し、→/OUT ボタンを押す。

カレントクリップリストが、ディスクに保存されます。

**保存を中止する場合は**

MENU ボタンを押します。

**クリップリストにタイトルを付けるには**

付属の Proxy Browsing Software PDZ-1 を使用します。

◆ 詳しくは、PDZ-1 のオンラインヘルプをご覧ください。

# クリップリストを管理する

作成・編集したクリップリストは、CLIP メニューを使って管理することができます。ディスクから本機への読み込み、ディスク上のクリップリストの削除などができます。

## CLIP メニューを表示するには

SHIFT ボタンを押したまま SUB CLIP ボタンを押します。
サムネイル一覧表示画面、クリップリスト画面では、MENU ボタンを押して CLIP メニューを表示させることもできます。

CLIP メニューに表示／操作できる項目は、本機の状況によって異なります （次表を参照してください）。

| 項目 | 操作内容 （参照ページ） |
|---|---|
| CLIP INFORMATION | サムネイルの下側に表示する情報を選択する（60 ページ） |
| LOAD CLIP LIST | ディスク上のクリップリストをカレントクリップリストに読み込む（60 ページ） |
| SAVE CLIP LIST | カレントクリップリストをディスクに保存する（59 ページ） |
| DELETE CLIP LIST | クリップリストをディスクから削除する（61 ページ） |
| SORT CLIP LISTS BY | クリップリスト名または作成日時の順番にクリップリストを並べ替える（61 ページ）。 |
| SET INDEX PICTURE a) | クリップのサムネイル画（代表画）を変更する（38 ページ） |
| ADD a) | カレントクリップリストにサブクリップを取り込む（50 ページ） |
| MOVE b) | サブクリップの順番を入れ替える（56 ページ） |
| TRIM b) | サブクリップ上の IN 点、OUT 点を変更する（57 ページ） |
| DELETE b) | サブクリップを削除する（57 ページ） |
| TC PRESET b) | カレントクリップリストの先頭タイムコードを設定する（58 ページ） |
| DELETE CLIP | クリップを削除する。 |
| LOCK/UNLOCK CLIP | クリップを保護する / 保護を解除する。 |
| LOCK OR DELETE ALL CLIPS | 全クリップを対象に保護する / 削除する |
| DELETE SHOT MARK | ショットマークを削除する。 |

a) サムネイル一覧表示画面
b) クリップリスト画面

### CLIP メニューを消すには

MENU ボタン（または SHIFT ボタンを押したまま SUB CLIP ボタン）を押します。

**ご注意**

CLIP メニューで扱うことができるクリップリストは、99 個までです。

## サブクリップの表示情報を変更する

クリップリスト画面の各サムネイル画の下部に表示される情報を切り替えることができます。
以下のように操作します。

**1** CLIP メニューを表示する。

◆「CLIP メニューを表示するには」（60 ページ）をご覧ください。

**2** ↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを使用して「CLIP INFORMATION」を選択し、SET ボタンを押す。

表示情報の選択画面が表示されます。

**3** ↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを使用して表示したい項目を選択し、SET ボタンを押す。
**DATE：**作成日時
**TIME CODE：**先頭タイムコード
**DURATION：**再生時間
**SEQUENCE NUMBER：**サムネイルの連番

◆ 連番について詳しくは、「サムネイルに連番を振る」（44 ページ）をご覧ください。

クリップリスト画面を表示したときに、設定した項目の情報が各サムネイル画の下部に表示されます。

## ディスク上のクリップリストをカレントクリップリストに読み込む

クリップリスト再生／編集で使用するクリップリスト（カレントクリップリスト）をディスクから呼び出します。
以下のように操作します。

**1** CLIP メニューを表示する。

「CLIP メニューを表示するには」（60 ページ）をご覧ください。

**2** ↑/MARK1または↓/MARK2ボタンを使用して「LOAD CLIP LIST」を選択し、SET ボタンを押す。

クリップリストの一覧（51 ページ）が表示されます。

**3** ↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを使用して希望のクリップリストを選択し、SET ボタンを押す。

選択したクリップリストが、カレントクリップリストとして本機に読み込まれます。

**読み込んだカレントクリップリスト内のサムネイルを表示するには**

THUMBNAIL ボタンと SUB CLIP ボタンを押して点灯させます。

**カレントクリップリスト上に、保存前のクリップリストが存在する場合は**

次のような警告メッセージが表示されます。
「CLIP LIST IS NOT SAVED. OVERWRITE CLIP LIST?」
上書きする場合は「OK」を、上書きしない場合には「CANCEL」を、←/IN ボタンまたは →/OUT ボタンで選択し、SET ボタンを押します。

## クリップリストをディスクから削除する

以下のように操作します。

**1** CLIP メニューを表示する。

◆「CLIP メニューを表示するには」（60 ページ）をご覧ください。

**2** ↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを使用して「DELETE CLIP LIST」を選択し、SET ボタンを押す。

クリップリストの一覧 （51 ページ）が表示されます。

**3** ↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを使用して削除したいクリップリストを選択し、SET ボタンを押す。

削除確認画面が表示されます。

**4** ←/IN ボタンまたは →/OUT ボタンを押して「OK」を選択し、SET ボタンを押す。

**クリップリストの削除を中止するには**

RESET ボタンを押します。

選択したクリップリストが削除されます。

**複数のクリップリストを続けて削除するには**

「OK」を選択し、SHIFT ボタンを押したまま SET ボタンを押すと、選択したクリップが削除された後に手順 **3** の状態に戻り、複数のクリップリストを続けて削除することができます。

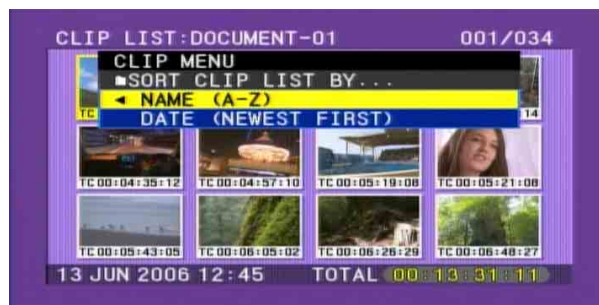
## クリップリストを並べ替える

作成済みのクリップリストを、クリップリスト名または作成日時の順番に並べ替えます。
以下のように操作します。

**1** CLIP メニューを表示する。

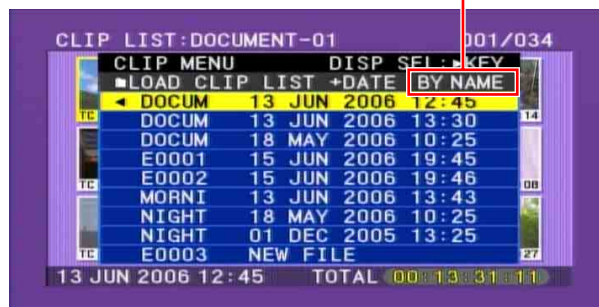
◆「CLIP メニューを表示するには」（60 ページ）をご覧ください。

**2** ↑/MARK1または↓/MARK2ボタンを使用して「SORT CLIP LISTS BY...」を選択し、SET ボタンを押す。

次図のような画面 が表示されます。

**3** ↑/MARK1 または ↓/MARK2 ボタンを使用して並べ替えの方法を選択する。

NAME：クリップリスト名の昇順にクリップリストを並べ替えます。
DATE：クリップリストの作成日時が新しい順番にクリップリストを並べ替えます。

**4** ←/IN ボタンを押す。

LOAD CLIP LIST などの画面で、並べ替えが実行されます。
（未使用のクリップリストに対しては、並べ替えは実行されません。）
「NAME」を選択した場合：

「DATE」を選択した場合：

BY DATE：日付順であることを示す。

なお、SHIFT ボタンを押したまま PREV ボタンまたは NEXT ボタンを押す操作でも、最初のクリップリストまたは最後のクリップリストに移動することができます。

# Proxy Browsing Software PDZ-1 を使う

Proxy Browsing Software PDZ-1 をインストールしたコンピューターを本機に接続し、ディスクに記録されたプロキシ AV データおよびメタデータをファイルとして本機から転送することができます。コンピューター側で PDZ-1 を使用して、転送されたプロキシ AV を閲覧したり、メタデータ（タイトル、コメント、エッセンスマークなど）に追加や変更を加えたり、クリップリストを作成したりすることができます。
追加、変更後のメタデータや、作成したクリップリストは、本機に転送して元のディスクに書き戻すことができます。

## PDZ-1 の動作環境

PDZ-1 を動作させるには、次の環境が必要です。

- コンピューター
  Intel Pentium III プロセッサー 1GHz 以上
  搭載メモリー：512MB 以上
- OS：Microsoft Windows 2000 Service Pack 4 以上または Microsoft Windows XP Professional Service Pack 1 以上
- Web ブラウザ：Internet Explorer 6.0 Service Pack 1 以上
- DirectX：DirectX 8.1b 以上

## PDZ-1 をインストールするには

付属の CD-ROM（Proxy Browsing Software PDZ-1）をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れ、CD-ROM に収録されている Setup.exe ファイルを実行してください。順次表示される指示に従ってインストールすることができます。

◆ 詳しくは、CD-ROM に収録されている ReadMe ファイルをご覧ください。

**ご注意**

本機から転送される素材を入れる Work Folder は、十分な空き容量のあるハードディスク上に用意してください。プロキシ AV データの転送量は、ディスク 1 枚あたり最大 2.8 GB（LP フォーマット時）です。

◆ 詳しくは、「file access mode によるファイル操作」（63 ページ）をご覧ください。

# ファイル操作

## 概要

ファイル化して記録されたビデオやオーディオなどのデータは、本機にコンピューターを接続して、コンピューター上で操作することができます。
コンピューターとの接続方法は、FAM（file access mode）接続を使用します。

## file access mode によるファイル操作

### file access mode の動作環境

file access mode（ファイルアクセスモード）を使用してファイル操作を行うには、次の環境が必要です。
- **コンピューターの OS：**Microsoft Windows 2000 Service Pack 4 以上または Microsoft Windows XP

### 準備

コンピュータおよび本機に対して、以下の操作を行ってください。
- コンピューターに FAM ドライバーをインストールする（次項参照）。
- セットアップメニュー のINTERFACE SELECT >i.LINK MODE を「FAM (PC PERMOTE)」に設定する（72 ページ参照）。

#### FAM ドライバーをインストールするには

付属の CD-ROM（Proxy Browsing Software PDZ-1）をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れ、CD-ROM に収録されている Setup.exe ファイルを実行します。
順次表示される指示に従ってインストールすることができます。

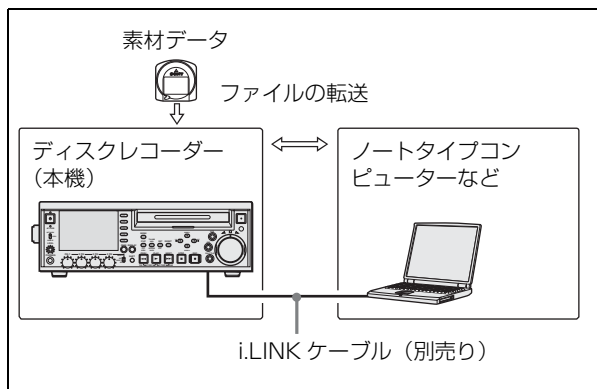
◆ 詳しくは、CD-ROM に収録されている ReadMe ファイルをご覧ください。

### FAM 接続する

**1** 本機にディスクが入っている場合は、本機を以下の状態にする。

- 記録、再生、サーチなどのディスク操作：停止
- THUMBNAIL ボタン：消灯

- DISC メニューの DELETE LAST CLIP、DELETE ALL CLIPS、QUICK FORMAT などによるディスクへのアクセス：停止
- MENU ボタン：オフ
- 保存していないカレントクリップリスト：保存またはクリアする。

**2** 本機の i S400 端子とコンピューターの i.LINK（IEEE1394）端子を i.LINK ケーブルで接続する。

本機はリムーバブルディスクとして認識され、コンピューターのタスクバーに以下のアイコンが表示されます。

- **Windows 2000 の場合：**
- **Windows XP の場合：**

本機にディスクを挿入すると、コンピューターからファイル操作ができる状態になります。

### FAM 接続中の動作制限

- EJECT ボタンを除き、記録および再生操作ボタンは動作しません。
- 外部機器接続部の端子に接続した機器から、本機を制御することはできません。
- 本機からの信号出力は無信号状態になり、本機のディスプレイおよび外部モニターに「PC REMOTE!」と表示されます。

## ファイルを操作する

以下の手順で操作します。

**1** エクスプローラを起動する。

本機が任意のドライブに割り当てられていることを確認します。（ご使用の周辺機器の接続状況によって、割り当てられるドライブは異なります。）

**2** エクスプローラ上で本機ディスク内のファイルを操作する。

ローカルドライブやネットワークコンピューター上のファイルと同様に操作することができます。

**ご注意**

- FAM 接続中に本機の電源を切ると、転送中のデータは破棄されます。
- ファイルの種類によっては、ファイル操作できない項目があります。

### ディスクの取り出しをコンピューターで行うには

エクスプローラに表示されている本機のアイコンを右クリックして表示されるメニューから「取り出し」を選択します。

## ファイル操作を終了するには

以下の手順で操作します。

**ご注意**

手順 **1** ～ **3** を実行する前に、ケーブルを取り外さないでください。

**1** コンピューターのタスクバーに表示されている またはアイコンに対して、以下のいずれかを実行する。

- ダブルクリックする。
- 右クリックして表示されるメニューから以下のコマンドを選択する。
  **Windows 2000 の場合：**ハードウェアの取り外しまたは取り出し
  **Windows XP の場合：**ハードウェアの安全な取り外し

「ハードウェアの取り外し」ダイアログ（Windows 2000）、または「ハードウェアの安全な取り外し」ダイアログ（Windows XP）が表示されます。

**2** 「Sony XDCAM PDW-70MD IEEE 1394 SBP2 Device」を選択し、「停止」をクリックする。

「ハードウェア デバイスの停止」ダイアログが表示されます。

**3** 「Sony XDCAM PDW-70MD IEEE 1394 SBP2 Device」を選択し、「OK」をクリックする。

Windows 2000 の場合は、確認のメッセージが表示されます。
Windows XP の場合は、「ハードウェア デバイス」リストから「Sony XDCAM PDW-70MD IEEE 1394 SBP2 Device」が削除されます。

本機は通常の操作ができる状態になります。（「FAM 接続中の動作制限」（64 ページ参照）が解除されます。）

**4** 必要に応じて、i.LINK ケーブルを取り外す。

### 再接続するには

ファイル操作を終了した状態から再接続するには、i.LINK ケーブルの接続状態などに応じて以下のようにします。

**i.LINK ケーブルが接続されていないとき：**本機とコンピューターを i.LINK ケーブルで接続します。

**i.LINK ケーブルが接続されているとき：**本機とコンピューターのいずれか一方から i.LINK ケーブルを取り外し、10 秒以上待ってから取り外したケーブルを接続します。

**本機の電源が OFF で i.LINK ケーブルが接続されているとき：**本機の電源を入れます。

### FAM 接続しないようにするには

前項「再接続する」のいずれかを実行すると、本機とコンピューターは FAM 接続します。FAM 接続しないようにするには、セットアップメニューの INTERFACE SELECT > i.LINK MODE を「AV/C」に設定します（72 ページ参照）。

## FAM 接続時のタイムコードを連続して記録する

FAM 接続時に作成するクリップのタイムコードをディスクに記録されている最終クリップの最終フレームのタイムコードに連続させることができます。

### タイムコードを連続して記録するには

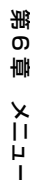
あらかじめファンクションメニュー P2 ページの TCG を「INT」に、TC MODE を「REGEN」に設定し、本機に接続しているコンピューターなどからクリップファイルを書き込みます。

# メニュー

## ファンクションメニュー

ファンクションメニューは、入力ビデオ信号の選択、タイムコードの設定など、ひんぱんに行う機能設定のために使用します。
メニューの設定は不揮発性メモリーに記憶されるため、電源を切っても消去されません。

### ファンクションメニューの操作

ファンクションメニューは本機のディスプレイに表示されます。
ファンクションメニューの操作に使用するボタンを次図に示します。

#### ファンクションメニューを表示するには

ファンクションメニューは、HOME（ホーム）ページとP1、P2 ページで構成されています。
ディスプレイにファンクションメニューが表示されていないときは、PAGE ボタンを押すとファンクションメニューが表示されます。前回ファンクションメニューを操作したときに、最後に表示したページが表示されます。
ファンクションメニューを表示すると、モニター画像表示部のサイズは最小になります。

**ページを切り換えるには**

PAGE ボタンを押すたびに、HOME → P1 → P2 → HOME …の順にページが切り換わります。

**ファンクションメニューを消すには**

DISPLAY ボタンを押して、モニター画像表示部のサイズを大きくします。

#### ファンクションメニューの設定内容を変更するには

F1 ～ F5 ボタンを使用します。
各設定項目の右にあるボタンを押すと、設定内容が切り換わります。希望の設定内容が表示されるまで繰り返しボタンを押します。

### ファンクションメニューの内容

各ページの設定項目と設定内容を表に示します。

#### HOME ページ

| 設定項目 | 設定内容 |
|---|---|
| **F1**：V INPUT（ビデオ入力） | ビデオ入力信号を選択する。<br>**HDSDI**：HDSDI 信号<br>**SG**：内部信号発生器からのテスト信号 |
| **F2**：A1 INPUT（オーディオ入力 1）<br>**F4**：A3 INPUT（オーディオ入力 3） | オーディオチャンネル 1、3 に割り当てるオーディオ入力信号を選択する。<br>**HDSDI**：HDSDI 信号に重畳されたオーディオ信号[1]<br>**ANALOG1**：アナログ 1 のオーディオ信号<br>**AES/EBU**：DIGITAL AUDIO (AES/EBU) INPUT 1/2、3/4 端子への入力信号<br>**SG**：内部信号発生器からのテスト信号 |

| 設定項目 | 設定内容 |
| --- | --- |
| **F3：**A2 INPUT（オーディオ入力 2）<br>**F5：**A4 INPUT（オーディオ入力 4） | オーディオチャンネル 2、4 に割り当てるオーディオ入力信号を選択する。<br>**HDSDI：**HDSDI 信号に重畳されたオーディオ信号 1)<br>**ANALOG2：**アナログ 2 のオーディオ信号<br>**AES/EBU：**DIGITAL AUDIO (AES/EBU) INPUT 1/2、3/4 端子への入力信号<br>**SG：**内部信号発生器からのテスト信号 |

1) ビデオ入力として HDSDI が選択された場合のみ

**ご注意**

選択した信号が入力されていないと表示が点滅します。選択した信号を入力するか、別の信号を選択してください。

## P1 ページ

| 設定項目 | 設定内容 |
| --- | --- |
| **F1：**CNTR SEL（カウンター選択） | タイムデータ表示部に表示するタイムデータを選択する。<br>**TC：**タイムコード<br>**UB：**ユーザービット<br>**COUNTER（カウンター）：**記録 / 再生の経過時間 |
| **F2：**MONI CH（モニターチャンネル） | モニターするオーディオチャンネルを選択する。<br>**CH 1/2：**チャンネル 1 と 2<br>**CH 3/4：**チャンネル 3 と 4 |
| **F3：**MONI SEL（モニター選択） | AUDIO MONITOR 端子と PHONES 端子から出力されるオーディーモニター信号の出力方式を選択する。<br>**STEREO（ステレオ）：**MONI CH で選択したチャンネルを左右に振り分けて出力する。<br>**MONO L（モノラル L チャンネル）：**MONI CH で選択したチャンネルのいずれか一方を出力する。<br>**MONO R（モノラル R チャンネル）：**MONI CH で選択したチャンネルのいずれか一方を出力する。<br>**MIX（ミックス）：**MONI CH で選択したチャンネルをミックスしたモノラル音声を出力する。 |
| **F4：**REC INH（記録禁止） | 記録禁止モードをオン / オフする。<br>**ON：**記録禁止モードオン<br>**OFF：**記録禁止モードオフ |

| 設定項目 | 設定内容 |
| --- | --- |
| **F5：**CHAR SEL（文字表示選択） | モニター画像表示部や外部のモニターに表示する文字情報をオン / オフする。<br>**ON：**文字情報オン<br>**OFF：**文字情報オフ<br>**LCD：**文字情報をモニター画像表示部のみでオン<br>ON を選択した場合、SETUP MENU >DISPLAY CONTROL >HD CHARA の設定により、HD 出力へのスーパーインポーズを強制的にオフにすることもできます。 |

## P2 ページ

| 設定項目 | 設定内容 |
| --- | --- |
| **F1：**TCG（タイムコードジェネレーター） | 内蔵タイムコードジェネレーターの動作について設定する。<br>**INT（内部）：**プリセットした初期値からまたはディスクの最終フレームのタイムコードに連続させて歩進する。<br>**EXT（外部同期）：**TIME CODE IN 端子に入力されるタイムコードに同期させる。<br>**SDI：**HDSDI INPUT 端子に入力される信号上のタイムコードに同期させる。 |

| 設定項目 | 設定内容 |
| --- | --- |
| **F2**：TC MODE（タイムコードモード） | **TCG が「INT」の場合**<br>内蔵タイムコードジェネレーターを、プリセットした初期値から歩進させるか、ディスクの最終フレームのタイムコードに連続させて歩進させるかを選択する。<br>**PRESET（プリセット）**：プリセットした初期値から歩進させる。<br>**REGEN（リジェネレート）**：ディスクの最終フレームのタイムコードに連続させて歩進させる。<br><br>**TCG が「EXT」の場合**<br>外部タイムコードに同期したタイムコードをプリセットした初期値から記録するか、外部入力されたタイムコードをそのまま記録するかを選択する。<br>**PRESET（プリセット）**：外部タイムコードをそのまま記録する。<br>**REGEN（リジェネレート）**：外部タイムコードに同期したタイムコードをプリセットした初期値から記録する。<br>**ご注意**<br>TCG が「SDI」の場合は、常に外部入力されたタイムコードがそのまま記録されます。 |
| **F3**：RUN MODE（歩進モード） | TCG が「INT」、TC MODE が「PRESET」の場合に、内蔵タイムコードジェネレーターの歩進モードを選択する。<br>**REC RUN（レックラン）**：記録中のみタイムコードジェネレーターが歩進する。<br>**FREE RUN（フリーラン）**：電源がオンの間タイムコードジェネレーターが歩進する。 |
| **F4**：TC/VITC | タイムデータ表示部に表示するタイムコードの種類を選択する（TC または VITC）。 |
| **F5**：DF/NDF（システム周波数が 60I/30P/24P（プルダウン）時のみ） | ドロップフレームモード（DF）またはノンドロップフレームモード (NDF) を選択する。 |

# システムメニュー

システムメニューは、本機を使用目的 / 条件に応じてあらかじめセットアップするために使用します。メニューの設定は不揮発性メモリーに記憶されるため、電源を切っても消去されません。

システムメニューは、次の 5 つのメニューに分類されます。
- セットアップメニュー（SETUP MENU）
- TC プリセットメニュー（TC PRESET）
- ディスクメニュー（DISC MENU）
- 日付 / 日時プリセットメニュー（DATE/TIME PRESET）
- デジタル時間計メニュー（HOURS METER）

この章では、セットアップメニューとディスクメニューについて説明します。

◆ 日付 / 日時プリセットメニューについては、第 2 章の「日付と時刻を設定する」（28 ページ）をご覧ください。

◆ デジタル時間計メニューについては、付録の「定期点検」（78 ページ）をご覧ください。

## セットアップメニュー / ディスクメニューを表示する

メニューは、モニター画像表示部とタイムデータ表示部に表示されます。また、外部モニターを接続して、モニター画面にスーパーインポーズすることもできます。

**1** MENU ボタンを押す。

システムメニューが表示されます。

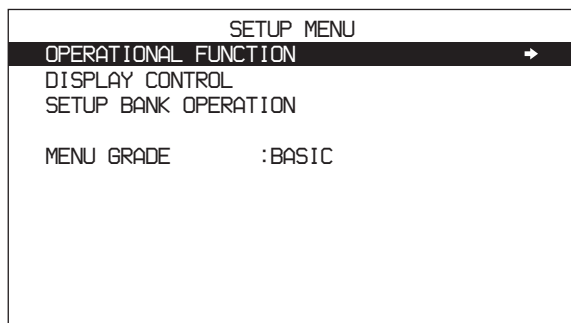
モニター画像表示部および外部モニター画面はシステムメニュー全体が表示されます。
タイムデータ表示部には選択されている（反転表示されている）行だけが、小文字や略称で表示されます。

**2** ⬆/MARK1 または⬇/MARK2 ボタンを押して、SETUP MENU または DISC MENU を選択する。

**3** ➡/OUT ボタンを押す。

セットアップメニューまたはディスクメニュー（75 ページ参照）が表示されます。

```
              SETUP MENU
  OPERATIONAL FUNCTION                  ➡
  DISPLAY CONTROL
  SETUP BANK OPERATION

  MENU GRADE        :BASIC
```

## セットアップメニュー

セットアップメニューは、3 つの階層で構成されています。第 1 層は全項目を大きく分類したもので、個々の設定項目は、MENU GRADE を除いて第 2 層以下にあります。設定項目は、通常の操作で必要な基本項目と、より高度な使いかたをするときに必要な拡張項目に分かれています。
出荷時には基本項目だけが表示されるように設定されています。拡張項目を表示するには MENU GRADE の設定を変更します。

## セットアップメニューの内容

次表に、セットアップメニューの各項目の目的と設定内容を示します。

- [ ] 内に示す文字や記号は、タイムデータ表示部での表示です。
- ＊（アスタリスク）が付いている設定 ( たとえば「＊ EE」) は、工場出荷時の設定です。

| **OPERATIONAL FUNCTION [Operational]：本機の動作に関する設定** | | **設定内容** |
|---|---|---|
| **LOCAL ENABLE [> Local ENA]**：リモートコントロールスイッチが「REMOTE」に設定されているときでも本機で操作できるボタンを選択する。 | | **ALL DISABLE [>> All DIS]**：記録 / 再生コントロール部のボタンと EJECT ボタンを操作できない。<br>＊ **STOP & EJECT [>> STOP&EJ]**：STOP ボタンと EJECT ボタンのみ操作できる。<br>**ALL ENABLE [>> All ENA]**：記録 / 再生コントロール部のボタン全部と EJECT ボタンを操作できる。また、プリロールタイムの設定やタイムデータの選択も本機で行うことができる。 |
| **REC FORMAT [> REC format]**：記録フォーマット（MPEG-2 の圧縮方式）を選択する。 | | **HQ [>> HQ]**：35Mbps<br>＊ **SP [>> SP]**：25Mbps<br>**LP [>> LP]**：18Mbps |
| **DISC END [> Disc End]**：記録中にディスクの空き容量がなくなったときの本機の動作を選択する。 | | **GOTO TOP [>> GOTO TOP]**：ディスクトップへ移動する。<br>**END STOP [>> END STOP]**：ディスクエンドで停止する。<br>＊ **EJECT [>> EJECT]**：ディスクを自動的にイジェクトする。 |
| **CLIP TITLE [> Clip Title]**：クリップのタイトルを設定する。 | **AUTO TITLE [>> AT Title]**：クリップにタイトルを付けるかどうかを選択する。 | ＊ **DISABLE [>>> DISABLE]**：付けない。<br>**ENABLE [>>> ENABLE]**：付ける。 |
| | **TITLE [>> Title]**：任意のタイトルを設定する。 | CLIP AUTO TITLING（自動クリップタイトル）画面が表示される。<br><br>◆詳しくは、第 4 章の「クリップに任意のタイトルを付けるには」（48 ページ）をご覧ください。 |
| **FILE NAMING [> File Name**：クリップ / クリップリストのファイル名の設定 | **NAMING FORM [>> Name Form]**：クリップ / クリップリストのファイル名の形式を選択する。 | ＊ **C**** [>>> C****]**：標準名形式<br>**free [>>> free]**：任意名形式を可能とする。 |
| | **AUTO NAMING[>> AT Naming]**：記録時に生成するファイル名方式を選択する。 | ＊ **C**** [>>> C****]**：標準名形式<br>**title [>>> title]**：クリップのタイトルと同じ名前を付ける。 |

| OPERATIONAL FUNCTION [Operational]：本機の動作に関する設定 | | 設定内容 |
|---|---|---|
| SYSTEM SEL [> System Sel]：システム周波数と使用地域を選択する。<br>**ご注意**<br>いずれかのサブ項目の設定を変更したときは、本機の電源をいったんオフにしてから、再度電源を入れてください。ここで行った設定に対応してセットアップメニュー全体の初期設定状態が変更されます。 | SYSTEM FREQ [>> Sys Freq]：システム周波数を選択する。 | ＊ 60I [>>> 60i]：59.94i<br>50I [>>> 50i]：50i<br>30P [>>> 30P]：29.97P<br>25P [>>> 25P]：25P |
| | UC/J [>> UC/J]：使用地域を選択する。 | UC [>>> UC]：日本以外の地域向け<br>＊ J [>>> J]：日本国内向け |
| VAR SPD LIMIT [> VAR limit]：バリアブル再生の速度範囲を設定する。 | | ＊ OFF [>> OFF]：－1～+2 倍速<br>ON [>> ON]：0～+1 倍速 |
| ASM POSTROLL [> Postroll]: アッセンブル編集の実行時、ポストロール記録をするかしないかを設定する。 | | OFF [>> OFF]：ポストロール記録をしない。<br>＊ ON [>> ON]：ポストロール記録をする。 |

| DISPLAY CONTROL [Display]：本機のディスプレイと外部モニターの表示に関する設定 | 設定内容 |
|---|---|
| SUB STATUS [> Sub status]：モニター画像表示部および外部モニター画面に表示するサブ情報の内容を選択する。 | ＊ OFF [>> OFF]：サブ情報は出力しない。<br>TC MODE [>> TC mode]：内蔵タイムコードジェネレーターの動作状態<br>REMAIN [>> Remain]：ディスクの空き容量（分単位）<br>CLIP NO [>> Clp No]：クリップ番号<br>PLAYBACK REMAIN [>> PB remain]：現在の再生位置から最終記録位置までの時間をタイムデータ形式で表示する。<br>◆「OFF」以外の設定にしたときに表示される内容については、第 2 章の「サブ情報を表示する」（31 ページ）をご覧ください。 |
| BRIGHTNESS [> Brightness]：ディスプレイの明るさを調整する。 | LCD BRIGHTNESS（LCD の明るさ設定）画面が表示される。<br>工場出荷時：＊ 55<br><br>◆明るさの調整方法については、第 2 章の「ディスプレイ画面の明るさを調整する」（28 ページ）をご覧ください。 |
| ALARM [> ALARM]：警告メッセージを表示するかどうかを選択する。 | OFF [>> OFF]：基本的に警告メッセージを表示しない。ただし、重要な警告についてはメッセージを表示する。<br>ON(LIMITED) [>> ON(Limit)]：必要最小限の警告メッセージを表示する。<br>＊ ON [>> ON]：すべての警告メッセージを表示する。 |
| HD CHARA [> HD cha]：ファンクションメニュー P1 ページの CHAR SEL が「ON」に設定されているとき、HD 出力への文字情報スーパーインポーズを強制的にオフにするかどうかを設定する。 | OFF [>> OFF]：文字情報のスーパーインポーズを強制的にオフにする。<br>＊ FUNCTION MENU [>> F-MENU]：文字情報のスーパーインポーズを強制的にオフにしない。（ファンクションメニューの CHAR SEL の設定が優先する。） |

| VIDEO CONTROL [Video]：ビデオコントロールに関する設定 | 設定内容 |
|---|---|
| FRAME PB [> Frame PB]：ビデオ出力の静止画をフィールド画またはフレーム画のどちらで出力するかを選択する。 | ＊ AUTO [>> AUTO]：インターレース時はフィールド画を、プログレッシブ時はフレーム画を出力する。<br>FRAME [>> FRAME]：常にフレーム画を出力する。 |

| VIDEO CONTROL [Video]：ビデオコントロールに関する設定 | | 設定内容 |
|---|---|---|
| DOWN CONVERTER [> Down conv]：ダウンコンバーターを設定する。 | CONV MODE [>> Conv mode]：変換モードを選択する。<br>**ご注意**<br>記録中は、自動的に「SQEEZE」（スクイーズモード）が選択されます。 | * EDGE CROP [>>> Edge Crop]：エッジクロップモード<br>LETER BOX [>>> LetterBox]：レターボックスモード<br>SQEEZE [>>> Squeeze]：スクイーズモード |
| | DETAIL GAIN [>> Detail]：ダウンコンバーターのイメージエンハンサーのゲインレベルを選択する。 | * LOW [>>> Low]：低<br>MID [>>> Mid]：中<br>HIGH [>>> High]：高 |
| | CROSS COLOR [>> Cross col]: クロスカラー調整機能のオン / オフを設定する。 | * OFF [>>> OFF]：クロスカラーに関してイメージエンハンサーをデフォルト設定にする。<br>ON [>>> ON]：イメージエンハンサーを、クロスカラーが少なくなる設定にする。 |

| AUDIO CONTROL [Audio]：オーディオコントロールに関する設定 | | 設定内容 |
|---|---|---|
| REC MODE [> REC mode]：オーディオ記録モードを設定する。 | | * 4ch × 16bit [>> 4ch/16bit]：4 チャンネル、48kHz モード<br>2ch × 16bit [>> 2ch/16bit]：2 チャンネル、48kHz モード |
| LEVEL SELECT<br>[> Level Sel] | REF LEVEL [>> REF Level]：ディスクに記録するオーディオの基準レベル ( ヘッドルーム ) を設定する。 | *－ 20dB [>>> － 20dB]<br>－ 18dB [>>> － 18dB]<br>－ 16dB [>>> － 16dB]<br>－ 12dB [>>> － 12dB] |
| | CH1 IN LEVEL [>> CHI input]：AUDIO INPUT 1/3 端子へ入力するオーディオのレベルに応じて設定する。 | * +4dB [>>> +4dB]<br>0dB [>>> 0dB]<br>－ 3dB [>>> － 3dB]<br>－ 6dB [>>> － 6dB] |
| | CH2 IN LEVEL [>> CH2 input]：AUDIO INPUT 2/4 端子へ入力するオーディオのレベルに応じて設定する。 | |
| | OUTPUT LEVEL [>> Out Level]：アナログオーディオ出力信号の基準レベルを設定する。 | |
| DV OUT MODE [> DV out mod]：i S400 端子のオーディオ出力モードを選択する。 | | 4ch [>> 4ch]：12 bit/32 kHz/4ch<br>* 2ch [>> 2ch]：16 bit/48 kHz/2ch |

| INTERFACE SELECT [Interface]:インターフェースの選択に関する操作 | 設定内容 |
|---|---|
| D-SUB OUTPUT [> D-SUB Out]：MONITOR 端子から出力する信号フォーマットを選択する。 | XGA(SYSTEM) [>> XGA(SYS)]：XGA モニター出力（システム周波数対応）にする。<br>* XGA(60Hz) [>> XGA(60Hz)]：XGA モニター出力（60Hz 固定）にする。<br>YPbPr [>> YPbPr]：コンポーネント Y/R － Y/B － Y 出力にする。 |
| AUDIO OUTPUT [> Audio Out]：AUDIO OUTPUT 1/3、2/4 端子から出力するチャンネルを選択する。 | * CH1/CH2 [>> CH1/CH2]：1/3 端子に CH-1、2/4 端子に CH-2 を出力する。<br>CH3/CH4 [>> CH3/CH4]：1/3 端子に CH-3、2/4 端子に CH-4 を出力する。 |

| INTERFACE SELECT [Interface]:インターフェースの選択に関する操作 | 設定内容 |
| --- | --- |
| REMOTE I/F [> Remote I/F]：リモートコントロールスイッチが「REMOTE」に設定されているときに、どのようにリモートコントロールするかを選択する。 | i.LINK [>> i.LINK]：i S400 端子を使用する。<br>* 9PIN/RS-232C [>> 9P/232C]：リモート端子選択スイッチの設定に応じて REMOTE(9P) 端子と RS232C 端子のいずれかを使用する。<br>9PIN(PARA) [>> Para Run]：REMOTE(9P) 端子を使って本機を複数台接続し、1 台の親機からリモートコントロールする。 |
| BAUDRATE [> BaudRate]：RS232C 端子の通信速度（bps）を選択する。 | * 9600 [>> 9600]<br>19200 [>> 19200]<br>38400 [>> 38400]<br>57600 [>> 57600]<br>115200 [>> 115200] |
| i.LINK MODE [> i.LinkMode]：i S400 端子の接続方法を選択する。 | * AV/C [>> AV/C]：AV/C 接続<br>FAM(PC REMOTE) [>> FAM]：FAM 接続 |

| METADATA [Metadata]：メタデータの設定 | 設定内容 |
| --- | --- |
| INDEX POSITION [> Index Pos]：記録時に、クリップのどのフレームの画像をサムネイル画（インデックスピクチャー）にするかを設定する。 | 0SEC [>> 0 sec] ～ 10SEC [>> 10 sec]：0 秒（クリップの先頭フレーム）～ 10 秒までを 1 秒単位で設定。<br>工場出荷時：* 0SEC |
| STORE OWNER [> Ownership]：UMID の所有権情報を作成する。 | STORED OWNERSHIP（UMID の所有権情報設定）画面が表示される。<br><br>◆詳しくは、付録の「UMID の所有権情報を設定するには」（91 ページ）をご覧ください。 |

| MENU GRADE [Menu grade]：表示させるメニュー項目の選択 | 設定内容 |
| --- | --- |
| メニュー操作時、モニター画像表示部とタイムデータ表示部に基本項目のみを表示させるか、拡張項目も表示させるかを選択する。 | * BASIC [>> Basic]：基本項目のみを表示する。<br>ENHANCED [>> Enhanced]：基本項目に加え、拡張項目も表示させる。 |



## セットアップメニューの操作

以下に、セットアップメニューの設定を変更するための操作方法を説明します。

### 設定変更に使用するボタン

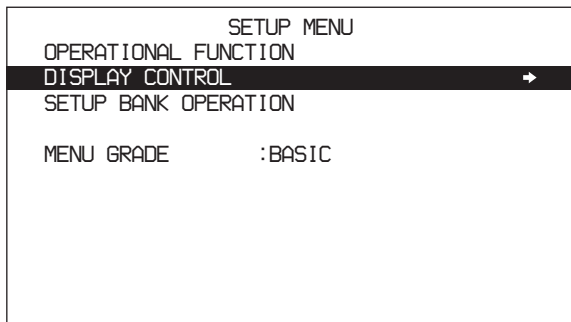
メニューの設定変更操作には、次のボタンを使います。

| メニュー操作ボタン | 働き |
| --- | --- |
| MENU ボタン | • メニューを表示する / 消す。<br>• 調整画面からメニュー画面に戻る。 |
| ↑/MARK1 ボタン<br>↓/MARK2 ボタン | 1 つの層の中で反転カーソルを上下に移動して、項目や設定を選択する。<br>押したままにすると、反転カーソルが移動し続ける。 |
| ←/IN ボタン<br>→/OUT ボタン | →/OUT ボタンで下層に移動する。<br>←/IN ボタンで上層に移動する。<br>押したままにすると、反転カーソルが移動し続ける。 |
| RESET ボタン | • 設定を工場出荷時の状態に戻す。<br>• 質問に対して「No」と答える。 |
| SET ボタン | • 変更後の設定をメモリーに保存する。<br>• 質問に対して「Yes」と答える。 |

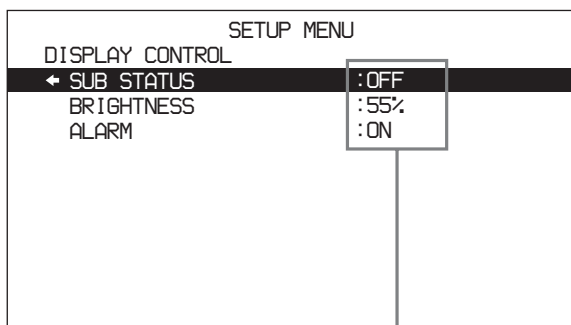
### 基本項目の設定を変更するには

工場出荷時は、セットアップメニューの基本項目だけが表示されるように設定されています。基本項目を変更するには、以下のようにします。

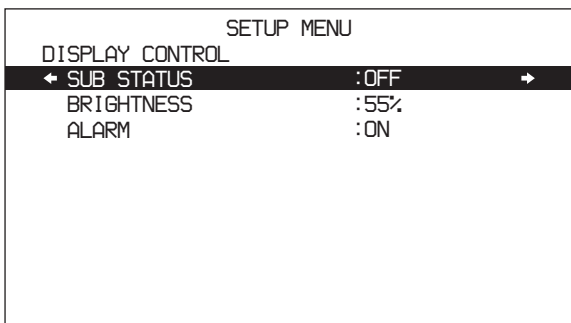
**1** ↑/MARK1 ボタンまたは ↓/MARK2 ボタンを押して、希望の項目を選択する。

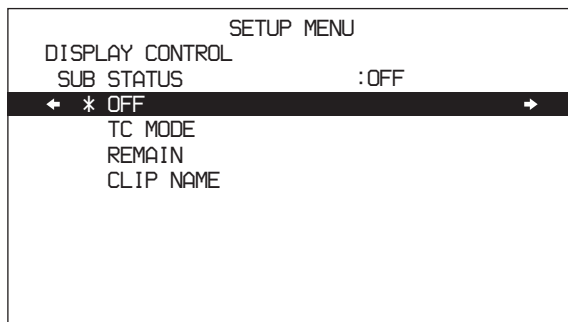
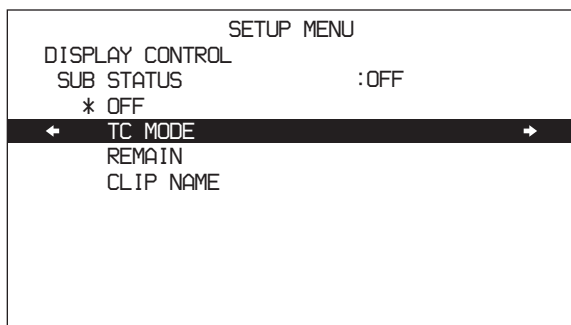
例：DISPLAY CONTROL を選択した場合の表示

**2** ➡/OUT ボタンを押す。

手順 **1** で選択したメニュー項目の第 2 層が表示されます。

例：DISPLAY CONTROL の第 2 層の表示

**3** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して、設定を変更する項目を選択する。

メニューが第 3 層までである場合は、➡/OUT ボタンを押して第 3 層へ進んでから、設定変更する項目を ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンで選択する。

例：SUB STATUS を選択した場合の表示

**4** ➡/OUT ボタンを押す。

手順 **3** で選択した項目のすべての設定が表示されます。

**5** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して、設定を変更する。

**6** さらに設定変更したい項目がある場合は、⬅/IN ボタンを押して前の画面に戻り、手順 **3** ～ **5** を繰り返す。

**7** すべての項目の設定変更が終わったら、SET ボタンを押す。

モニター画像表示部には「NOW SAVING...」、タイムデータ表示部には「Saving...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。
保存が終了すると、モニター画面とタイムカウンター表示部の表示は通常の状態に戻ります。

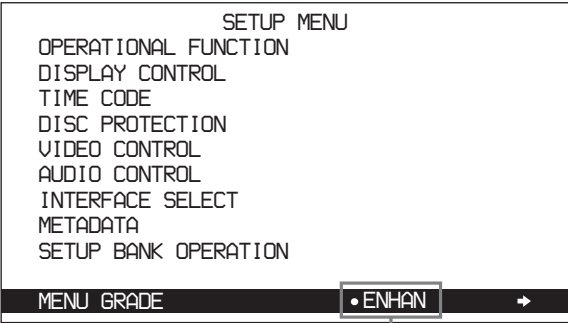
**ご注意**

- 保存中に本機の電源を切ると、設定データが失われることがあります。保存が完了するまで、電源を切らないでください。
- SET ボタンを押さずに MENU ボタンを押すと、新しい設定は保存されません。モニター画像表示部には「ABORT!」が、タイムデータ表示部には「Abort」が、それぞれ 0.5 秒間表示され、メニューは強制終了されます。複数の項目の設定を変更する場合は、すべての設定変更を終了した後に、必ず SET ボタンを押してください。

## メニュー画面の表示の意味

| 表示 | 意味 |
|---|---|
| 画面右端に表示される→<br>（72 ページの手順 **1** 参照） | ➡/OUT ボタンを押すことにより、1 つ下の階層のメニュー画面または設定選択画面に進む。 |
| 画面左端に表示される←<br>（73 ページの手順 **2** 参照） | ⬅/IN ボタンを押すことにより、1 つ前の（1 つ上の階層の）メニュー画面に戻る。 |
| 項目名の右側に表示される文字列 | そのメニュー項目の現在の設定<br>**「：」が付いているとき**：現在の設定が工場出荷時の設定と同じ (73 ページの手順 **2** 参照)。<br>**「・」が付いているとき**：現在の設定が工場出荷時の設定と異なっている ( 次項「拡張項目を表示するには」の図参照 )。 |
| 選択した項目のすべての設定が表示されているときの「＊」（73 ページの手順 **5** 参照 ) | 工場出荷時の設定 |

## 拡張項目を表示するには

拡張項目は、工場出荷時の設定のままでは表示されません。拡張項目を表示するときは、前項「基本項目の設定を変更するには」の手順に従って、メニュー項目 MENU GRADE の設定を「ENHANCED」にします。すなわち、「基本項目の設定を変更するには」の手順 **1** で MENU GRADE を選択した後、「ENHANCED」を選択し、SET ボタンで設定をメモリーに保存します。
いったんメニュー項目 MENU GRADE の設定を「ENHANCED」に設定すると、以降は、MENU ボタンと ➡/OUT ボタンを押してセットアップメニュー画面を表示したとき、第 1 層の基本項目と拡張項目のすべてが表示されます。

## 拡張項目の設定を変更するには

拡張項目の設定を変更するときは、あらかじめ前項の「拡張項目を表示するには」の設定を行ってから、次のように操作します。

**1** セットアップメニュー画面で、「基本項目の設定を変更する」の手順 **2** ～ **7** と同じ操作で、⬅/IN、➡/OUT、⬆/MARK1、⬇/MARK2 の各ボタンでメニュー項目を選択し、設定を変更する。

**2** すべての項目の設定変更が終わったら、SET ボタンを押す。

モニター画像表示部には「NOW SAVING...」、タイムデータ表示部には「Saving...」と表示され、変更した設定が本機のメモリーに保存されます。
保存が終了すると、モニター画像表示部とタイムデータ表示部からメニューの表示が消えます。

## メニューの設定を工場出荷時の設定に戻すには —設定の初期化

メニューの設定を変更したあと出荷時の設定に戻す ( 初期化する ) には、次のように操作します。

### 特定の項目の設定を初期化するには

その項目の設定を選択する画面で、RESET ボタンを押します。
たとえば、SUB STATUS の項目を初期値に戻すには、次のように操作します。
なお、「基本項目の設定を変更する」の手順 **5** （73 ページ）で、設定値が「TC MODE」に変更されているものとします。

**1** RESET ボタンを押す。

工場出荷時の設定である「OFF」が選択されます。

**2** SET ボタンを押す。

現在の設定値として保存されます。

### すべての項目の設定を初期化するには

**1** セットアップメニューを表示する。

**2** RESET ボタンを押す。

設定を初期化してよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。

| モニター画像表示部のメッセージ | すべての項目を工場出荷時の設定に初期化しますか？ |
|---|---|
| タイムデータ表示部のメッセージ | Init setup? |

**3** SET ボタンを押す。

モニター画像表示部には「NOW SAVING...」、タイムデータ表示部には「Saving...」と表示され、全項目の設

定が工場出荷時の状態に戻るとともに、出荷時の設定が本機のメモリーに保存されます。

**ご注意**

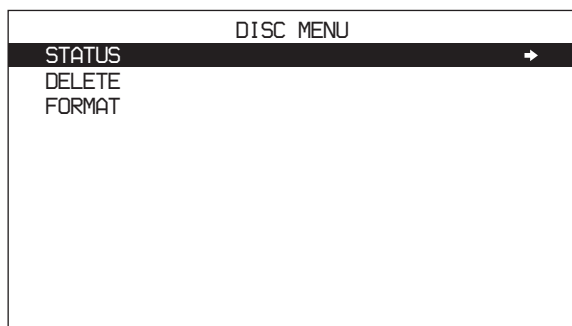
設定の保存中に本機の電源を切ると、初期化が確実に行われないことがあります。保存が完了するまで電源を切らないでください。

#### 初期化を中止するには

SET ボタンの代わりに、RESET ボタンを押します。初期化が行われずにセットアップメニュー第 1 層の画面に戻ります。

## ディスクメニュー

ディスクメニューは、ディスク内のデータを削除したり、ディスクをフォーマットするときに使用します。

◆ ディスクメニューを表示する方法については、「セットアップメニュー / ディスクメニューを表示する」（68 ページ）をご覧ください。

ディスクメニューの内容は次のとおりです。[ ] 内は、タイムデータ表示部での表示です。

#### STATUS [Status]

ディスクステータスまたはクリップステータスを表示します。

**DISC [> Disc]**：DISC STATUS（ディスクステータス）画面を表示する。

**CLIP [> Clip]**：CLIP STATUS（クリップステータス）画面を表示する。

**ご注意**

Proxy Browsing Software PDZ-1 では TITLE1 および TITLE 2 を書き込めますが、ここで表示されるのは TITLE1 のみです。

#### DELETE [Delete]

ディスクに記録されているクリップを削除します。

**LAST CLIP [> Last Clip]**：最後に記録したクリップを削除する。

**ALL CLIP [> All Clip]**：すべてのクリップを削除する。（General ディレクトリー内のクリップは削除されません。）

#### FORMAT [Format]

ディスクのフォーマットを実行します。

**QUICK FORMAT [>Quick Format]**：General ディレクトリーの内容も含めてディスク内のすべてのデータが消去されます。

## ディスクメニューの操作

### ディスクステータス / クリップステータスを表示するには

ディスクを挿入し、次のように操作します。

**1** ディスクメニューを表示する（68 ページ参照）。

**2** ⬆/MARK1 ボタンまたは ⬇/MARK2 ボタンを押して、STATUS を選択する。

**3** ➡/OUT ボタンを押す。

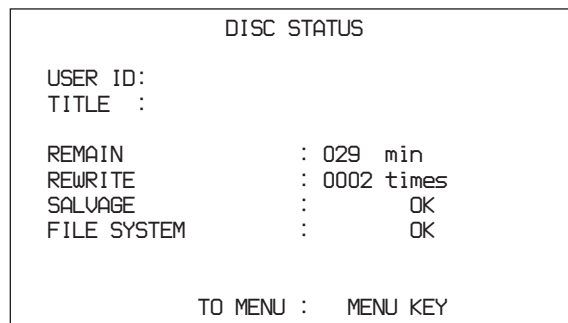
**4** DISC または CLIP を選択して ➡/OUT ボタンを押す。

DISC を選択すると、挿入されているディスクステータスが表示されます。

```
                DISC STATUS

USER ID:
TITLE  :

REMAIN              : 029  min
REWRITE             : 0002 times
SALVAGE             :        OK
FILE SYSTEM         :        OK


          TO MENU :   MENU KEY
```

CLIP を選択すると、現在位置のクリップステータスが表示されます。

```
CLIP STATUS

CLIP LIST MODE

CLIP LIST NEME:      E0001
TITLE:               E0001
RECORD DEVICE:     PDW-F70
       SERIAL:       10001
       DATE  :     06/3/02
       TIME  :    19:54:38

     TO MENU :    MENU KEY
```

再生またはサーチによってクリップが切り換わると、そのクリップのステータス表示に切り換わります。

**1つ上の階層に戻るには**

MENU ボタンを押します。

**メニューを消すには**

MENU ボタンを2回押します。

## 最終クリップを削除するには

**ご注意**

最終クリップがロックされている場合でも、以下の操作によって削除されます。

次のように操作します。

**1** ディスクメニューを表示する（68 ページ参照）。

**2** 🡅/MARK1 ボタンまたは 🡇/MARK2 ボタンを押して、DELETE を選択する。

**3** ➡/OUT ボタンを押す。

削除されるクリップの名称が表示されます。

**4** SET ボタンを押す。

削除が実行され、削除されたクリップの番号が表示されます。

**削除を実行しないで1つ上の階層に戻るには**

MENU ボタンを押します。

**メニューを消すには**

MENU ボタンを2回押します。

## すべてのクリップを削除するには

**ご注意**

以下の操作を実行すると、ロックしていないすべてのクリップが削除されます。

次のように操作します。

**1** ディスクメニューを表示する（68 ページ参照）。

**2** 🡅/MARK1 ボタンまたは 🡇/MARK2 ボタンを押して、DELETE を選択する。

**3** ➡/OUT ボタンを押す。

**4** ALL CLIP を選択して ➡/OUT ボタンを押す。

**5** 「ALL DELETE OK?」のメッセージが表示されたら、SET ボタンを押す。

削除が実行されます。

**削除を実行しないで1つ上の階層に戻るには**

RESET ボタンを押します。

**メニューを消すには**

MENU ボタンを押します。

## ディスクをフォーマットするには

◆ 第3章の「ディスクをフォーマットする」（33 ページ）をご覧ください。

# 付録

## 使用上のご注意

安全にご使用いただくために、「安全のために」（2 ページ）、「⚠警告」（6 ページ）、「⚠注意」（6 ページ）、「その他の安全上のご注意」（8 ページ）と併せてご覧ください。

### 取り扱い・保管上のご注意

#### 強い衝撃を与えない

内部構造や外観の変形などの損傷を受けることがあります。

#### 動作中は布などで包まないでください

内部の温度が上がり、故障することがあります。

#### 使い終わったら

オン / スタンバイスイッチをオフにしてください。
長時間使わないときは、さらに後面の POWER スイッチも切ってください。

#### 輸送

- ディスクは必ず取り出しておいてください。
- トラック、船、航空機など、本機を貨物として扱う輸送では、お買い上げ時の梱包材をご使用ください。

#### お手入れ

外装の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。ひどい汚れは、中性洗剤液を少し含ませた布で拭いた後、カラ拭きします。アルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品類は、表面が変質したり、塗料がはげることがありますので、使わないでください。

#### 万一、異常が生じたときは

お買い上げ店またソニーのサービス窓口にご相談ください。

### 使用場所・保管場所

水平な場所、空調のある場所に保管してください。
次のような場所での使用・保管は避けてください。

- 極端に寒い所、暑い所（使用温度は 5 ℃～ 40 ℃）。
  真夏、窓を閉め切った自動車内は 50 ℃を越えることがあります。
- 湿気・ほこりの多い所。
- 雨があたる所。
- 激しく振動する所。
- 強い磁気を発生するものの近く。
- 強力な電波を発生するテレビやラジオの送信所の近く。
- 直射日光が長時間当たる場所や暖房器具の近く。

#### 携帯電話などによる電波障害を防止するために

携帯電話などを本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、映像、音声などに影響を与えることがあります。
本機の近くでは、携帯電話などの電源はできるだけ切ってください。

### 液晶画面について

液晶画面は有効画素 99.99% 以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白、赤、青、緑の点が消えないことがあります。
この現象は故障ではなく、これらの点が記録されることはありませんので、安心してお使いいただくことができます。

## 結露について

本機を冷たい場所から暖かい場所へ移したり、湿気の多い場所で使用したりすると、空気中に含まれる水蒸気が、光学ピックアップに水滴となって付着することがあります。
これを結露といい、このような状態で本機を使用すると、記録・再生が正常に行われない可能性があります。
結露に対処する方法として、以下の点にご注意ください。

- 結露の可能性がある状況で本機を移動するときは、あらかじめディスクを挿入しておいてください。
- オン / スタンバイスイッチをオンにしたとき、ディスプレイに HUMID 表示が現れた場合は、表示が消えるまでディスクを入れることはできません。

# 定期点検

## デジタル時間計

デジタル時間計は、本機の動作の経過時間または回数を累積して表示します。定期点検の目安として、この時間計をご利用ください。なお、定期点検はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

### デジタル時間計を表示するには

デジタル時間計は、システムメニューのデジタル時間計メニューとして、モニター画像表示部とタイムデータ表示部に表示されます。また、本機に外部モニターを接続して、モニター画面にスーパーインポーズすることもできます（30 ページ）。

デジタル時間計メニューを表示するには、次のように操作します。

**1** MENU ボタンを押してシステムメニューを表示する。（68 ページ）

**2** ↑/MARK1 ボタンまたは ↓/MARK2 ボタンを押して HOURS METER（タイムデータ表示部では Hours Meter）を選択し、SET ボタンを押す。

```
              HOURS METER

H1            317/   317         HOURS
H2             22                HOURS
H3             92                HOURS
H4             92                TIMES
H5            114
           H1:OPERATION
           H2:LASER PARAMETER
           H3:SEEK RUNNING
           H4:SPINDLE RUNNING
           H5:LOADING COUNTER
```

#### デジタル時間計の表示内容

いずれの項目も、定期点検時や部品の交換時にリセットすることが可能です。リセットすることにより、次回の定期点検の目安になります。

◆ 表示のリセットについては、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

| 項目名（[ ] 内はタイムデータ表示部の表示） | 内容 |
|---|---|
| H1：OPERATION［Opr］（動作時間） | 本機に電源が投入されている時間を累積して 1 時間単位で表示する。 |
| H2：LASER PARAMETER［Lasr］（オプティカルヘッドの光出力時間） | オプティカルヘッドの光出力時間を累積して 1 時間単位で表示する。 |
| H3：SEEK RUNNING［Seek］（オプティカルヘッドのシーク動作時間） | オプティカルヘッドのシーク動作時間を累積して 1 時間単位で表示する。 |
| H4：SPINDLE RUNNING［Spdl］（スピンドルの回転時間） | スピンドルが回転している時間を累積して 1 時間単位で表示する。 |
| H5：LOADING COUNTER［Load］（ディスクの挿入回数） | ディスクの挿入回数を累積して表示する。 |

#### デジタル時間計の表示を消すには

MENU ボタンを押します。

付録

# トラブル時の対処

## アラーム表示

本機の設定やディスクの状態に適さない操作などが行われると、タイムデータ表示部にアラーム（警告）表示が現れます。また、モニター画像表示部や本機に接続した外部モニターの画面には、アラームのほかに対処法も表示されます。

REMOTE!

タイムデータ表示部の表示例

ALARM

REMOTE MODE です。

REMOTE/LOCAL/NETWORK
スイッチを LOCAL にして下さい。

モニター画像表示部の表示例

アラーム表示が現れたときは、対処法に従ってアラームの原因を取り除いてください。アラーム表示が消えないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。
なお、セットアップメニューの DISPLAY CONTROL >ALARM （70 ページ）の設定によっては表示されないアラームもあります。

◆ セットアップメニューの操作については、「システムメニュー」（68 ページ）をご覧ください。

### 電源投入時

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|---|
| MENU Ver.UP | SETUP MENU がバージョンアップされました。SETUP MENU を再設定してください。 | セットアップメニュー（68 ページ参照）を再設定する。 |
| ILL. SETUP! | SETUP MENU の設定値が異常です。SETUP MENU を再設定して下さい。再設定後も同様なメッセージが表示される場合はサービスにご連絡下さい。 | セットアップメニュー（68 ページ参照）を再設定する。再設定後も同様なメッセージが表示される場合はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。 |
| Exchg batt! | バッテリーの交換時期です。サービスにご連絡下さい。 | NVRAM バッテリーが消耗したときに表示される。お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。 |

### ディスク挿入時

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|---|
| Unknown FS! | 未対応のファイルシステムです。フォーマットまたは EJECT してください。 | フォーマットするかディスクを取り出す（33 ページ参照）。 |
| No FS! | ファイルシステムを検出できません。EJECT してください。 | ディスクを取り出す。 |
| ILL. Disc! | このディスクは使えません。PROFESSIONAL DISC をお使いください。 | プロフェッショナルディスクを使用する。 |
| Salvage NG! | クリップのサルベージができませんでした。 | 「記録を正常に終了できなかった場合のディスクの取り扱い（サルベージ機能）」（33 ページ）を参照する。 |

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|---|
| 525/60 Clip a) | このディスクは記録できません。<br>DVCAM NTSC 方式で記録されたクリップがあります。 | 別のディスクを使用する。 |
| 625/50 Clip a) | このディスクは記録できません。<br>DVCAM PAL 方式で記録されたクリップがあります。 | |
| 4CHx16 Clip a) | 4CHx16bit フォーマットで記録されたクリップがあります。<br>記録フォーマットを切り換えて下さい。 | セットアップメニューの AUDIO CONTROL >REC MODE の設定を変更する（71 ページ参照）。 |
| 2CHx16 Clip a) | 2CHx16bit フォーマットで記録されたクリップがあります。<br>記録フォーマットを切り換えて下さい。 | セットアップメニューの AUDIO CONTROL >REC MODE の設定を変更する（71 ページ参照）。 |
| No Support! | 未対応クリップがあるためこのディスクは記録再生できません。 | 未対応の記録フォーマットで記録されたディスクが挿入されたときに表示される。<br>MPEG HD または DVCAM フォーマットで記録されたディスクを使用する。 |
| ILL. Index! | インデックスファイルが異常です。<br>フォーマットまたは EJECT してください。 | フォーマットするかディスクを取り出す（33 ページ参照）。 |
| FORMAT NG! | 自動フォーマットできませんでした。 | ディスクをいったん取り出し、再度挿入するか、別のディスクを挿入する。 |
| DI read err | ディスク情報を確認できません。EJECT してください。 | |
| Read err | | |
| DRV ADJ err | ドライブの調整ができません。 | |

a) DISPLAY CONTROL >ALARM が「ON」または「LIMITED」のときのみ表示

## 前面パネル操作時

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|---|
| KEY INHI! a) | KEY INHIBIT です。 | KEY INH ボタン（SHIFT + DISPLAY）がオンの場合に表示される。<br>KEY INH ボタンをオフにする。 |
| REMOTE! a) | REMOTE MODE です。<br>REMOTE/LOCAL/NETWORK スイッチを LOCAL にして下さい。 | リモートコントロールスイッチを「LOCAL」に設定する。 |
| No Disc! a) | ディスクが入っていません。 | ディスクを挿入してから操作する。 |
| REC INHI! | ディスクの誤消去防止タブが SAVE にセットされています。 | ディスクの記録禁止タブを記録可の状態にする（32 ページ参照）。 |
| | REC INHIBIT です。 | ファンクションメニュー P1 ページの REC INH が「ON」になっている場合に表示される。<br>REC INH を「OFF」に設定する（67 ページ参照）。 |
| No Clip! b) | クリップがありません。 | クリップが記録されていないディスクに対して、再生、サーチに関するボタンを押した場合や削除を実行しようとした場合に表示される。<br>クリップが記録されているディスクを使用する。 |
| Disc Top! a) | DISC TOP です。 | ディスクトップで停止中に PREV ボタンを押したり、逆方向高速サーチを実行した場合に表示される。<br>順方向の再生やサーチを行う。 |
| Disc End! a) | DISC END です。 | ディスクエンドで停止中に NEXT ボタンを押したり、順方向高速サーチを実行した場合に表示される。<br>逆方向の再生やサーチを行う。 |

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|---|
| MAX # Files | これ以上は記録できません。クリップまたはGENERAL ファイルを消去してください。 | クリップまたは GENERAL ファイルを消去する。 |
| | これ以上のクリップリストは記録できません。ほかのクリップリストを消去してから実行してください。 | 不要なクリップリストを消去する。 |
| Disc Full! | ディスクの容量が不足しています。<br>クリップを消去してください。 | 不要なクリップを消去するか、空き容量が充分にあるディスクに交換する。 |
| MAX# SB CLP b) | これ以上はサブクリップを設定できません。 | サブクリップの登録数が 300 個に達している状態で、サブクリップを追加しようとすると表示される。<br>サブクリップは 300 個以内で作成する。 |
| CL OVER DUR b) | 24 時間以上のクリップリストは設定できません。 | クリップリスト上のサブクリップの総デュレーションが 24 時間に達している状態で、サブクリップを追加しようとすると表示される。<br>サブクリップは 24 時間以内で作成する。 |
| Run Salvage | サルベージを実行してください。 | 復元（サルベージ）が必要なディスクに対して、記録、E-E 画表示、エッセンスマークの記録、クイックシーンセレクションでのサブクリップの追加を行おうとすると表示される。<br>クリップのサルベージを実行してから操作する（33 ページ参照）。 |
| CNT mode! a) | COUNTER MODE です。COUNTER SELECT スイッチを TC または UB にして下さい。 | ファンクションメニュー P1 ページの CNTR SEL が「COUNTER」に設定されているときに、タイムコードまたはユーザービットをプリセットしようとすると表示される。<br>タイムコードまたはユーザービットを使用するときは、CNTR SEL を「TC」または「UB」に切り換える（67 ページ参照）。 |
| TC EXT! b) | TC EXTERNAL です。TCG MODE を INTERNAL にして下さい。 | ファンクションメニュー P2 ページの TCG を「EXT」、TC MODE を「PRESET」に設定して、タイムコードまたはユーザービットをプリセットしようとすると表示される。<br>TCG を「INT」に設定する（67 ページ参照）。 |
| REGEN mode! a) | TCG REGEN MODE です。TCG MODE を PRESET にして下さい。（FUNCTION MENU） | ファンクションメニュー P2 ページの TC MODE を「REGEN」に設定して、タイムコードまたはユーザービットをプリセットしようとすると表示される。<br>TC MODE を「PRESET」に設定する（68 ページ参照）。 |
| REC RUN! a) | TCG RUN MODE が REC RUN です。<br>TCG RUN MODE を FREE RUN にして下さい。<br>（FUNCTION MENU） | ファンクションメニュー P2 ページの RUN MODE を「REC RUN」に設定して、タイムコードまたはユーザービットをプリセットしようとすると表示される。<br>RUN MODE を「FREE RUN」に設定する（68 ページ参照）。 |
| REC mode! b) | 記録中はサムネイル表示できません。 | いったん記録を停止してから操作する。 |
| | 記録中は実行できません。 | |
| | 記録中は DRIVE MAINTENANCE を実行できません。 | |
| No SEL List b) | クリップリストが選択されていません。 | ディスク上のクリップリストがカレントクリップリストに読み込まれていない状態で SUB CLIP ボタンを押すと表示される。<br>クリップリストを読み込んでから操作する（60 ページ参照）。 |

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
| --- | --- | --- |
| No SUB CLIP [a] | カレントクリップリストにサブクリップがありません。 | カレントクリップリストにサブクリップが存在しないときに、再生操作ボタンを押すと表示される。<br>カレントクリップリストにサブクリップがない場合は再生不可。 |
| SB CLP mode [b] | SUB CLIP モードを解除してから実行してください。 | SUB CLIP ボタン点灯中に ESSENCE MARK ボタン（SHIFT ＋ THUMBNAIL）を押すと表示される。<br>SUB CLIP ボタンを押して消灯させてから操作する。 |
| SUB CLIP NG [b] | サブクリップが不正です。IN/OUT を再設定してください。 | IN 点 /OUT 点を再設定する。 |
| No List! [b] | クリップリストがありません。 | クリップリストが保存されていないディスクに対して、クリップリストを削除しようとしたときに表示される。<br>クリップリストが保存されているディスクを使用する。 |
| STOP ONCE! [b] | STOP にしてから実行して下さい。 | クリップリスト再生中に SUB CLIP ボタンを押すと表示される。<br>再生を停止してから操作する。 |
| No EM space | 前後にスペースが無いため、エッセンスマークを記録できませんでした。 | Proxy Browsing Software PDZ-1 を使用して、不要なエッセンスマークを削除する。 |
| EM Full! | これ以上はエッセンスマークを記録できません。 | |
| Disc Damage | このディスクは記録できません。記録する場合はディスクを交換してください。 | 別のディスクを使用する。 |
| NON-AV Full | これ以上は記録できません。クリップまたは GENERAL ファイルを消去してください。 | クリップまたは GENERAL ファイルを消去する。 |
| Index File! | 未対応のインデックスファイルです。このディスクには記録できません。 | 別のディスクを使用する。 |
| File System | このソフトウェアバージョンではこのディスクに記録できません。 | 再生は可能だが記録できないディスクを挿入すると表示される。<br>本機が対応可能なファイルシステムが書き込まれているディスクに交換する。または、ディスクをフォーマットする（33 ページ参照）。 |
| | このディスクのファイルシステムは記録不可に設定されています。 | |
| Loading! [a] | ローディング中です。 | ディスクのローディング中にボタンを押したとき表示される。<br>ローディングが完了してから操作する。 |
| Unloading! [a] | アンローディング中です。 | ディスクのアンローディング中にボタンを押したとき表示される。<br>アンローディングが完了してから操作する。 |

a) DISPLAY CONTROL >ALARM が「ON」のときのみ表示

b) DISPLAY CONTROL >ALARM が「ON」または「LIMITED」のときのみ表示

## 記録および編集操作時

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
| --- | --- | --- |
| Input Sig! [a] | 入力信号がシステム設定と合っていません。 | 本機のシステム周波数設定に対応しない信号が入力されると表示される。<br>システム周波数設定に対応した信号を入力するか、本機のシステム周波数設定を変更する（23 ページ参照）。 |

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|---|
| HD 60I/30P a) | このディスクは記録できません。<br>HD60I または HD30P 方式で記録されたクリップがあります。 | 本機のシステム周波数設定と挿入したディスクのシステム周波数設定が一致しない場合に表示される。<br>本機のシステム周波数設定に対応するディスクに変更するか、本機のシステム周波数設定を変更する（23 ページ参照）。 |
| HD 50I/25P a) | このディスクは記録できません。<br>HD50I または HD25P 方式で記録されたクリップがあります。 | |
| HD 23P Disc a) | このディスクは記録できません。<br>HD23.98P 方式で記録されたクリップがあります。 | |
| ILL. REF! a) | 入力信号が REF VIDEO と同期していません。<br>REF VIDEO に基準信号を接続するか REF OUT を再生機の REF IN に接続して下さい。 | 本機のシステム周波数に同期した基準信号を入力する。 |
| ILL. REC! a) | 入力信号を正常にエンコードできません。 | 本機に入力した信号を確認する。 |
| ILL. PLAY! a) | 正常に再生できません。 | 本機で再生するディスクを確認する。 |
| MEM. Full! a) | メモリー容量をオーバーしています。 | 本機で記録するディスクを確認する。 |
| MEM. Empty! a) | メモリーに再生データがありません。 | |
| Recording | ディスクに記録中です。 | 記録が終了するまで待つ。 |

a) DISPLAY CONTROL >ALARM が「ON」または「LIMITED」のときのみ表示

付録

## 再生時

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|---|
| 525/60 Disc [a)] | このディスクは再生できません。<br>HD50I または HD25P 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | 本機のシステム周波数設定と挿入したディスクのシステム周波数設定が一致しない場合に表示される。<br>本機のシステム周波数設定に対応するディスクに変更するか、本機のシステム周波数設定を変更する（23 ページ参照）。 |
| | このディスクは再生できません。<br>DVCAM PAL 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| 625/50 Disc [a)] | このディスクは再生できません。<br>HD60I または HD30P 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| | このディスクは再生できません。<br>DVCAM NTSC 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| HD 60I/30P [a)] | このディスクは再生できません。<br>HD50I または HD25P 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| | このディスクは再生できません。<br>DVCAM PAL 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| HD 50I/25P! [a)] | このディスクは再生できません。<br>HD60I または HD30P 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| | このディスクは再生できません。<br>DVCAM PAL 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| HD 23P Disc [a)] | このディスクは再生できません。<br>HD60I または HD30P 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| | このディスクは再生できません。<br>HD50I または HD25P 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| | このディスクは再生できません。<br>DVCAM NTSC 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| | このディスクは再生できません。<br>DVCAM PAL 方式の信号を記録したディスクをお使い下さい。 | |
| Disc Error! | ディスクの異常を検出しました。 | 別のディスクを使用する。 |

a) DISPLAY CONTROL >ALARM が「ON」または「LIMITED」のときのみ表示

## サムネイルサーチ / シーンセレクション / クリップリスト操作時

| モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|
| CANNOT EXPAND CLIP ANY FURTHER. | これ以上の分割数でのエクスパンド表示はできない。<br>このアラームは、分割数最大のエクスパンド表示時、あるいはエクスパンド・サムネイルのデュレーションが 1 フレームの状態で、さらに EXPAND ボタンが押されたときに表示される。 |
| SELECTED ESSENCE MARK DOES NOT EXIST. | 選択されたエッセンスマークはディスク上に存在しない。<br>このアラームは、エッセンスマークの選択画面で、ディスク上に記録されていないエッセンスマークが指定されたときに表示される。 |

| モニター画像表示部の表示 | 意味 / 対処法 |
|---|---|
| SUB CLIP IS INVALID.<br>SET APPROPRIATE<br>IN/OUT POINTS. | TRIM（60 ページ参照）によるクリップリストの編集において、設定された IN 点と OUT 点の時間関係が正しくない。<br>OUT 点のタイムコード値が ＩＮ 点のタイムコード値より大きくなるように設定し直す。 |
| DURATION OF ONE<br>CLIP LIST MUST BE<br>LESS THAN 24 HOURS., | カレントクリップリストの合計デュレーションが 24 時間を超えた。<br>このアラームは、サブクリップの ADD または TRIM（60 ページ参照）により、カレントクリップリストの合計デュレーションが上限である 24 時間を超えた場合に表示される。 |
| NO MORE SUB CLIPS<br>CAN BE ADDED TO<br>THE CLIP LIST. | カレントクリップリストの全サブクリップ数が上限を超えた。<br>このアラームは、サブクリップの ADD または TRIM（60 ページ参照）により、カレントクリップリストの合計数が上限である 300 を超えた場合に表示される。 |
| SUB CLIP DOES NOT<br>EXIST. | カレントクリップリストにサブクリップが存在しない。<br>このアラームは、サブクリップがない状態で MOVE、TRIM、DELETE、または TC PRESET（60 ページ参照）を実行しようとした場合に表示される。 |
| CLIP LIST DOES NOT<br>EXIST. | ディスク上にクリップリストが存在しない。<br>このアラームは、クリップリストがない状態で DELETE CLIP LIST（60 ページ参照）を実行しようとした場合に表示される。 |
| MOVE IS INVALID. | サブクリップの MOVE を行うことができない。<br>このアラームは、カレントクリップリストにサブクリップがない、または 1 つしかない状態で MOVE（60 ページ参照）を実行しようとした場合に表示される。 |
| REC INHI! | 記録禁止状態になっている。<br>このアラームは、記録禁止状態で、ディスクへの記録を要するコマンドを実行しようとした場合に表示される。 |
| DISC FULL! | ディスクの容量が不足している。<br>このアラームは、容量が不足した状態で、ディスクへの記録を要するコマンドを実行しようとした場合に表示される。 |
| SHOT MARK DOES NOT<br>EXIST. | 指定したクリップに SHOT MARK が記録されていない。<br>このアラームは、SHOT MARK が記録されていないクリップに対して、DELETE SHOT MARK を実行しようとした場合に表示される。 |
| REC START CANNOT<br>BE DELETED. | REC START は削除できない。<br>このアラームは、DELETE SHOT MARK の操作で、REC START を削除しようとした場合に表示される。<br>DELETE SHOT MARK では、SHOT MARK1、SHOT MARK2 のみを削除することができる。 |
| CLIP IS LOCKED. | クリップは LOCK（保護）されている。<br>このアラームは、LOCK されたクリップに対して、クリップ削除、代表画設定、SHOT MARK の削除を行おうとした場合に表示される。 |
| ALL CLIPS ARE LOCKED. | クリップはすべて LOCK（保護）されている。<br>このアラームは、すべてのクリップが LOCK された状態で LOCK ALL CLIPS を実行しようとした場合に表示される。 |
| ALL CLIPS ARE UNLOCKED. | クリップはすべて UNLOCK（保護解除）されています。<br>このアラームは、すべてのクリップが UNLOCK された状態で UNLOCK ALL CLIPS を実行しようとした場合に表示される。 |

## オーディオ / ビデオ信号に関するアラーム

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 対処法 |
|---|---|---|
| No INPUT! a) | INPUT VIDEO が検出できません。<br>VIDEO INPUT MODE を確認し INPUT VIDEO を入力して下さい。 | * ファンクションメニュー HOME ページの V INPUT の設定を確認する（66 ページ参照）。<br>* HDSDI 信号を入力する。 |
| EMPHASIS! a) | INPUT AUDIO のエンファシスに対応できません。<br>INPUT AUDIO のエンファシスを確認してください。 | オーディオ入力信号のエンファシスを確認する。 |

a) DISPLAY CONTROL >ALARM が「ON」のときのみ表示

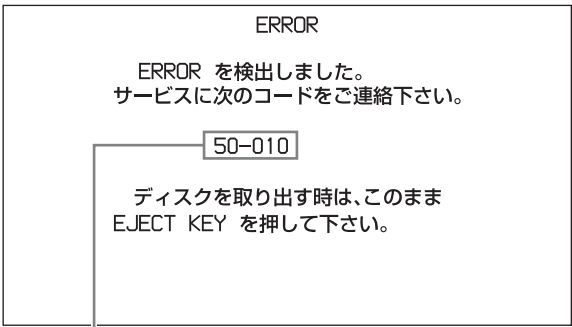
付録

## センサーおよびドライブに関するアラーム

| タイムデータ表示部のアラーム | モニター画像表示部の表示 | 対処法 |
|---|---|---|
| FAN Stopped | FAN の回転を検出できません。 | お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。 |
| DR-FAN Stop | ドライブの FAN の回転を検出できません。 | |
| High TEMP! | オーバーヒートを検出しました。 | **ご注意** 本機は動作しますが、このまま使用を継続すると本体内部またはドライブ内部の温度が上昇し、故障や火災につながる恐れがあります。 |
| | ドライブのオーバーヒートを検出しました。 | |

## エラー表示

主にハードウェアに起因する異常が発生すると、タイムデータ表示部にエラーコードが表示されます。また、モニター画像表示部と本機に接続したモニターには、エラーメッセージとエラーコードが表示されます。
エラーが発生したときは、エラーメッセージの指示に従ってください。

タイムデータ表示部の表示例

モニター画像表示部の表示例

## 電源が供給されない状態でディスクを取り出す

本機の電源が入らない状態でも、緊急の処置として手動でディスクを取り出すことが可能です。この作業は必ずサービストレーニングを受けた技術者が行ってください。

# i.LINK について

ここでは、i.LINK の規格や特長について説明します。

## i.LINK とは？

i.LINK は i.LINK 端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK 対応機器は、i.LINK ケーブル 1 本で接続できます。多彩なデジタル AV 機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数の i.LINK 対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作方法が異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

i.LINK（アイリンク）は IEEE1394 の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
IEEE1394 は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

**ご注意**

i.LINK ケーブル（DV ケーブル）で本機と接続できる機器は通常 1 台だけです。複数接続できる DV 対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

## i.LINK の転送速度について

i.LINK の最大データ転送速度は機器によって違い、以下の 3 種類があります。
S100（最大転送速度　約 100Mbps [1)]）
S200（最大転送速度　約 200Mbps）
S400（最大転送速度　約 400Mbps）

付録

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。
最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

#### 1） Mbpsとは？

「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

### 本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK（DV）対応機器と接続して使用する方法については、第2章をご覧ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書を併せてご覧ください。

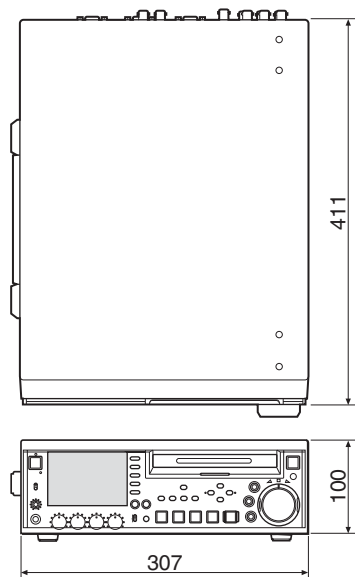
### 必要なi.LINKケーブル

ソニー製のi.LINKケーブルをお使いください。
6ピン ←→ 4ピン（DVダビング時）
6ピン ←→ 6ピン（DVダビング時）

i.LINKと i は商標です。

# 仕様

## 一般

外形寸法（最大突起含まず）
307mm（幅）× 100mm（高さ）× 411mm（奥行き）

| | |
|---|---|
| 質量 | 7.2kg |
| 電源 | AC100V、50/60Hz |
| 消費電力 | 70W |
| 動作温度 | 5 ～ 40 ℃ |
| 保存温度 | − 20 ～ + 60 ℃ |
| 動作湿度 | 25 ～ 80%（相対湿度） |
| 保存湿度 | 20 ～ 90% 以下 |

## システム

#### 記録フォーマット

| | |
|---|---|
| ビデオ | MPEG HD：HQ35/SP25/LP18 Mbps |
| プロキシビデオ | MPEG-4 1) |
| オーディオ | MPEG HD：16bit 48kHz 4/2ch |
| プロキシオーディオ | A-law 8bit 8kHz 4ch |

#### 再生フォーマット

| | |
|---|---|
| ビデオ | MPEG HD：HQ35/SP25/LP18 Mbps<br>DVCAM：25 Mbps |
| プロキシビデオ | MPEG-4 1) |
| オーディオ | MPEG HD：16bit 48kHz 4/2ch<br>DVCAM：16bit 48kHz 4ch |
| プロキシオーディオ | |

A-law 8bit 8kHz 4ch

1) MPEG-4 のコーデックは Ingenient Technologies, INC. の製品です。

#### 記録・再生時間（PFD23 使用時）

MPEG HD

| モード | オーディオ 4ch | オーディオ 2ch |
|---|---|---|
| HQ モード（VBR35Mbps） | 65 分以上 | 68 分以上 |
| SP モード（CBR25Mbps） | 約 85 分 | 約 90 分 |
| LP モード（VBR18Mbps） | 112 分以上 | 122 分以上 |

DVCAM（再生のみ）
85 分

#### サーチスピード

JOG モード　－ 1 ～＋ 2 倍速
VAR モード　－ 1 ～＋ 2 倍速
SHUTTLE モード
－ 20 ～＋ 20 倍速
FFWD モード　＋ 20 倍速
FREV モード　－ 20 倍速

### ビデオ特性

サンプリング周波数
Y：74.25MHz
R–Y/B–Y：37.125MHz
量子化特性　8bit/ サンプル
コンプレッション
MPEG-2 MP@HL

#### コンポジット出力特性（DV 再生による）

周波数特性　50I：0 ～ 4.8MHz ＋ 1.0dB/ － 3.0dB
60I：0 ～ 4.2MHz ＋ 1.0dB/ － 3.0dB
S/N (Y)　53dB 以上
Y/C ディレイ　± 25nsec
K ファクター (K2T)
2.0% 以下

### オーディオ特性

サンプリング周波数
48kHz
量子化特性　16bit/2ch
16bit/4ch
ヘッドルーム　20/18/16/12dB（選択可能）
周波数特性　20Hz ～ 20kHz ＋ 0.5dB/ － 1.0dB（0dB、1kHz）
ダイナミックレンジ
90dB 以上
ひずみ率　0.05% 以下（1kHz）

### 入力端子

#### デジタル入力

HDSDI INPUT　BNC × 1、SMPTE 292M 準拠
SDSDI INPUT（オプション PDBK-104 装着時）
BNC × 1、SMPTE 259M 準拠
i.LINK(HDV 1080i)（オプション PDBK-102 装着時）
6 ピン× 1 、IEEE1394 準拠

#### アナログビデオ入力

REF VIDEO INPUT
BNC × 2（ループスルー）、HD 3 値シンクまたは SD コンポジットシンク（0.3Vp-p/75Ω/ 同期負）
COMPOSITE VIDEO INPUT（オプション PDBK-104 装着時）
BNC × 1
HD COMPONENT VIDEO INPUT（オプション PDBK-103 装着時）
BNC × 4

#### アナログオーディオ入力

AUDIO INPUT 1/3、2/4
XLR 3 ピン 凹× 2、＋ 4/0/ － 3/ － 6dBu（選択可能）/10kΩ/ 平衡

#### デジタルオーディオ入力

DIGITAL AUDIO（AES/EBU）INPUT
BNC × 2、1/2ch、3/4ch、AES-3id-1995 準拠

#### タイムコード入力

TIME CODE IN
BNC × 1、SMPTE タイムコード、0.5 ～ 18Vp-p/3.3kΩ/ 不平衡

### 出力端子

#### デジタル出力

HDSDI OUTPUT
BNC × 2、SMPTE 292M 準拠
SDSDI OUTPUT
BNC × 1、SMPTE 259M 準拠
i.LINK(HDV 1080i)（オプション PDBK-102 装着時）
6 ピン× 1 、IEEE1394 準拠

#### アナログビデオ出力

COMPOSITE OUT
BNC × 1、1.0Vp-p/75Ω/ 同期負

ピンジャック×1、1.0Vp-p/75Ω/同期負

MONITOR OUT
D-sub 15ピン×1、RGBまたはYPbPr切り換え

### アナログオーディオ出力

AUDIO OUTPUT 1/3、2/4
XLR 3ピン、凸×2、+4/0/−3/−6dBu（選択可能）/600Ω負荷/平衡

AUDIO MONITOR
ピンジャック×2、−∞〜+1dBu/47kΩ/不平衡、L/R/L+R切り換え

PHONES　ステレオ標準ジャック×1、−∞〜−14dBu/8Ω/不平衡

### デジタルオーディオ出力

DIGITAL AUDIO (AES/EBU) OUTPUT
BNC×2、1/2ch、3/4ch、AES-3id-1995準拠

### タイムコード出力

TIME CODE OUT
BNC×1、SMPTEタイムコード、2.2Vp-p ± 3.0dB/600Ω/不平衡

## コントロール端子

REMOTE(9P)　D-sub 9ピン凹×1、RS-422A準拠
RS232C　D-sub 9ピン凸×1
S400　6ピン×1、IEEE1394準拠
CONTROL　ミニジャック（4極）×1、RM-LG2接続用
ネットワーク（オプションPDBK-101装着時）
RJ-45型×1
1000Base-T：IEEE802.3ab準拠
100Base-TX：IEEE802.3u準拠
10Base-T：1EEE802.3準拠

## 付属品

縦置き用スタンド（2）
取扱説明書
　日本語版（1）
　英語版（1）
　CD-ROMマニュアル（1）
保証書（1）
赤外線リモートコマンダー（1）
フェライトコア（サービスパーツ番号：1-500-824-2X）（4）
Proxy Browsing Software PDZ-1（1）

## 別売りアクセサリー

電源コード（125V/7A、2m（サービスパーツ番号：1-791-041-12））
3極→2極変換プラグ（サービスパーツ番号：1-793-461-12）
プロトコルマニュアル（サービスパーツ番号：9-968-083-0X）
ネットワークボードPDBK-101
MPEG-TS Input/OutputボードPDBK-102
アナログHD入力ボードPDBK-103
SD入力アップコンバーターボードPDBK-104

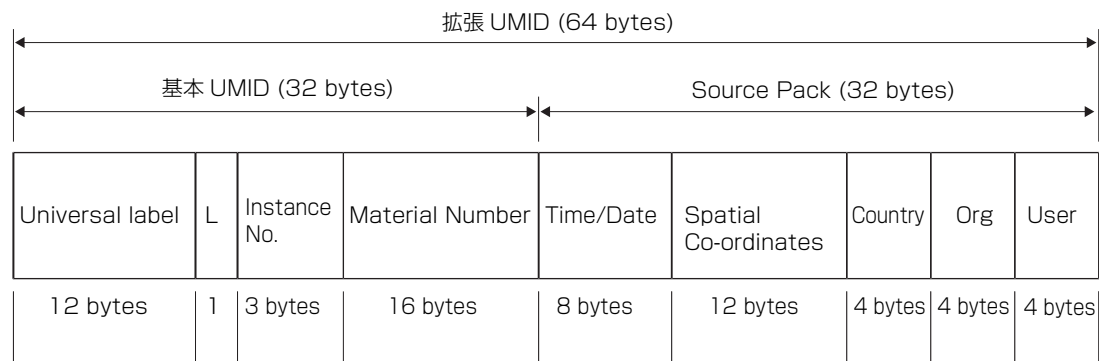
仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

# UMID データについて

取材から編集に至る操作の効率化を図り、素材を再利用する際に検索しやすくするために、記録する際、音声および映像に加え、メタデータ（Metadata）と呼ばれる付随情報をディスクに記録し、運用することがあります。
そのメタデータの具体的な応用として、UMID が規格化されています。

## UMID とは

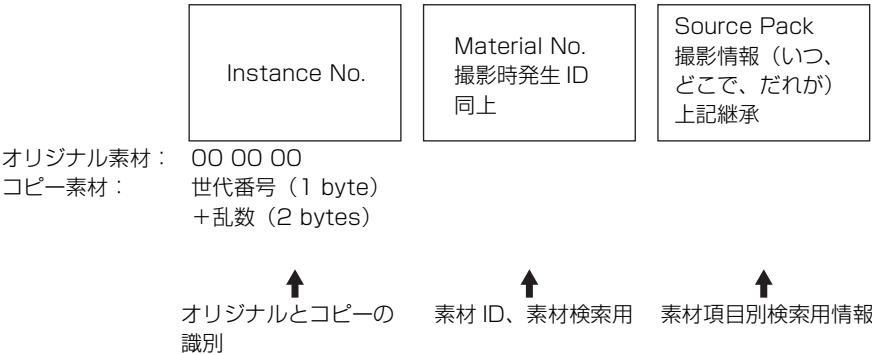
UMID（Unique Material Identifier）は、メタデータを画像、音声、データごとに識別子（ID）を付けて識別するためにSMPTE330M-2003 で定められた規格です。
UMID には、基本 UMID（Basic UMID）32 バイトとSource Pack を加えた拡張 UMID（Extended UMID）64 バイトがあります。
詳しくは、SMPTE330M を参照してください。

本機では、クリップごとに、ID が自動的に記録されます。
拡張 UMID は、基本 UMID に加え、日時、会社 ID などの情報を付加できるメタデータセットです。

実際の運用では、次図のように利用されます。

Material No.
撮影時発生 ID
同上

Source Pack
撮影情報（いつ、どこで、だれが）
上記継承

オリジナル素材：　00 00 00
コピー素材：　世代番号（1 byte）＋乱数（2 bytes）

オリジナルとコピーの識別　　素材 ID、素材検索用　　素材項目別検索用情報

### 拡張 UMID を使用するには

使用者が、国名コード、組織コード、ユーザーコードを入力する必要があります。
国名コードは ISO-3166 表から選択し、組織コードとユーザーコードは、独自に設定します。

◆ 詳しくは、「UMID の所有権情報を設定するには」（91 ページ）をご覧ください。

### UMID データの記録によって可能になる機能

UMID データを記録することにより、以下のことができるようになります。

- クリップごとにグローバルユニークな ID が映像に付加されます。その ID を利用して素材の検索、オリジナル素材とのリンクができるようになります。
- ID により、その映像がオリジナルかコピーかの識別ができます。オリジナル映像には、Instance Number に 00 が記録されています。
- 協定世界標準時で記録しているため、全世界で撮影される素材の時系列による一元管理ができます。
- MJD（準ユリウス暦）で記録しているため、素材間の日差を簡単に計算できます。

## UMIDの所有権情報を設定するには

次のように操作します。

**1** セットアップメニューのMETADATA >STORE OWNERを選択する（72ページ参照）。

STORED OWNERSHIP（UMIDの所有権情報設定）画面が表示されます。

```
STORED OWNERSHIP

COUNTRY          _
ORGANIZATION     _
USER             _

SHIFT: (←)(↑)(↓)(→)KEY
INC/DEC: JOG DIAL
TO MENU: MENU KEY
```

**COUNTRY**：国名コード
**ORGANIZATION**：組織コード
**USER**：ユーザーコード

◆ 各項目について詳しくは、次項「UMIDの所有権情報について」（91ページ）をご覧ください。

**2** 矢印ボタンとジョグダイヤルを使って、所有権情報を設定する。

**矢印ボタン**：設定したい項目と文字の入力位置を選択する（点滅させる）。
**ジョグダイヤル**：選択した位置に入力する文字を選択する。
**RESETボタン**：入力した内容をすべて消去する。

**所有権情報の設定を中止するには**

MENUボタンを押します。

**3** SETボタンを押す。

「NOW SAVING...」のメッセージが表示され、設定した所有権情報が保存されます。

◆ セットアップメニューの操作について詳しくは、第5章の「システムメニュー」（68ページ）をご覧ください。

## UMIDの所有権情報について

### COUNTRY（国名コード）

国名コードとして、ISO-3166-1で定義している短縮文字（4バイトのアルファベット文字列および数字）を入力します。
国名は、約240種類あります。
自国の文字列はホームページでご覧ください。
ISO-3166-1参照：http://www.din.de/gremien/nas/nabd/iso3166ma/codlstp1/en_listp1.html

国名コードが4バイト未満の場合、4バイトの最初から書いて残った部分をスペースキャラクター（20h）で埋めます。）
例：国名が日本の場合（2文字の場合は「JP」、3文字の場合は「JPN」になります。）
国名コードが2文字の場合は、次のように入力します。
JP_ _
3文字の場合は、次のように入力します。
JPN_
（「_」は、スペースを示す。）

### ORGANIZATION（組織コード）

組織コードとして、各組織で運用する組織コード（4バイトのアルファベット文字列および数字）を入力します。

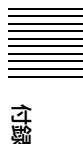
**ご注意**

- 組織コードを設定しなくても、映像・音声の記録再生に支障はありません。
- 組織コードはSMPTE登録局に申請して、初めて使用できるものです。
  取得していない場合は、入力せずに「00」で埋めることを原則とし、任意の文字列を入れるのは禁則としています。特定の組織に属さないフリーランスの場合に「~」を用います。

### USER（ユーザーコード）

ユーザーの識別用に4バイトのアルファベット文字列および数字が入力できます。
ユーザーコードは、各々の組織においてローカルに登録されます。一般的に登録はされません。
ユーザーコードが4バイト未満の場合、4バイトの最初から書いて残った部分をスペースキャラクター（20h）で埋めます。
運用の方法は、ユーザーに任されています。

**ご注意**

組織コードを入力していない場合は、ユーザーコードを入力できません。

# MPEG-4 Visual Patent Portfolio License について

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている MPEG-4 Visual Patent Portfolio License の下、次の用途に限りライセンスされており、その他の用途に関してはライセンスされていません。

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual 規格に合致したビデオ信号（以下、MPEG-4 Video といいます）にエンコードすること。

(ii) MPEG-4 Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、もしくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

プロモーション、営利目的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ <http://www.mpegla.com> を参照してください。

# 保証書とアフターサービス

## 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

## アフターサービス

**調子が悪いときはまずチェックを**

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

**それでも具合が悪いときは**

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

**保証期間中の修理は**

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

**保証期間経過後の修理は**

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店、またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/